

書法拔萃

星野



特別
子6
4520





名家全言

(筆道秘笈傳)

一 執筆相曰

執法不度身為書奴

一 漢帝魏太祖曰 初學先大書不得從小

一 又曰 多肉微骨者謂之墨猪

一 又曰 点画直一身之力書

一 漢帝諸名家論魏太祖曰 意前筆後者必勝

一 執筆曰 筋骨不立而肉何所附

一 曰 小寬令大大促令小

一 右輔(元意) 諸名家說 執筆之法 實指虛拳

一 曰 運筆之法 意在筆前



蕭子雲曰 大緩無筋大急無肉

宋黃魯直曰 強低弱骨弱低強骨

宋黃魯直又義之曰 用筆著墨不過三分

柳公權曰 凡書之時貴乎沈靜

曰 夫馬筋多肉少為上

諸帖說 初學之際但求平正

又 又 虞大索 心神不正字則邪見

曰 心志不和字亦顛仆

曰 貴法方貴草同合待者行

曰 左邊起筆不要有嘴

右邊轉角不要露肩

諸家說 墨濃肉滯澆則肉腐

曰 初學紙可佳筆可惡

諸家說 諸人看顏千者乃化若亦向

曰 好流行俗風則乃具筆不離雅

王陽明 運肘為上運腕次運指亦次

諸家說 磨墨如見把筆如壯夫

曰 長筆疎密迥然緩疾

日 山溪谷環下之欲猶兼上

日 一、方、フ、田者去弟之伴

日 六書見國文字如素來一

日 初字禁疾苦押書一

日 常習不用死白揭筆一

日 字不欲上小下大死之右低上

日 字有奇者皆稱別伴一

王羲之三昧歌 得真忘空心平相應

右軍ノ(聲)不宣進、(拂)不宣緩

脚不宣斜 腹不宣促 角不宣被

筆端不欲上寬而下寢(元氣)

大長似死蛇掛樹一

大短似踏水死跟暮一

一点失所若美人一目病

一画失節如壯士之折一腕一

王虞世南 肥瘦清濁不可失中和

墨淡傷神彩太濃滯筆鋒一

晉索靖二法 大字難於結密而無間

小字難於寬綽而有餘

衛夫人 凝神靜慮 豫相字形

王逸少 右軍筆入木三分 故為入木道

(楷法) 如扶釵斫陣 強弩射千里 故勢言

一畫處重引帶 所皆輕者吉

一畫一畫 皆有二轉

一畫若欲與一畫相應

一兩點若欲自相應

一三點若必一點起一點帶一點應

一四點若一起兩帶一應

一考篆文知畫末歷先後

一良弓引之則末人告之則急往

一欲下首尾相應上下相接上

一書尊十明 累心目手腕筆硯紙墨水

一書三官 真帝王、行、諸侯、草士庶人

一宗太宗論二句 稽古曰待合勢曰格

任心為度 合理為化

柳宗元变化

点不_レ度曰_二布棋_一
画不_レ度曰_二木斗_一
田不_レ度曰_二環_一
方不_レ度曰_二碁_一
右大病也

蔡襄六法

レ(点)眉目ナリ
一(横画)肩背ナリ
一(真画)体骨ナリ
レ(警拂)手足ナリ
レ()步履ナリ

方円ナリ

唐六法

王羲之

(一) 迴鸾

尊内親王七十五五中ニ入ル

(二) 月

レ

日七十五五中ニ入

(三) 懸針

レ

日五中ニ入

(四) 垂露

レ

日前

(五) 虎爪

レ

日前

(六) 巢麟

レ

日前

(七) 及鵲

レ

鵲鵲

以上唐六法ト云

鐵画

銀鈎

口

し

尊内初王七十二点中二

口前

此而五ヲ加テ五義之八体也

和六点

強弱

馬蹄

逆川

今節

又憲作氏云

尊内初王七十五点中二入

口前

八十等勢中
而戴氏云

屋木

萬歲

八十一等勢中
鵬足氏云

尊内初王七十五点中

唐張郎四点

藤花

楊柳

枯木

雲行

し


し



し



小野道風十七回



鳥形  七十一内

蛇形  同上

枯松  八上内
鳥休下有 立鷲尾


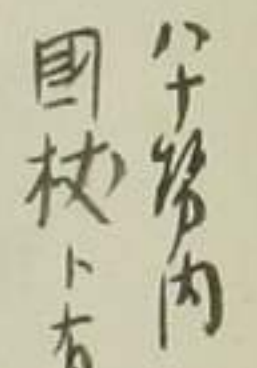


兩足人  八上内
鷹飛  同上
返常有

龍爪  七十二内
木折  九



高峯  三 八十内
乱草  也 七十五内
乱水下有

落玉  月輪  の 七十五内
當輪下有



但當輪アタリテ廻ス
月輪ハ當ラズ廻スト見ユ

萬丈  力  八上内
人頭  人頭  七十五内
木下有



垂露  七十五内
雨足下有

下藤  雲出  七十五内

藤原行成十六回

漕還  八上内
梅枝  八上内

鉄切  飛杯木  八上内
芳草下有

落石  七十五内
入江  四

牛尾
し
草生
七十一七内

水流出
つ
青草
日有

乱絲
上絲

下小
海岸石
日

平岩立
へ
石散
日

衛夫人
二点

一
千里陳雲
高峰墜石

七十二点

空河古丘
美草
口
和合口
波頭

道風十七回
蛇形
口
龍爪
虎爪
弟之八作内

月空
口
馬口
山
馬蹄
空河古丘

養留
口
強弱
口
當輪
空河古丘

休習
已
履覺
口
浪泊
三之八作内

延原
へ
古藤
寸
燈火
比

道風十七回
下藤
口
絃繩
手
梅枝
行成十七回

· 麝 灑 一 木 人 个 玉 色 也

· 蝶 翅 母 大 石 花 水 蛇 顶 可

· 新 月 小 礼 水 也 归 行 之

· 浮 鹤 也 青 草 枯 木 人

· 合 角 又 大 口 雀 口

· 张 弓 式 鱼 磷 也 狮 口

· 戟 蛇 横 痂 水 鸭 也

· 草 生 鹤 翅 下 风 化 了

· 小 舟 一 杨 柳 弓 押 心

· 游 水 空 行 景 爱 八

· 迴 考 考 括 子 磨 顶 了

· 藤 花 石 散 羊 角 了

· 蛙 足 走 琴 心 磨 计 了

行成十五

行成十六

张昂四云

行成十五

张昂四云

行成十五

行成十五

张昂四云

・ 灼強

ノ 人 重 病

第之八作

道風十七
・ 雲出

ノ

道風十七回
・ 鳥 形 不

・ 雨足

ノ

・ 佳 重 志

・ 蛭子

ノ

・ 意 全

ノ

・ 穂 純

ノ

・ 水 松

ノ

第之八作
・ 鉄 画

ノ

朱之ニ可心附、第之八所也、真骨ト云レ

。 書 法 万 方 中

・ 幟の文字半ヨウにて書きぬる所不向也

・ 此幟といふ

・ 大色汝望の字、ゆるゆると横ハ五寸五分

ノ

・ 小色汝望の字、横ハ五寸五分と云て、

・ 経冊ハ、表紙の幅、一寸五分ハ、ゆるゆる

・ 一寸九分ハ、大ハ一寸五分、小ハ一寸五分、

・ 一寸五分ハ、大ハ一寸五分、小ハ一寸五分、

・ 経冊ハ、三ツ折、目より一寸五分、ゆるゆる

・ 上の句を云

・ 下の句を一寸五分、ゆるゆる、七折上下、並不、新、

左右全作(人入) 一獨立作(希章) 一内外全作(朝野)

詩歌十八形存傳

(巻頭)

着跡辰女紅毛
綿浦市天姥(五)
磯原野渡(五)
石の大方人平(五)
いとまあき梅り(五)
すくなくあき(五)

(頭次)

花新開日(五)
初陽潤(三)
鳥元帰時(五)
鳥居隈(三)
青柳のそ(五)
くねくね(五)
いとまあき(五)
玉う(五)

(三番)

子望 一途 去 國 三
看 見 三
鳥 飛 三
ね 能 三
飛 三

(四番)

鳥不語 之 禱 樹 流 水
忘 自 入 池
梅 三
風 三
鳥 三
鳥 三
(一) (三) (五) (七)

(五番)

如斗年

(三)

前橋旅所

(三)

南橋月

(三)

下橋寒衣

(三)

夜衣の山登

月

夜衣の山登

夜衣の山登

(六番)

大燈

大燈

大燈

大燈

大燈

新行

新行

新行

新行

新行

新行

新行

新行

新行

新行

(七番)

早

早

早

早

早

早

早

早

早

早

早

(八番)

九枝燈

九枝燈

九枝燈

九枝燈

九枝燈

九枝燈

九枝燈

九枝燈

(九番)

五 卷 上 大
岩 上 乃
昌 碑 耳 秋 登
の 林 山
の 竹 葉 乃
ゆ れ 瓦 石

(十番)

長 生 殿 衣 春 秋 石
不 免 内 前 日 月
と
う ち つ と ろ あ へ か ら ち め
う ち つ と ろ ち め
う ち つ と ろ ち め
う ち つ と ろ ち め

自十一番 至十七番 其式
皆 卷 紳 ツ リ テ 極 秘 爲 持 寸
ト ア リ テ 卜 ノ 式 アリ

(十八番 卷軸)

長 生 殿 衣 春 秋 石
不 免 内 前 日 月
と
う ち つ と ろ あ へ か ら ち め
う ち つ と ろ ち め
う ち つ と ろ ち め
う ち つ と ろ ち め

の墨継法 (五法)

(飛墨法)

墨継や花の法は
丁金の多くの反と
あやも先と斜
花りの法が形を
斜に走らせ字を
まろり墨を移し
その外のりか不
文長は幾行もか
くの如く通してあ

(村紺法)

村紺は墨継
一箇に数色の
集るは侍書
形を云ふと
墨継村紺
自作は偏角

(薄衣作)

薄衣作は
一柄もあつて
はるかなる味で
年久しに
はるかなる
色を
白くする

(飛白法)

飛白は墨継を
一箇の内の中
白く墨を
かき上り
花の白く
書ける

(山鳩式)

世に傳ふ事の輪旨又
為雲の輪旨と言ふ
これなり

山鳩星の標
移りて色なり
天子脚衣の深
色の面や
硯水海き
書や

女用散文傳

(一重五段当風傳)

六
三
七
一(初)
四
八(終)

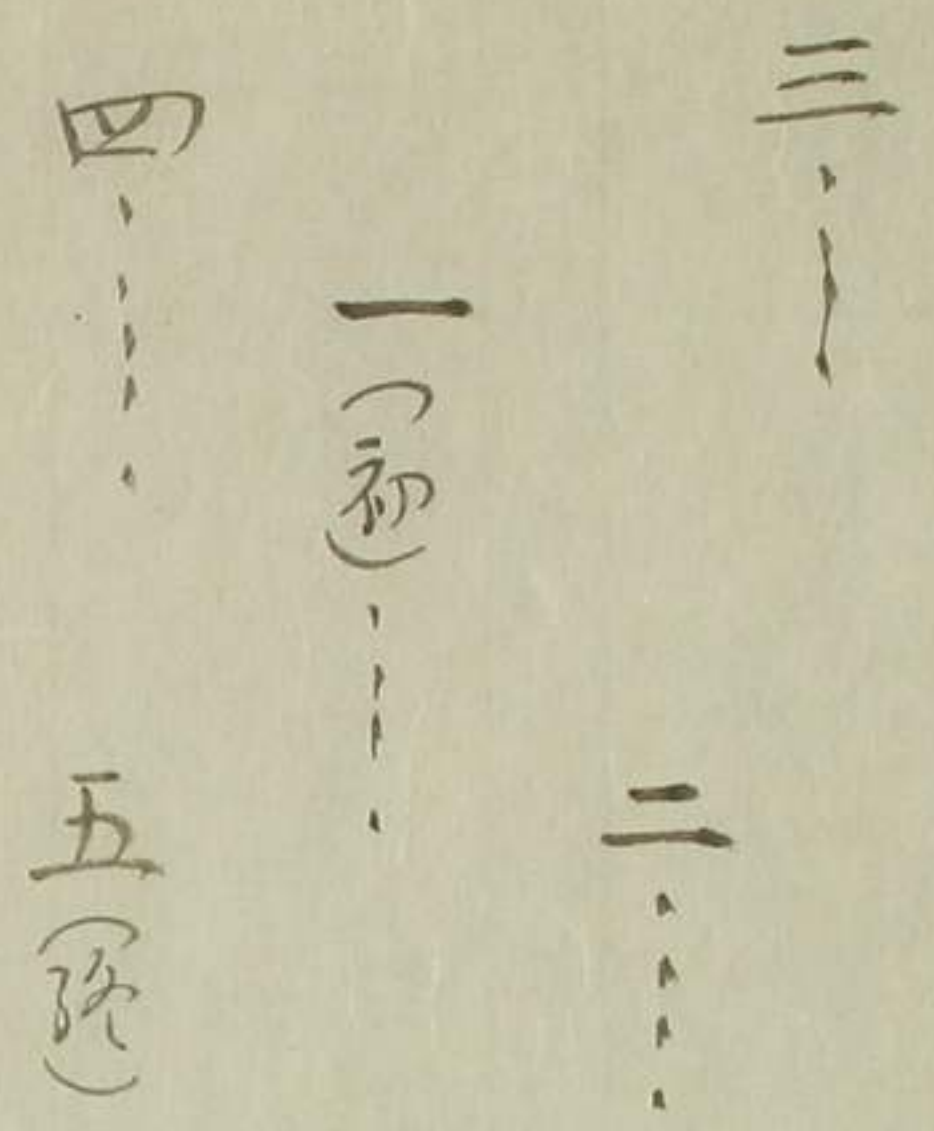
(二重三段当風傳)

五
一(初)
六
二
七(終)
四

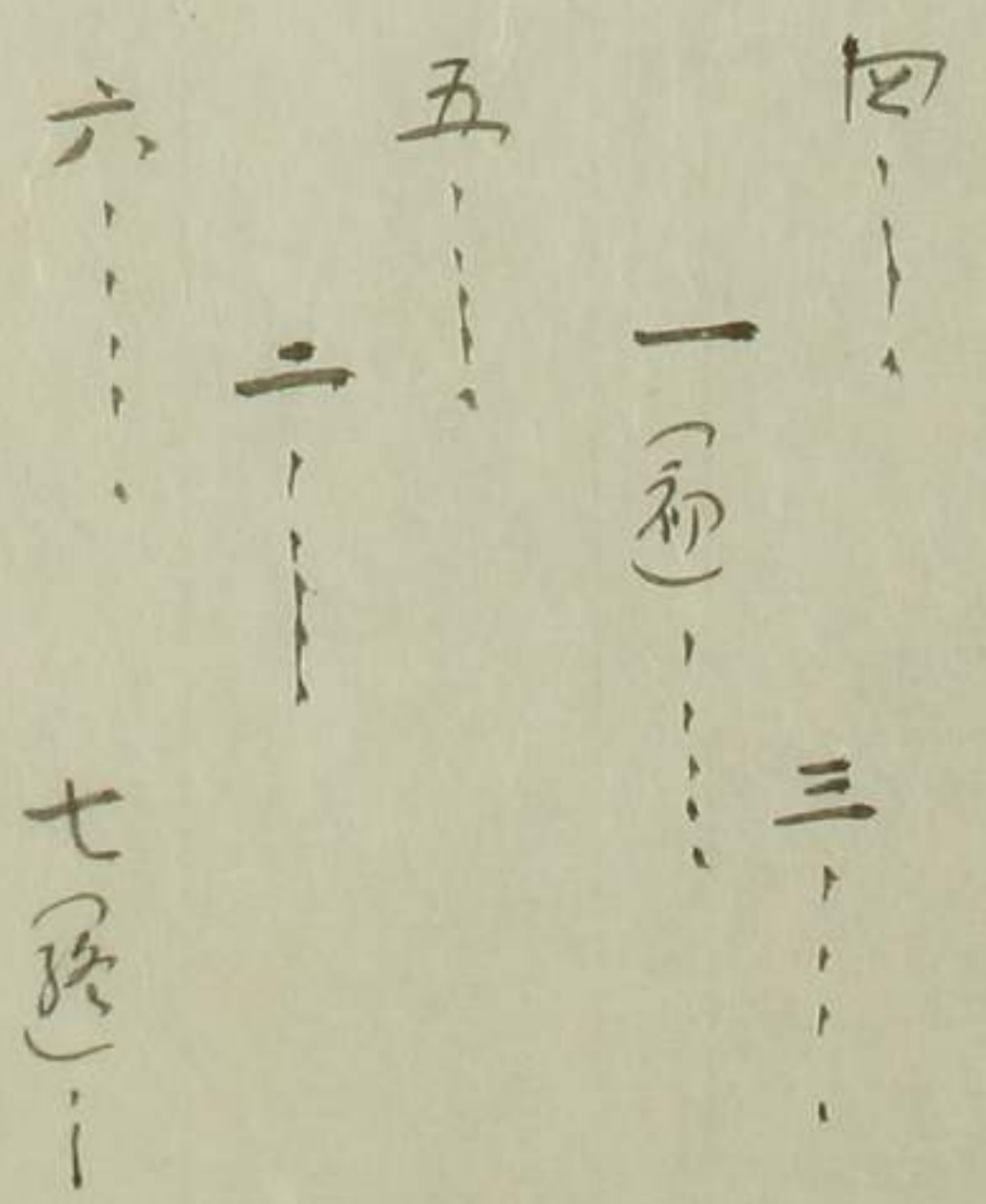
(二重五段当風傳)

九
一(初)
五
二
十
六
十五(終)
七
三
八
十一

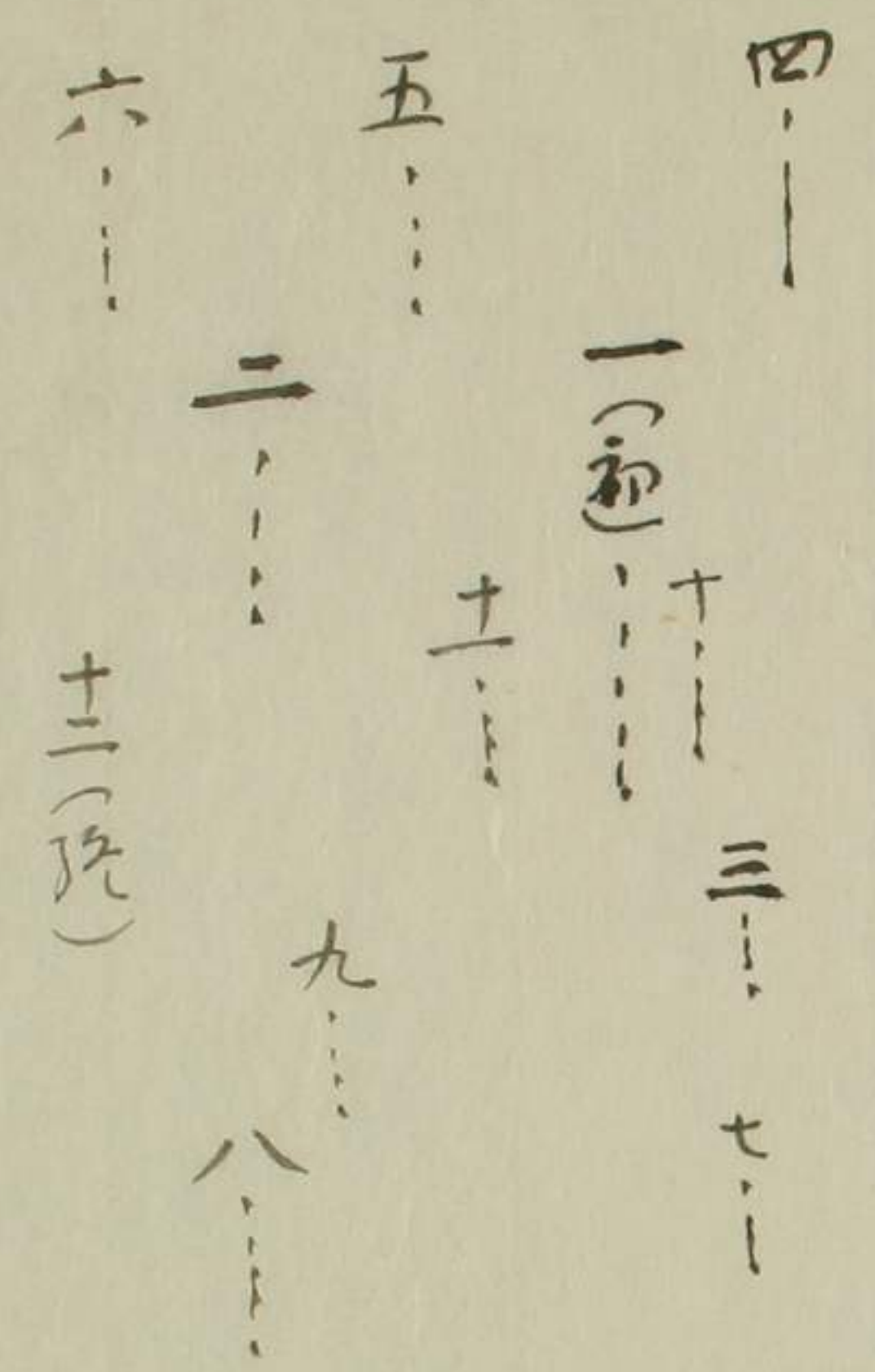
(二重三段正風傳)



(二重三段正風傳)



(二重五段正風傳)



以上教文ハ人見ノ急ニ

命ニヌヤリテ教ニシタルモノニテ
吾文カ濫觴ナリ

の音書

考る書 シ 古くは朽とさし入る湯湯を洗ひ潔を塗干して
骨ハ夏ハ蒸す冬ハ乾かす冬ハ蒸す夏ハ乾かす
に 塩湯を洗ひ毛別和や

。色紙耐漆の墨のり良からこまは糲粉入を磨く

。草法通用ノ書

心 炊 胆 竹 卯 細 心
竹 竹 廿 廿 廿 廿 雨 声 西 虫

(頭) 丁 戸 尸 虫 穴 山 丁 子 女 尹 井 尹 及

己 足 足 正 卫 血 皿 一 心 火 小 大 具 井 犬

(脚) 及 之 心 仅 目 日 子 示 木 糸

し 言 イ イ シ 足 言 示 衣 身 巾 巾 巾

(傍左) 走 走 矢 立 子 糸 子 子 牙 幸 大 肉 月 舟

石 尸 酉 石 示 尸 具 自 示 米 半

勿 易 易 勿 易 勿 易 勿 易 勿 易

(傍右) 名 魯 倉 高 為 肯 尚 雨 多 欠 負

補点

神充丈友度内初新愿

。換字

鴉(鴉) 焠(焠) 杏(杏) 棗(棗) 榴(榴) 裏(裏)

亮(亮) 染(染) 若(若) 魁(魁) 味(味) 也(也)

峰(峰) 敵(敵) 龍(龍) 龍(龍)

。并做

子(子) 牛(牛) 午(午) 午(午) 才(才)。

东(東) 东(東) 鸟(鳥) 鸟(鳥) 鸟(鳥) 鸟(鳥)。

本(木) 木(木) 句(句) 句(句) 句(句) 句(句)。

口(口) 乡(鄉) 乡(鄉) 乡(鄉) 乡(鄉) 乡(鄉) 乡(鄉) 乡(鄉) 乡(鄉) 乡(鄉)。

勒(勒) 勒(勒) 欠(欠) 欠(欠) 欠(欠) 欠(欠) 欠(欠) 欠(欠) 欠(欠) 欠(欠)。

歌(歌) 歌(歌) 歌(歌) 歌(歌) 歌(歌) 歌(歌) 歌(歌) 歌(歌) 歌(歌) 歌(歌)。

お(お) 村(村) 判(判) 微(微) 微(微) 微(微) 微(微) 微(微) 微(微) 微(微)。

微(微) 巳(巳) 巳(巳) 巳(巳) 巳(巳) 巳(巳) 巳(巳) 巳(巳) 巳(巳) 巳(巳)。

ヨシ
ツキ
ツキ

楷書七十五

· 恠石長 龍

· 訖瓜 凝

· 羊角 羊

· 躡脚 稻

· 梅挾 深

· 龜頭 六 杏仁葉

· 瓜種 秀

· 鷄頭 心

· 群鶴 爰 葵米 炎

· 鑿珠 照

· 垂珠 囊

· 鉄鈴 寒 玉案 書

· 邑 鄰

· 之

· 進

· 阜 限

· 下 御

· 斫針 朝

· 鉄城

· 國

· 舞鶴 袖

· 鉄柱 利

· 垂針 辛

· 典天 月

· 象笏 手 漫勾 科

· 鳳翅 風

· 浮鷺 亢

· 飛雁 越 獅 易

· 龍尾 龍

· 鷹翅 飛

· 竹籜 猪 玉勾 冢

· 犁梁 也

· 虎爪 職

· 斲勾 象 鉤 籜 吏

· 新月 月

· 懸戈 舟

· 蛇頭 孝 犀角 者

· 闢鷄 深

· 柙箕 陽

· 飛帶 殊 鳥 啄 和

· 戲蝶 巡

· 木人 自

· 金刀 合 鳴鴨 文

・濁迹臭道 三折腰道 一曲盈 一直廻

・母續母 母母 母 金雞雞 寶蓋守

・聚水清 散水池 草又草 蟠龍玄

・双竹筆 石楯翟 馬楮快 鳥維卷

・綽句舟 緊句察 響筆心 疊鳥行

・鮫頭騰調

・此旭ハ業中ニ少院の入り見えて予是の如しなり

・之月祝王ハ水上ニ少院の行を見て予是の如しなり

・四書字教五万の如かるや字なり

わ 大學一八五 子魚子 三四六八
論語一二七〇 中庸 三五六八

(目初此所記 筆通叙家傳、筆傳秘卷抄、
筆法傳授卷ト云フ三卷寫本中ヨリ抄筆ス但
享和二年 酒依源右郎源朝臣昌長ノ子孫ニ
還セシ書ナリ)

○小杉温村博士秘書中等通書名左ノ數十種合本トナリテ
 等通書抄ト名ノ其書名左ノ如シ

- 一鳥羽玉靈抄
- 一鳥羽玉問答抄
- 一臨地抄
- 一心底抄
- 一夜鶴庭訓抄
- 一尊朝親王手習十三箇條記
- 一尊朝親王手習初玉八送り抄
- 一世尊手待地行李二十箇条追加
- 一當代七箇撰九箇之大書
- 一清島甘底初抄
- 一二字札書
- 一手習口付
- 一伊呂波傳授
- 一入木改元序
- 一貴怒親王大木抄
- 一入木管貝抄

入木抄

臨地一箇抄

夜鶴庭訓

夜鶴庭訓抄

一等體抄

尊朝六箇抄并序

○右書中ノ抄草

一尊朝三十八箇相傳ノ一(臨地抄)先怒亦力十三点

○(一)迴寫ノ点

考ノ、抄寫ニ百ノ年、一ノ方廻ルナリ

花廻リノ点

風情ナリ四ニ云

心

羽サキニ勢アリ(草字)

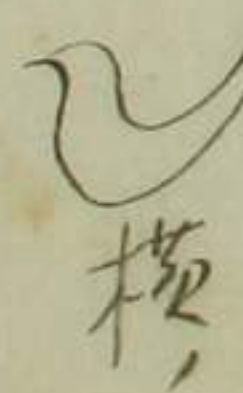
○(二)翻鶴ノ点

鶴ノ、抄寫ニ、先ニ翻カカシテ、其ノ文字ナリ

四ノ日



豎ノ、翻鶴ハ、胸ニ勢アリ



翻鶴ハ、胸ニ勢アリト可書夫翻鶴トハ、其ノ二、四ノ二

花風 縦念

經令
月

不過六何、撈ニハ死千里草行ノ物ニ専用之也
其週書トハ夜半ニ飛一羽三千里ヲ逝リ三國鴉
鳴ハ是ヲ周名声云々行ノ物ニ専用之也(草字ニ用)

〇(三) 垂露ノ点 如露垂四日 〰 月垂露

ハ若ニ勢アリ行ノ物ニ専用之露点ハ長年ノ質
夕也故ニ文字ニ用之者(草字ニ)

(四) 遠波ノ点 遠ク流如浪 〰 是ハ流烈ニ波

等ヲ 〰 不過キビシク當ツ飯浪者 〰 如此等ヲ
返ニイ也

(五) 龍爪ノ点 〰 如此其勢爪ニ

何

〇(六) 虎爪ノ点 〰 真ノ物ニアリ其勢爪

ニアリ (銀鈎点ハコトヲ) 此兩点ハ惡魔降伏ノ点ト
カ故ニ等通ニ専用之

又龍ノ点 (七) 眞鱗ノ点 〰 其勢有鱗諸点ハ恙起ノ果

鱗ヲ云々 眞行草共ニ専用之也 (眞字ニ)

十

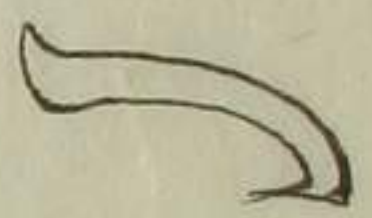
糸
貝

〇(八) 懸針ノ点 〰 是ハ懸針ノ点

是ヲハ卧針ト云 眞行ニ用之下ハニ性アリ云 (眞字ニ)

(九)

虹脚点



是、虹ノ吹久形也。脚ニ有性

中ヲフル也。世界ノ雨露水土ノ縁力ヲ以情非情生
長スルカ故ニ文字ニ專用之也

(十) 鸚鵡点



此鳥ノ水鳥ノ形ニ似

人ノ口マネヲ云寸歩ヲ離地痛々多ク力故ニ文字ノ
下ニ用

(十一) 萬歲点



諸点ニ皆可師万歳是即文

字之余点ニ千秋万歳ノ大地也。梵王ノ和事ノ
点也

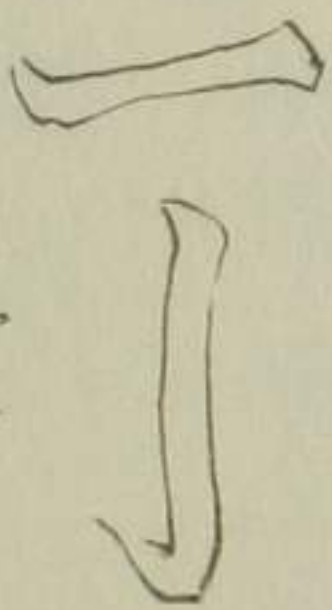
(十二) 折針点



是ヲ為非借角ニ

幣アリ真ノ物ニ專用之

(十三) 横豎点



天地ノ等性ハ和

中ノ極秘也。梵王秘之。覆テ下ノ点。地ハ五指ヲ

仰テ引横点也。字ニ曰事如此字能以此等

法能分可師傳者也

一 王字之八点

(一) 虚空点




大空ノ外ニ此字ヲ能々第街


タレハ叶等字跡云云

(二) 龍鬚髮ノ点  此点ハ胸ニ帶アリ三魂所


具ノ等法ヲ習フ

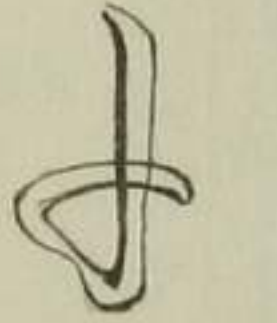
(三) 蠃脚ノ点  恙云虫ノ姿也是目也度虫

太カ故ニ用之也 文字ノ作リモ專用之也


(四) 逆川ノ点  水ノ逆ニ流ルノ姿也並ニ此等

ノ字ニ專用ニ之等ノ角ニ帶アリ

(五) 蛇頭ノ点  如野馬鹿降伏ノ点也

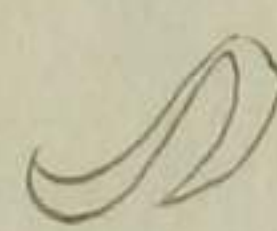
(六) 折枝ノ点  草ノ内ニ專用之


(七) 走虎ノ点  是又降伏ノ点也

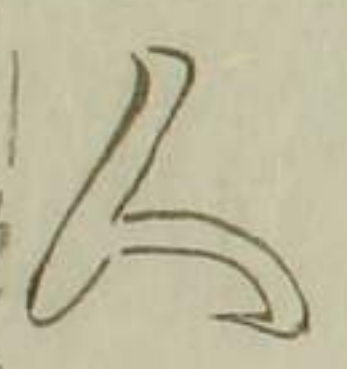
(八) 飛蝗ノ点  背中ニ帶アリ此等能ク可

留合也

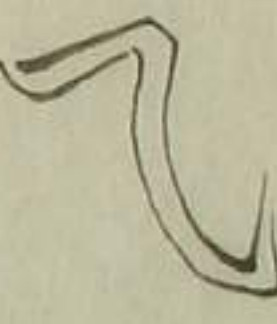
起子ノ十七点

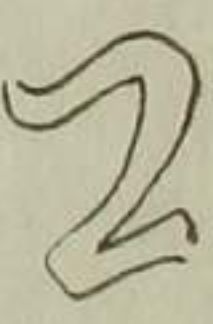
(一) 水登ノ点  登ル有勢与等先ニ心アリ

(二) 絞繩ノ点  如此行草ノ物ニ專用之

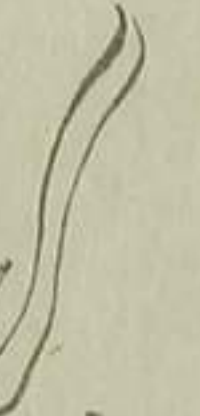
(三) 屈木ノ点  叢屈ノ後耳下ニ木ノ横ハリ

生ニタルカ如シ等ノ引返ニ帶アリ

(四) 風帆点  如帆船

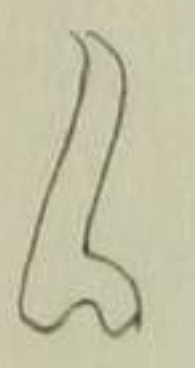
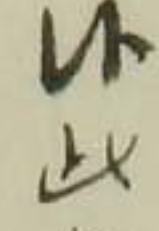
(五) 阡相点  是ハ万ノ文字ニ相云意也

阡相ノ文字ニアツク点也

(六) 叢瀧点  若ヨリ瀧ノ流カ如

(七) 迴蕙点  胸羽先ニ格アリ

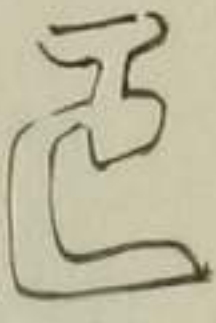
(八) 鷺鴒点  胸ニ格アリ

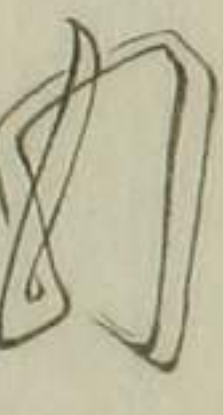

(九) 蛙脚点  如此形ナリ  此字ノ作也

(十) 履端点  如斷胸ニ格アリ


(十一) 草葉点  如此草ノ葉ノ生也


如クナリ

(十二) 幼影点  如此形也 比 此 草ノ字形也

(十三) 渡蘿点  如此形也  此字ノ風情

也此字ニ專習アリ能ク可修者也

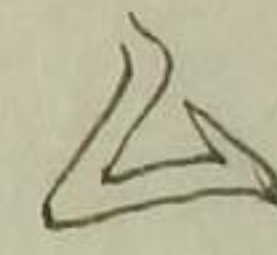
(十四) 花座点  如此

(十五) 落荷点  如此形也 蓮花ノ一葉散テ

如落也故ニ文字ノ下ニ行草ノ物ニ用之

(去)

馬蹄点



如此是先ニ物なり

(七)

蟠蚊点



此ニツケルハヘビノ異名也

ワカカマル蛇ノ如クニ書ク事ノ物ニテ如斯



等位

以上十七点 部令亦ハ点也 附之云文字 此等位点

ノ高ヲ以テ筆通ノ無極トモリ 無左右此大事也

不可有之

書物秘事

（貫名親王入右抄）

懐紙

一首の款例ハ凡九格九三と可書ニ則三行

三字ニ首三首ハ如常 五首七首ハ紙ニ枚を繰ル 五首

七首ハ外ウチ振口内ハ 五首の懐紙をハ三首目

の外ニ行をハの紙ヲウチ末のセメをを繰目を繰

可也 五首の懐紙ハ二枚目の裏のメクアキニハ不若

ニ方の背冠不具をニヤハ紙可見合也 紙三首の

懐紙ニハ三字のハ紙ニ書クハ見ゆるニ父ノ紙ニヤ

ハ三行の紙ニ書クハ見ゆるニ父ノ紙ニヤ

は下句を一字下けて去る但口直る去る不若
之不若多去れども女部ハ記のあつても下句を一字下け
る之柄程冊字深前のより五折もなると一折をハ如
法深ちて一折とハ人見かへはるハ深級をハ
一者ハは綴の五名をハ深て二部ハ一
可也

色紙 五十枚百枚をともかへ成すかへて去る
口振るちとせぬうお綴の化法又ハ米の陰ハ
らハハ米のやを可出書と青紙双調

綴るとり者 夏ハ黄鏡調、春料紙綴りた
可也 秋ハ平調、白紙綴り葉をじととり可
也ハ盤海調より春料紙、秋木の姿細く綴り可
也、人形鳥紙綴り、あてさるるこ
月日の中書や紙やをち切り不可なう不若
の故あり

扇 方多し中一法の上り去りけり骨も
おまけを扇ハ二三首を多し、一二首ハ紙
又五を、毛とこ上へ見ゆること不可紙方ハ古

今清櫛栴連三代集の節のありのやうに
是極なり

一 團扇 玉扇をもちたる流し道風をかく紙
又定れし紙をもちたる扇たふのちりこ
大岩の下に月の輝きを照らすのふりこ
只七五調なり

一人九報書 月のとくをよむ木の
葉は浪の音なる葉の節にてのまきとみ梅

の花それよりの分れをよむ梅を打ちたる葉の
名をかきりしとくをよむ木の葉も知らる
成極なり

一 草紙 大なる紙をよむ紙は一枚紙の
一枚を除き三枚目の紙よりおぼろげに漢
字をよむ可なり

一 絵詞書 竹字たふしとて紙一りむを
紙にこぼすなり

・ 御願書より
可及急ぎと但於若年を
可依存との所定に表紙の押通のふだの種
かへ紐の上より可及於但願の字より紐の
下れ一ふとすおのこ可詮上中下三三の字に
不係紐に極三の字に撰集に端より強
中央より令かへ

・ 影像賢書様より
真端上下不道様
かへ字所より何れに
・ 神運書より
三社より可及より勿論長短に

卯の御神のより何れも可及より大抵す但
中より三社の中より何れも可及より大抵す
・ 御願書より
三社より可及より勿論長短に
上より又余神より何れも可及より大抵す
・ 御願書より
三社より可及より勿論長短に
可依存との所定に表紙の押通のふだの種
かへ紐の上より可及於但願の字より紐の
下れ一ふとすおのこ可詮上中下三三の字に
不係紐に極三の字に撰集に端より強
中央より令かへ

三ツのストとヤムとハ人金をはらやう秘の中
水極秘なり

一戸帳 奥もけきも一かみ字を連ね
てふのが果果より一字に可なり

一 歟又勅進情方類は一曰也認之なり
奥三ツの片行のあの上二下ヨ下四五五五
て但陸押紙又字の多のこ位一紙何れ
そ賦り可なりこ下ノ准摺も也系統のく

たりと年号とのありやあり

一 消息 認る易一何ともオのくあり

そそと不係不裏より一何とも不事あり
紙一寺移し例式の又裏く不表面より
方角と表様かおも不折こ可事又み下に
てあるこら裏の一何れとる月と折ある
て是の折返もを御す不折と是の裏に
あつてもよく合見たあこ又又のさのこひら
ぬ極こひらぬわりのなり書を認る事あり

のたなひや可きこ上包細くかしそく上と
が短く可也

・将果の馬 志まらま細字のちこ馬の
文字は細くや枝をも二枝をも不意縁と大
こ柳文字をあけてちさうのなまのこいさけ
ぬりうぬりうなるい号なりまお也

・蒲の上の物なき板 白粉をりきりさうきて
本こ但伊那のち忍こ又車のかひひくし
垢をとりきり柳をとり可き物して一切縁

信比一は妙子又
は酒の上の白火の花

のひちのちりてこげやうのちれはきつてこ

・絹布なまの 茶湯をかつらうてを湯

のいさうてあう一やこ流くさう一させ

りして帯よき襷のちめてさあまをり

込あし場のいさあつてたれに流くさあまをり

縁に縁をとりぬりて

・木 切口を石削ゆを女肘のあぬじ
てうまこ

此は二層の白板石
 ドウサツ子葉指石
 水一升煮カワナぬき
 ナリ交りて大根の末
 石子子葉油を板石
 雨後三味水白川石
 石明礬をか搦入る
 又此のユナリを
 おのむより
 板石行燈石
 りとミヤのり
 水一升煮カワナぬき
 板石三層の白川石
 マヤコウ出まらへあり
 板石の白雲石

板 柳葉を指しし可也

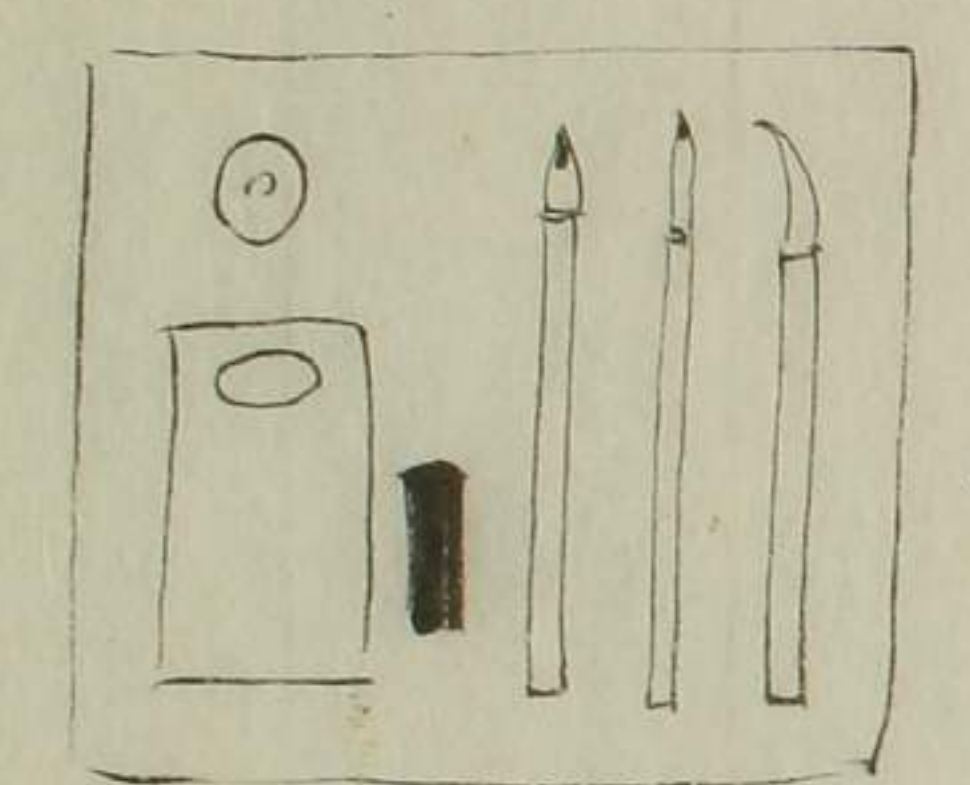
此一葉若入木道し保叙多貴器准后之芽
 編之依附去所りか昂詞早
 入道吾弟貴園秋王記之

吸善悪の 望て又合干葉其水以澄乃家
 也吸入又流者下吊也水凝視日下吊也
 亦吸水如磁目下在鐵柱三日即不乾
 者乃家也吸多者以其水し乾年限可

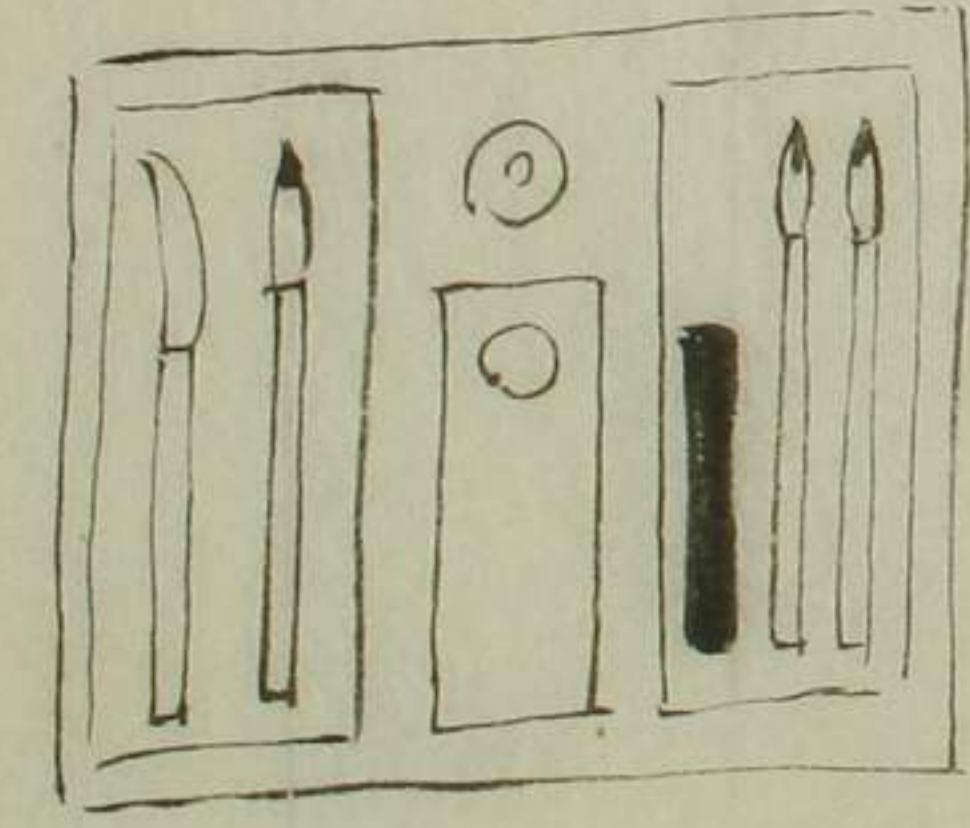
才叶もフリ汁
 指葉はもろ白
 厚紙をくく近
 子葉土埋まり葉に
 フリ加て葉ま
 ワヤとおしてより

定勝也 (一本管見也)

可大根を吸而不可居原清者後即洗之
 不可用銅水入也殊至堅吸をり清以の土也
 之尺斗揮く煙三十日可取也



刀ミヨ此分ニ向ル也
 かくいさたいめ
 等三三管ヨリ入
 るこ葉の白ク
 小刀まて准
 の板石も見え



油気(書く法) (夜飲庭訓抄)

胡麻の油を糸ノスルニハ固馬ノ汁ト攪^{サシ}ト藤ノ

油糸ノ不^レ是^レ白ハ^レ煎^レの汁ヲ要^レ撰^レ了

書、六言 (言法六言抄)

カ一筆法 カ二風情 カ三字句 カ四去病

カ五骨目 カ六感徳

筆法ノ十一可

陰陽、神用、表裏、順逆、死活、強心

四言、七言、九言、十一筆法、三視

(四言ハ筆用、筆用、筆用、筆用、筆用、七言ハ春、酒、強、
好、曲、回、推、九言ハ好、曲、回、推、道、推、道、美、延、

十一筆法ハ平、直、向、密、筆、力、粒、潔、補、換、

巧、稱、三視(魂、魄、神)

風情の五言

三折、才式、字移、墨色、曲尺

(三折ハ皮肉、骨、才式ハ書きの才式、曲尺ハ四六のか
ね合ひをふ、一寸、六字をわく、上六分、下四分とす、一才一折
これに准す)

字候の四言

四種字歌、四種星形、翻字名字、五形字

(四種一ハ行住坐卧の字形、四種星形ハ人形、氣形、鬼形、

色形、新字合字云

観 三十一 新字 云

五形又云云、頭、肩、胸、膝、足

去病の八事

虚病、密病、寒病、熱病、捨遺病、不足病、憔悴病、不相應病

骨目

子分ゆゑなんぞおのつゝは肉の二にたすまも骨
法とあかり 旅三信 骨法を乃る五法と云は是に骨法
きて、は肉を去て不去、不去云おのつゝ去、肉の
た理と云

感得

改、白紙の骨法より而も二種是

して骨法の極意表に備りたる地位也 諸骨法

一取得たる骨法也 可作の事

屏風の色紙作りやう

(字保五車出取和京極出雲寺元丘釋行)

漆言相伝と云一冊ものあり

常光院家の法信よりこれなり

一 双二三十六枚のしつゝ十枚、屏風のまをよりか下へさけ

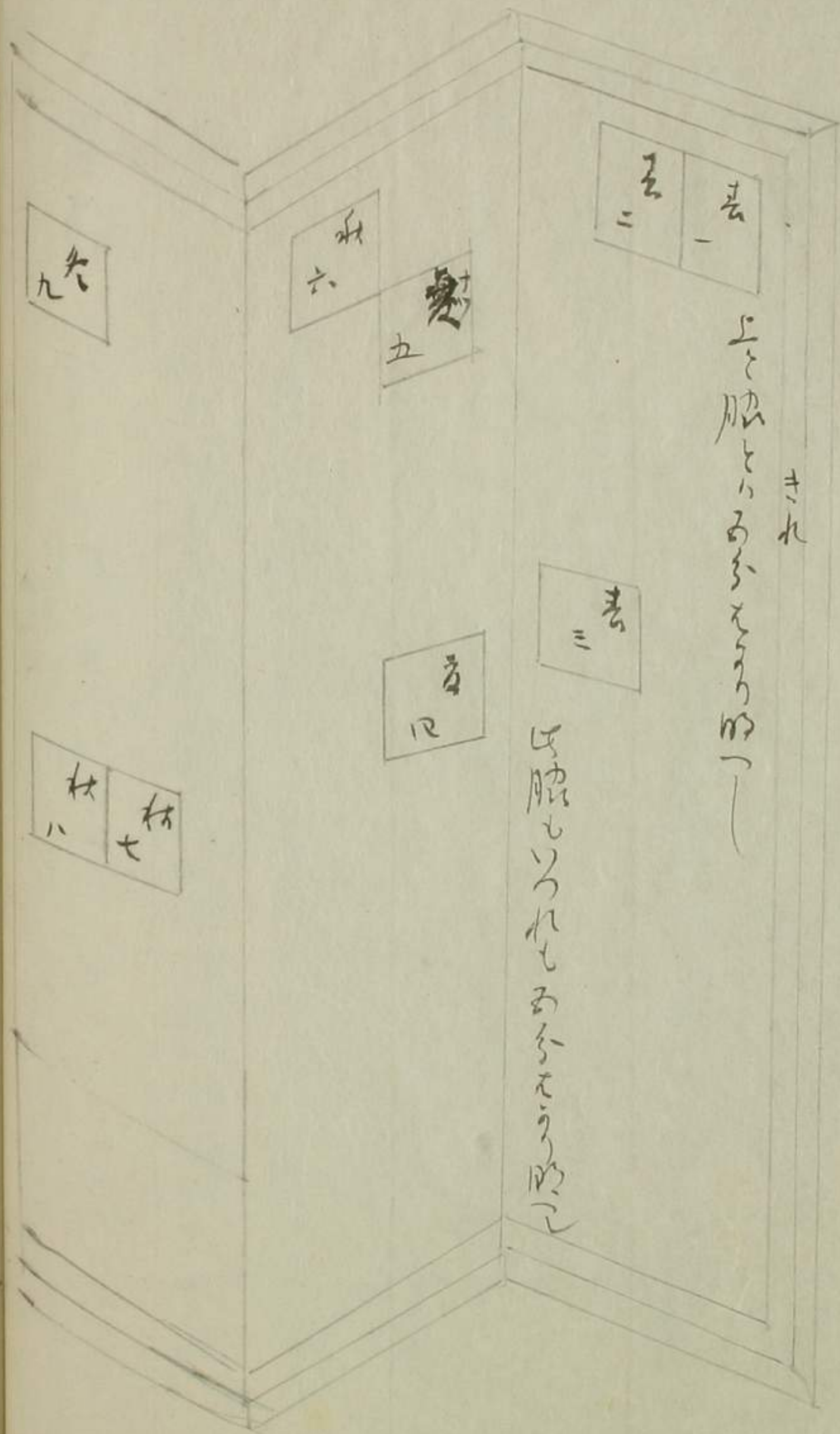
て押かり尺よきやうなるを布とすして

滑ふりし一 双二春夏はれ衣類と押して又秋

ころうける色紙かたかハ一 是代夏杖衣衣類 春夏衣

半双に
十八枚の方

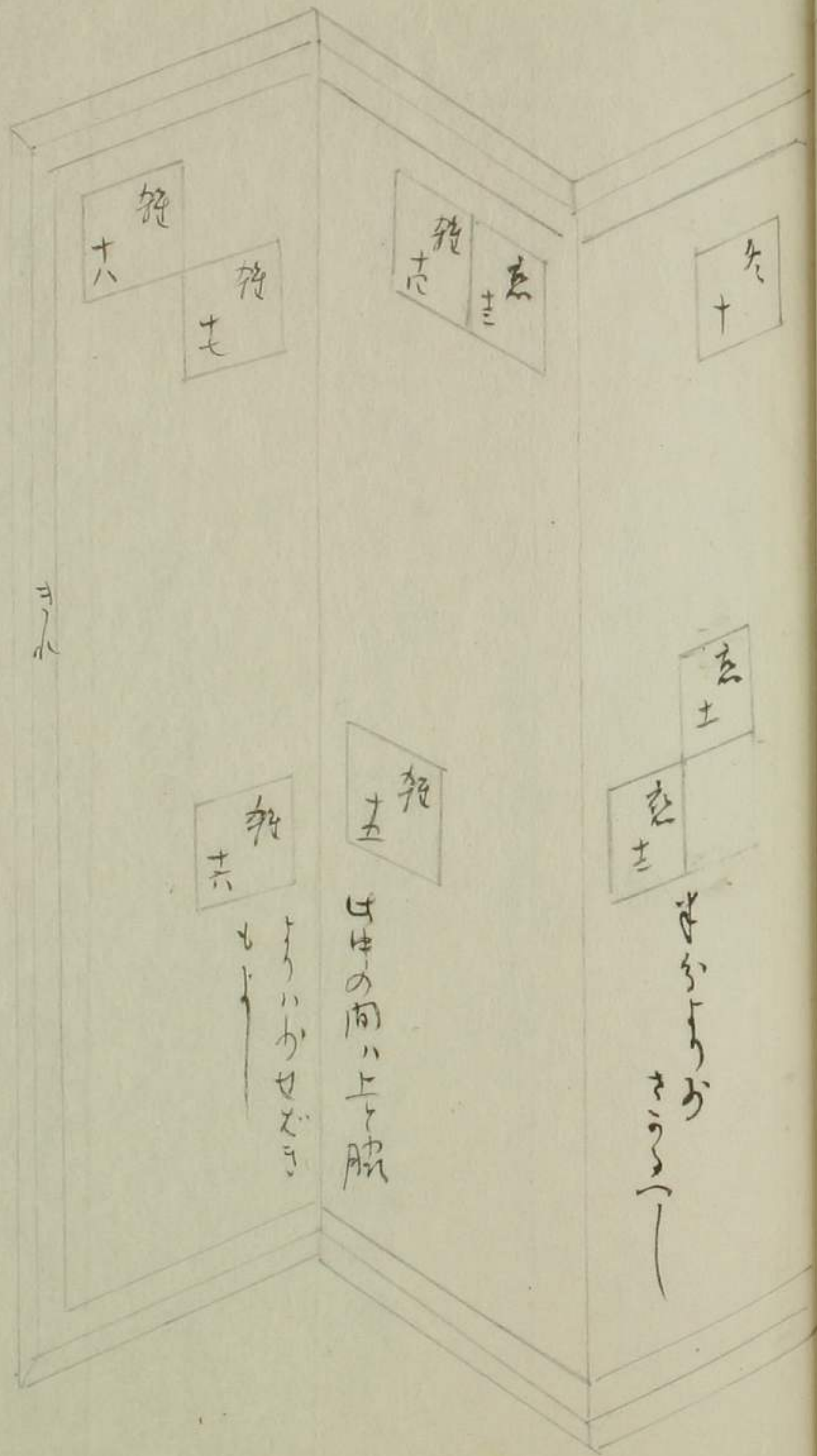
その意解とかしこく押て又片をさるる中より押た
もありなり



上と腹よりみるかきうのり
きれ

は腹よりれもみるかきうのり

相いり
標印深窓居る一語りゆい
重半名市一右市名中電も



半かようが
きうのり

は中の間ハ上と腹

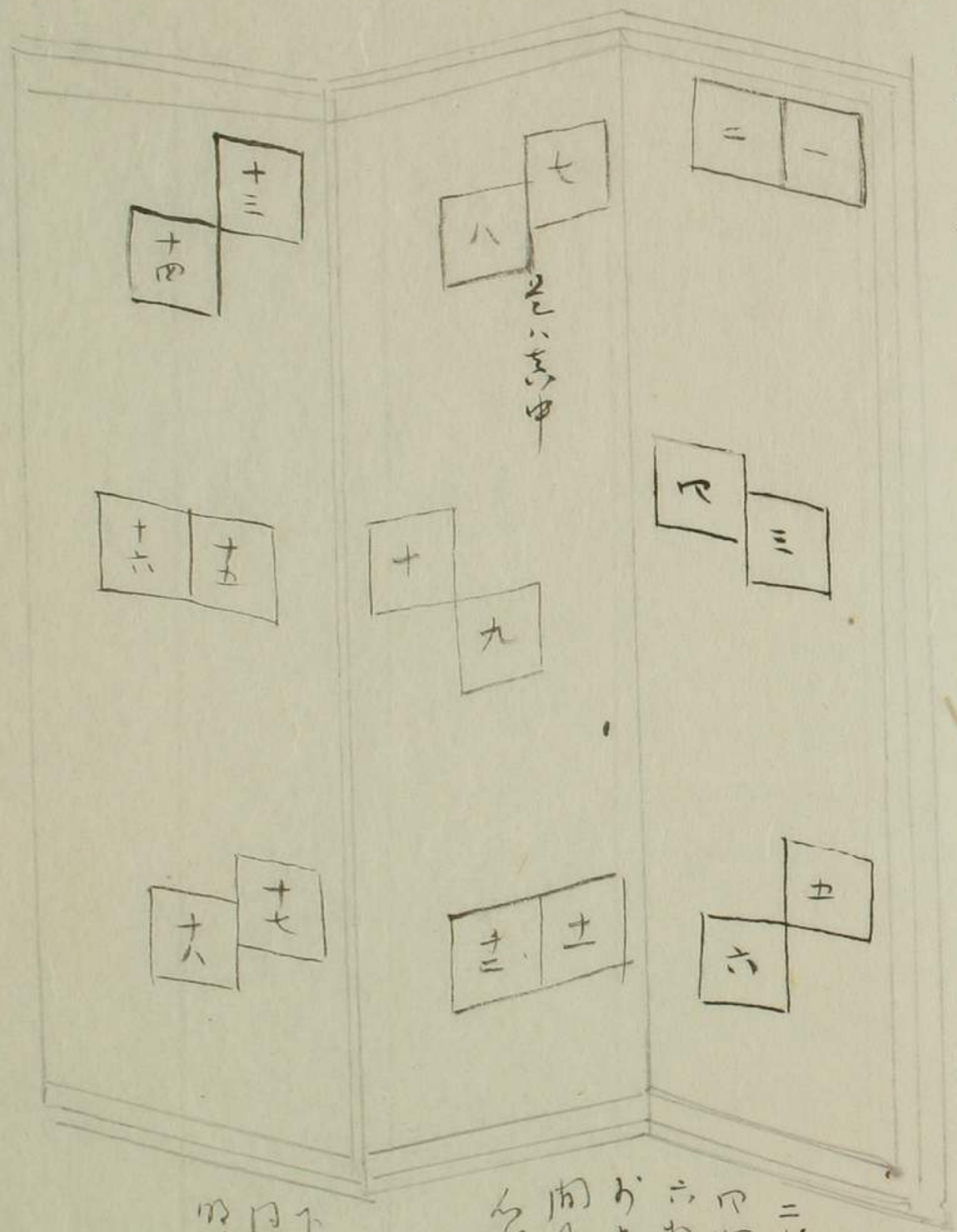
上りいかせと
もり

石の砂粒目やね目立ね目の上のまじりたる間を下のまじり
 もろれ後に下まじり押たすあり

短冊をまじりに押たすありまじりまた間をなまじり
 入るる五入三尺の短冊を肩風はゆるくえようたに
 短冊をまじりあり

將軍家忠恕院殿より信のりお死を拜
 大納言雅親御法名栄雅注し進せられし
 人の注のり作りを見侍し一も解あつて短冊
 かしら押のりし押し

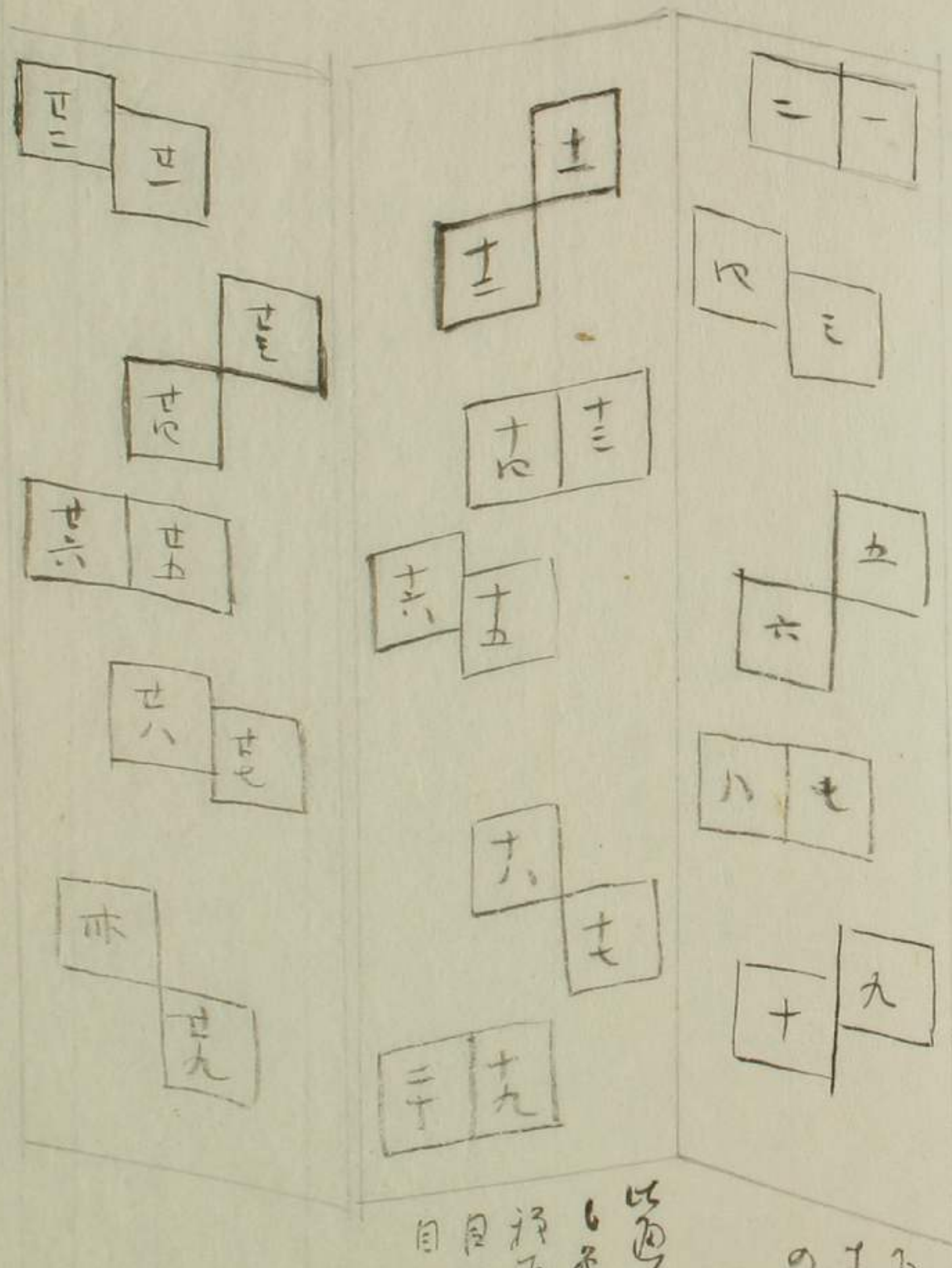
半双に三十六枚の分



二枚目
 四ね目
 六ね目
 七ね目
 八ね目
 九ね目
 十ね目
 十一ね目
 十二ね目
 十三ね目
 十四ね目
 十五ね目
 十六ね目
 十七ね目
 下の通ハ
 同く大人
 めて

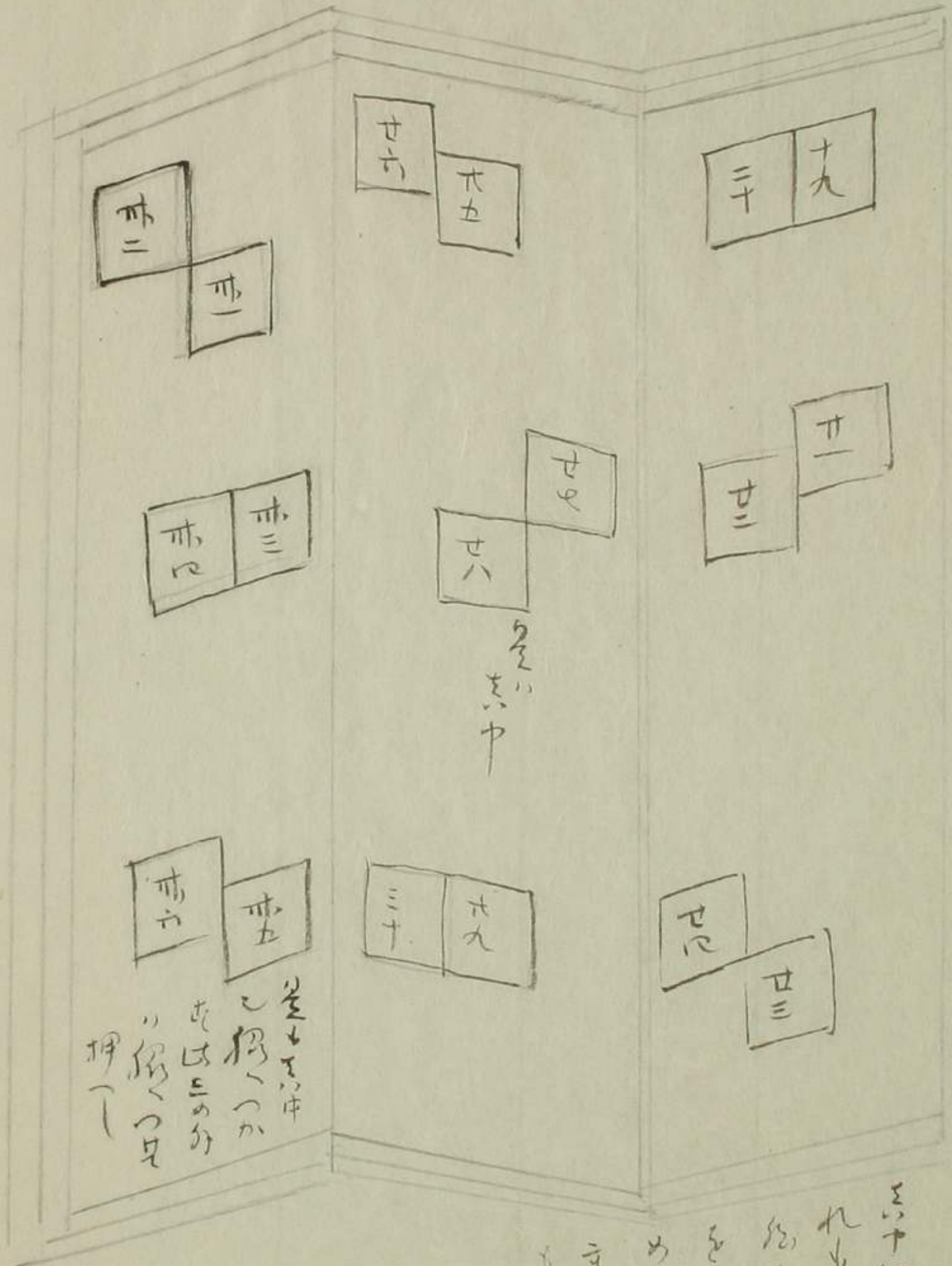
半
双に
六十枚の方

六枚扇風おね片々の方



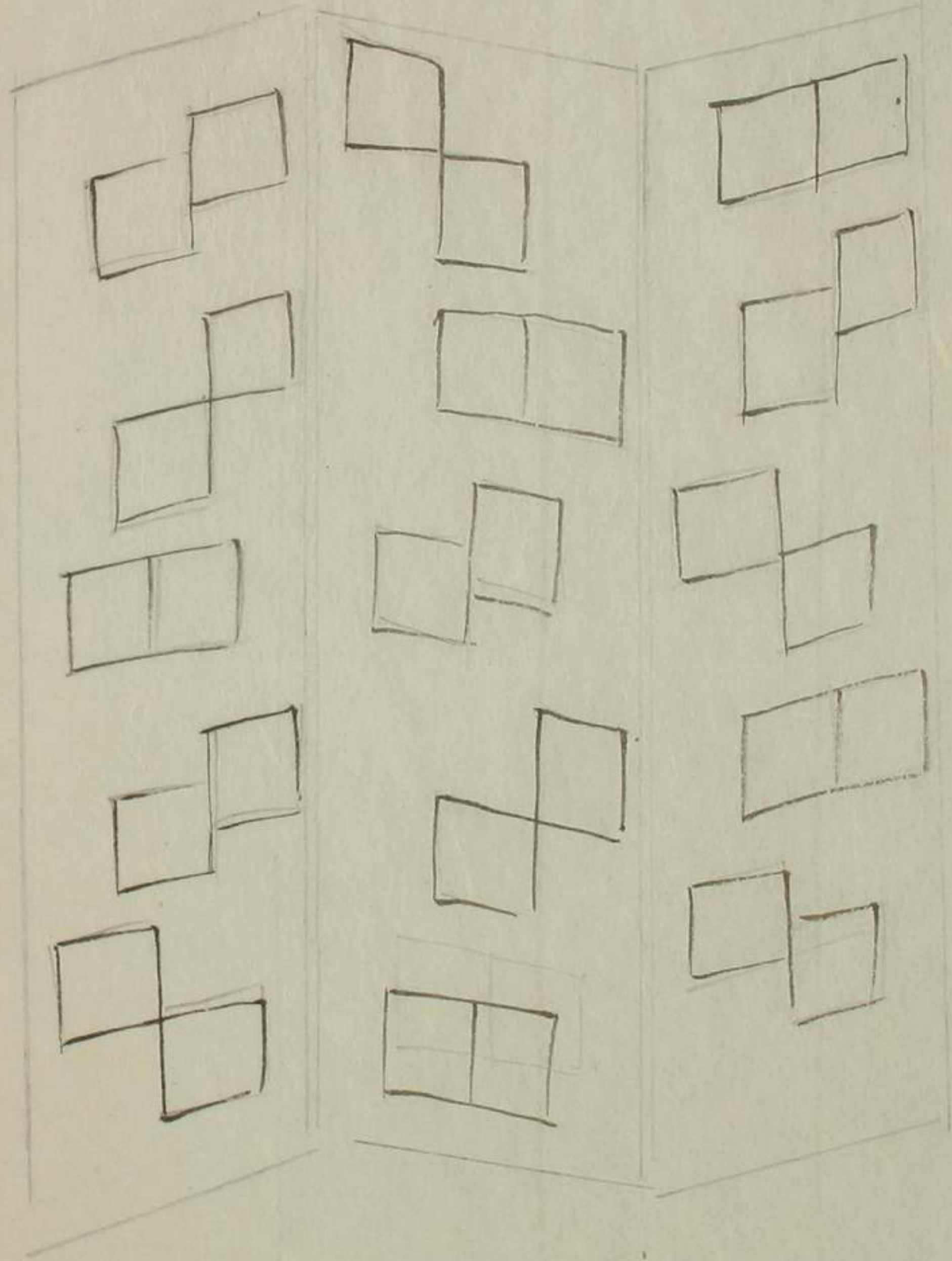
以下ハ上も下
も是許た廿
様下ると三枚
目には何枚
自由

表ノワラキ



三十押おや世いつ
れもやのわこ
船をうけて三つ
を卯ハ世ニあ
めり各三あり
重を三中に
も押ア

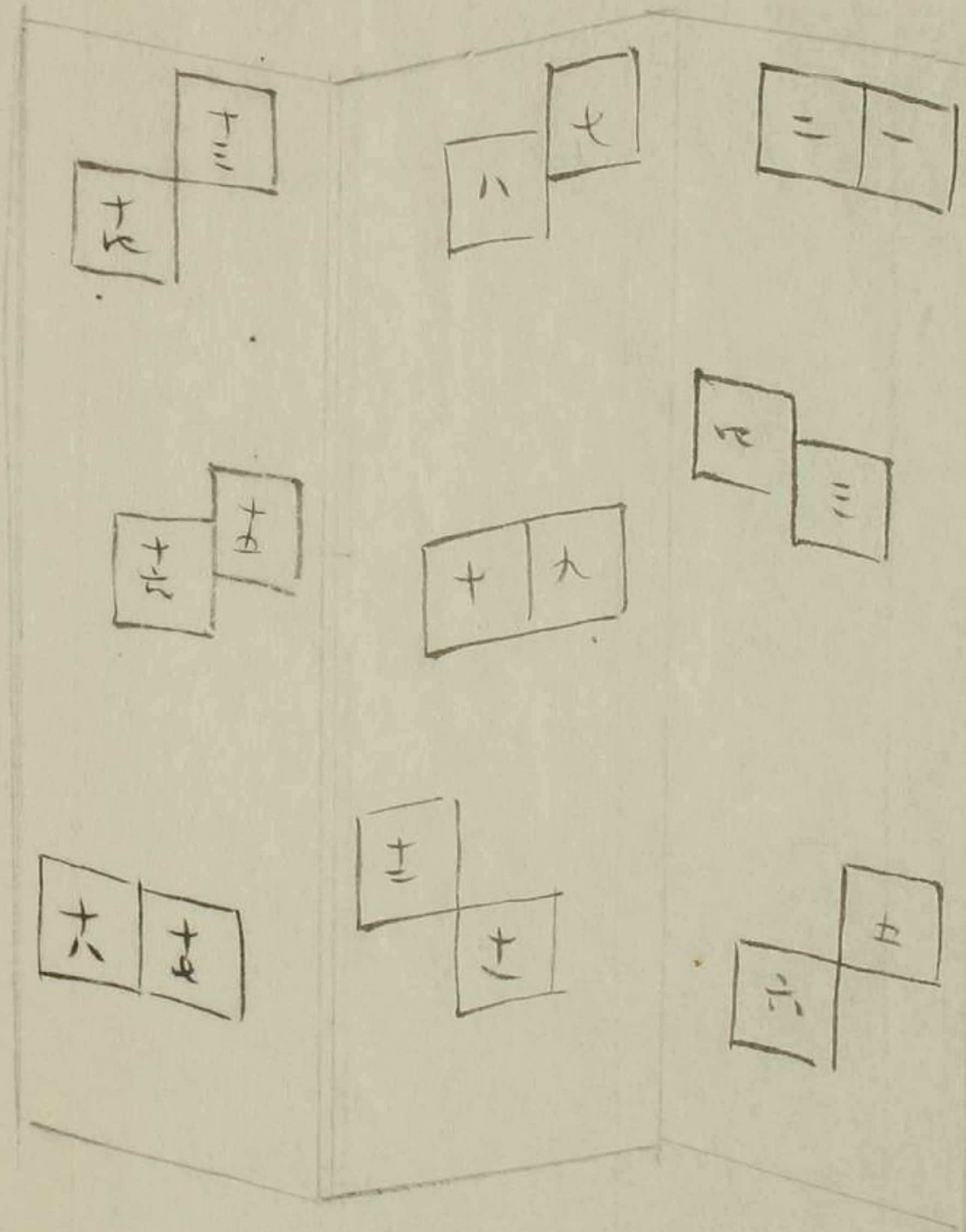
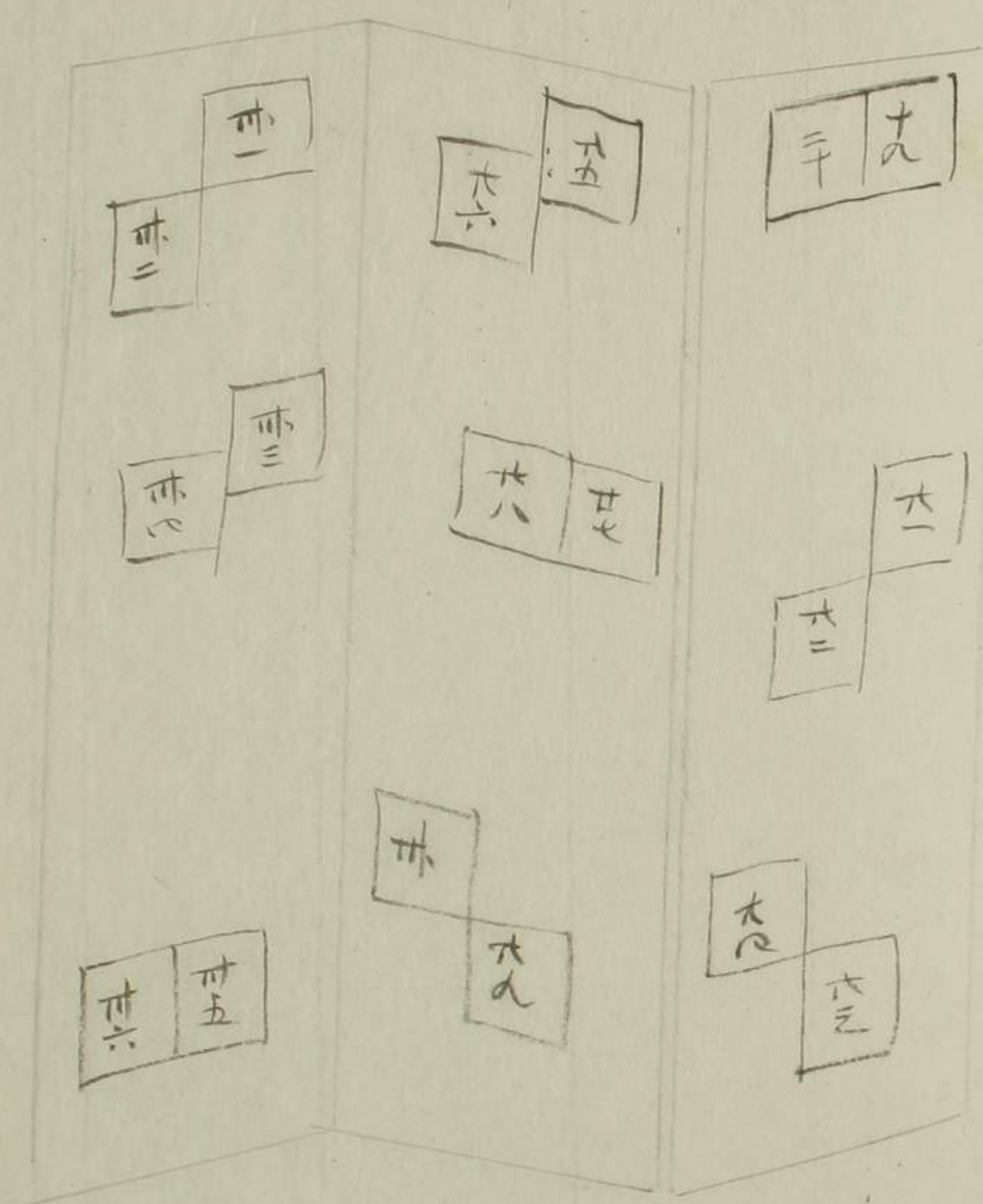
是も中
こ扱へか
は三の分
の扱へつ
押ア



何種ノ十色紙を押し開く一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ
 一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ
 一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ
 一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ

何種ノ十色紙を押し開く

何種ノ十色紙を押し開く一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ
 一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ
 一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ
 一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ一紙一紙、其ノ色紙ノ片ノ



半々に三十六枚の分(別紙)

○法を執て風をまきて（倚木堂思柳著書通和訓抄）

初子の入り申は成るを身分のやまに可きものを知子
て、申辨の風はたつて目をさし紙をとりて
する時、又その意の可きものを、
さしし、その意の可きものを、
と也、故に法をとて風をまきて、
くましく、風をまきて、
とも、先ず、
○把号（口説）大指のそも次指中指の指を、
と小指を、
大指の意を、

又一献三謝字に誘て曰、其草書は一畫間、起伏干鋒抄と

即ち直筆に非ざるの一点なり（中村桐香の言）

一韓方明曰く、今人双鉤、苞管を畫ふと、確とし、古傳の

単鉤には、如おと（苞管は名指小指兩から力微に流

れりと註せり）

○書ヲ字フ道（写本、淑慎亦書学信條ニリ）

書ヲ字下ヤリ先通入ツヲ知ル、一し道ヲ知サレハ邪々、
入テ數十筆、字スト、
ヲ知フニ、
スル、
知功ニ、

○法を執り風をまきて(倚杖堂思柳著 幸道和仙抄)

初子ノ人古事成りて身分也やま可くをわをわ子
て(学務ノ風成た)初目をさし根を字すと
する時又その意の可くをさるる時(字)字と
さし(その)字(に)信(立)ま(た)る(上)は(と)ま(り)て(自
ち)也(故)く(信)を(と)り(て)風(を)ま(き)て(上)也(法)を(ま
く)し(て)風(を)ま(き)る(の)ハ(也)た(ら)ぬ(如)か
し(と)先(著)の(意)と(と)ま(り)て(也)

○把音(口前) 大指のそむ次指中指の指をわくを名指
と小指を下とく考のゆを(う)つ(り)て(指)を(わ)く(也)
大指のまを(そ)む(た)て(た)も(指)を(わ)く(也)の(如)か

まろくと世の徳(う)し(て)信(た)り(又)也(字)を(ま)く(也)

○運字(口前) 意(て)事(あ)ら(ぬ)一(心)の(か)ら
そ(め)て(運)ぶ(事)を(運)ぶ(事)ハ(腕)を(ま)く(腕)を(ま)く(也)
ハ(心)を(ま)く(小)指(を)も(指)を(ま)く(て)運(ぶ)る(也)

○書字(口前) (写本、淑慎亦書字俗稱ニテ)
書字(字)下(り)先(途)入(つ)り(初)め(し)途(ヲ)知(り)サ(レ)ハ(邪)々(大)道(ニ)
入(テ)教(十)年(第)一(石)は(切)た(し)道(ハ)小(善)有(三)三(ノ)道(三)三(之)
ヲ(明)つ(ニ)加(り)り(足)字(法)ヲ(心)ニ(知)ラ(ズ)ラ(ズ)熟(ス)ハ(切)ヲ(チ
ス)テ(知)書(字)字(ハ)知(功)ニ(ツ)全(ク)カ(ラ)セ(ハ)ナ(ラ)ズ(ト)云(り)今(ノ

書ヲ名ハ量法ノ理ヲ窮メテ唯人ノ字傳ヲ寫スニナ
 リ美之敵之ヲ書ヲ名傳テ又分難キ秘ニ書之傳ハト是レ
 是ヲ書書ト思フハ道ヲ知ラザル也人ノ字傳ヲ名ハレテ
 寫ス是ヲ奴書ト云テ唐書ニテハ賤クシテ書ヲ書スル法
 フ子ト字傳ハ我心ノミニ書マセ也書法ヲよクシテ是レ
 之書故ニ傳レシカニシテ人前ノ書ヲ書テ是書ヲ字ト云
 〇書ニ秋極唐極ナシ(日記)
 唐書ノ書ト名衰々ト云レ宗以來書ハ法別ヲ失テ風流
 洒落ヲ好ミ唯文ノ飾ニシテ質ノ量法ヲ失ヘリ一明ノ

陶宗儀ト云人ニ一宗世比日本多ク右軍書ヲ學
 ヒ傳円通大師頗ハ量法ヲ傳リト……又日本保
 友全ト云モノ中土ハ流リカ十字ヲ以テ詩文ヲ寫スヲ
 見テ書物縦横ニシテ紙帖ノ形動スルカ如ク張旭
 懷素ノ遺風アリト云保友ノ……實示レ此
 明人ノ信極書ヲ缺キテ思ヒ是ヲ習ヒ唐行ハ行
 テ俗人自ラ眩シ流リス故ニ唐行和紙ト云フ
 元末書ニ漢和別ナキ也今和紙ト云フ者
 祝王ノ降凡ニ書ヲ極致ニ使フテ成リ又筋

カヲ練ルハ考原ノ趣ガシク得たり近代ノ俗
トモノ明人ノ表多ク其傳ニ其法ノ俗多ク
今ノ和將トモモ人亦テ古法ニ近シ……其法
フハ昔法ヲ習得テ用ルモノ、是ラ非ズ正ニシテ其
思ハルハ傳正ニシテ其法ニ其トトハ其法ニナリ
古法ヲ其ト思ハル古雅ニ其トトハ其法ニ其トト
ハ美シク其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト
前ノ趣ニ其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト

傳者セテ其法トモモ其法ニ其トトハ其法ニ其トト

師ニ傳ヤル (つひ前)

道ヲ知テ手ガリナキ故人ノ如クトモモ其法ニ其トト
フヲ巧ニ其法ニ其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト
師トシテ習ヒ其法ニ其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト
ヨキトト思ヒ其法ニ其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト
トモモ其法ニ其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト
上達スルヲナシテ其法ニ其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト
佩文書其法ニ其トトハ其法ニ其トトハ其法ニ其トト

見ル

淳化法帖 (同前)

古人筆法ヲ見ル中ノ最クモチ
此法多クハ皆元板ヲ翻刻シテモ
ナク字ノ趣又規ヲ唐マテ皆同
元板祖石刻ハ卷首ニ墨一寸八分横一寸六分
朱印アリ印中小篆ノ朱字ニ緝熙殿寶ノ四
字アリ今ニ朱色墨ヲ受レリ此印ヲ証トス
觀太清樓淳化帖内司本戲魚堂ノ題不
星鳳樓玉烟堂寶晉赤群玉堂信雲館

戲鴈堂書ノ墨本
化法帖ヲ増板シテ翻刻シテ
又モ也

書ノ三帖 (口初)

三帖ハ紙者、紙肉、骨肉均円也
筆端ニ白書反、神氣骨肉血ノ丸モノ一モ軟テハ書
ヲ成サスト

墨猪、粉鶴、和勢 (口初)

墨猪ニ筆重ク漆ヲ塗リ附ス如クモノ
粉鶴ハ筆輕ク塵ヲ掃ク如クモノ、此ニハ紙肉

三ノ骨カキモ也

邪幣ハカニ信七紙へ強ク當リ、メウタニ早ク其ク
コトナリ。辨ハ本人ノ言フ違者ニ對テ云々也

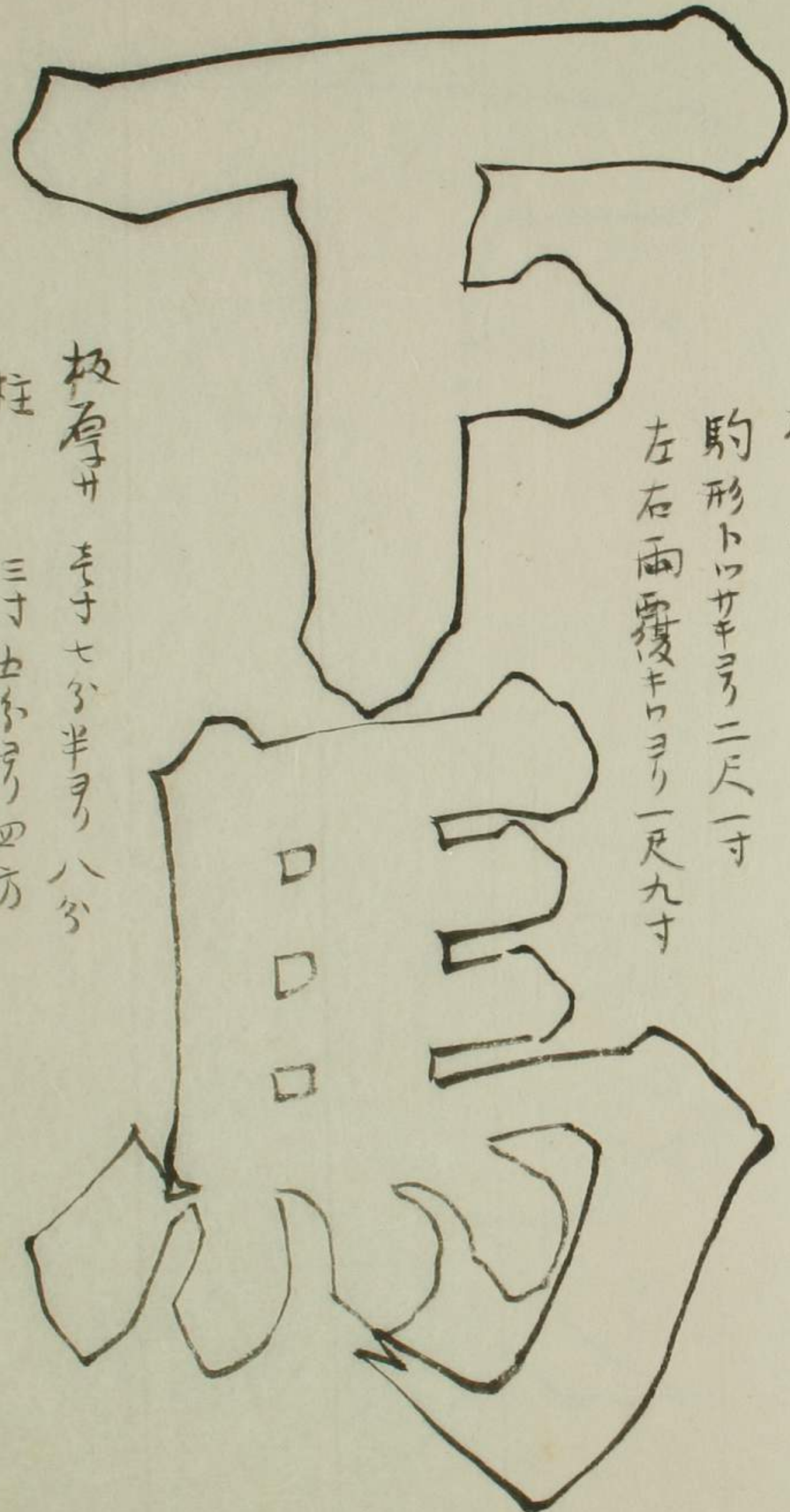
骨カヲヨクスルモハ骨多ク、骨カヲ能クハ其者ハ肉
多クハ骨多ク肉微ナキモノ之ヲ節書ト云 肉多ク骨
微ナキモノ之ヲ墨猪ト云 カ多クハ節書ト云モノノ聖
也ト云ナリ

○本朝字府秘傳(五百年前田回南編 宝永六年)

○本朝額ノ始リハ惣物四天王寺石ノ鳥居ノ額ナリ人王三
十二代用明孝二年丁未十月ニ聖德太子四天王寺ヲ建
立アリ別々自等ニアリハシタルハ太子傳正法輪藏寺ノ初メ
アリ世然ニ小野道風書ト云ハアマリナリ鳥居モ昔ハ木
ニテアリケルヲ人王九十一代伏見院永仁二年沙門忍性此寺ノ
主務タリシ中木ヲアラタメテ石ノ鳥居トス中心ノ心ノ字藏ニ
神儒教三道中体当方心ヲ付ベキナリ 歌ノ集ニモ此心ヲ云
ムルアリ 若玉集

神カ品昂是道場ノコノロヲ云々 慈鎮

コノ國ノ難波ノ浦ノ大寺ノ額ノ法コソマコトナリケレ
此外賴政家集等ニモヨメル哥也アリ略之太子コノカキ
聖武天皇大仙殿ノ額嶮峨天皇神泉苑ノ額ヲ始テ代々



板の法式

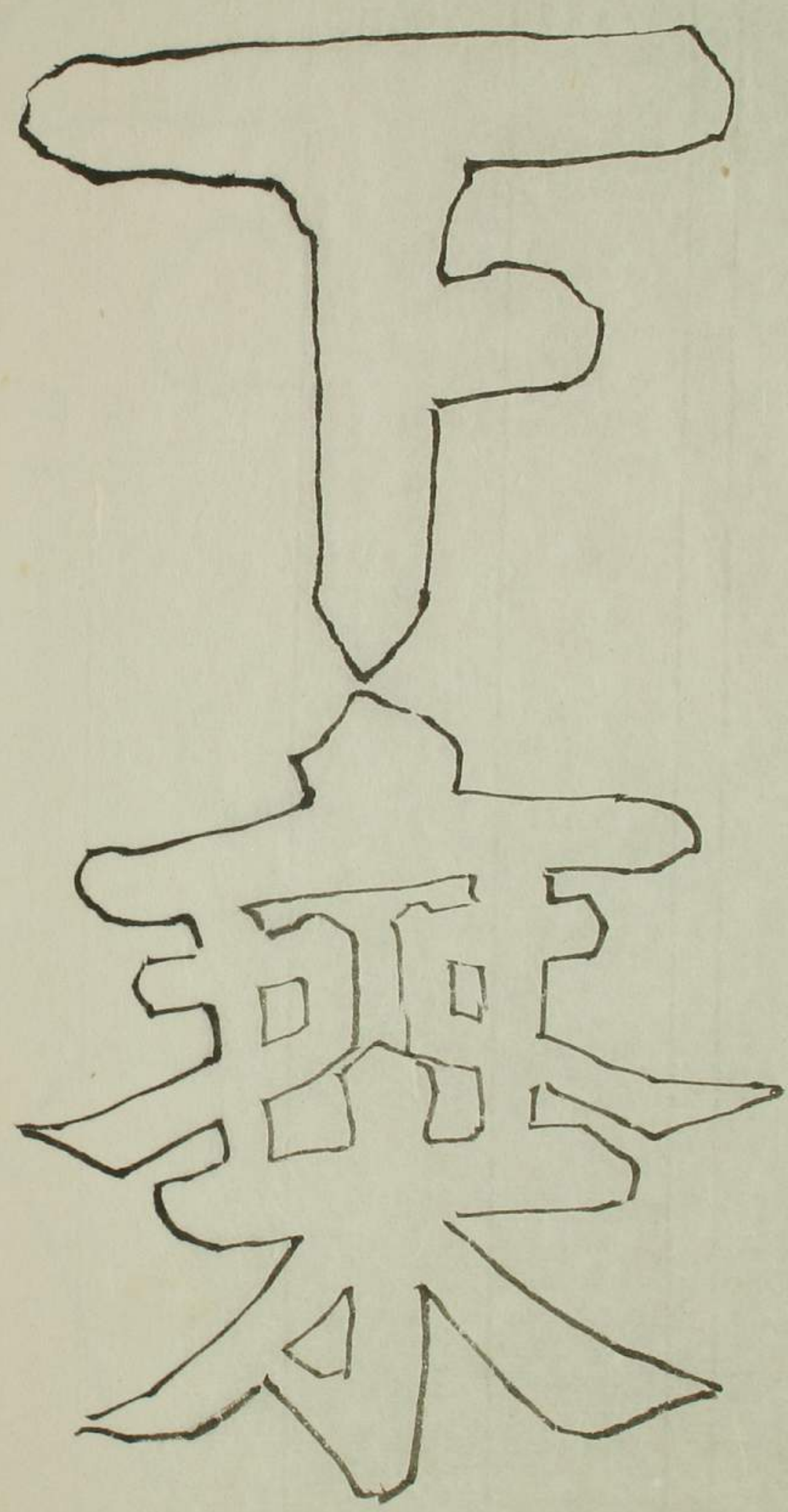
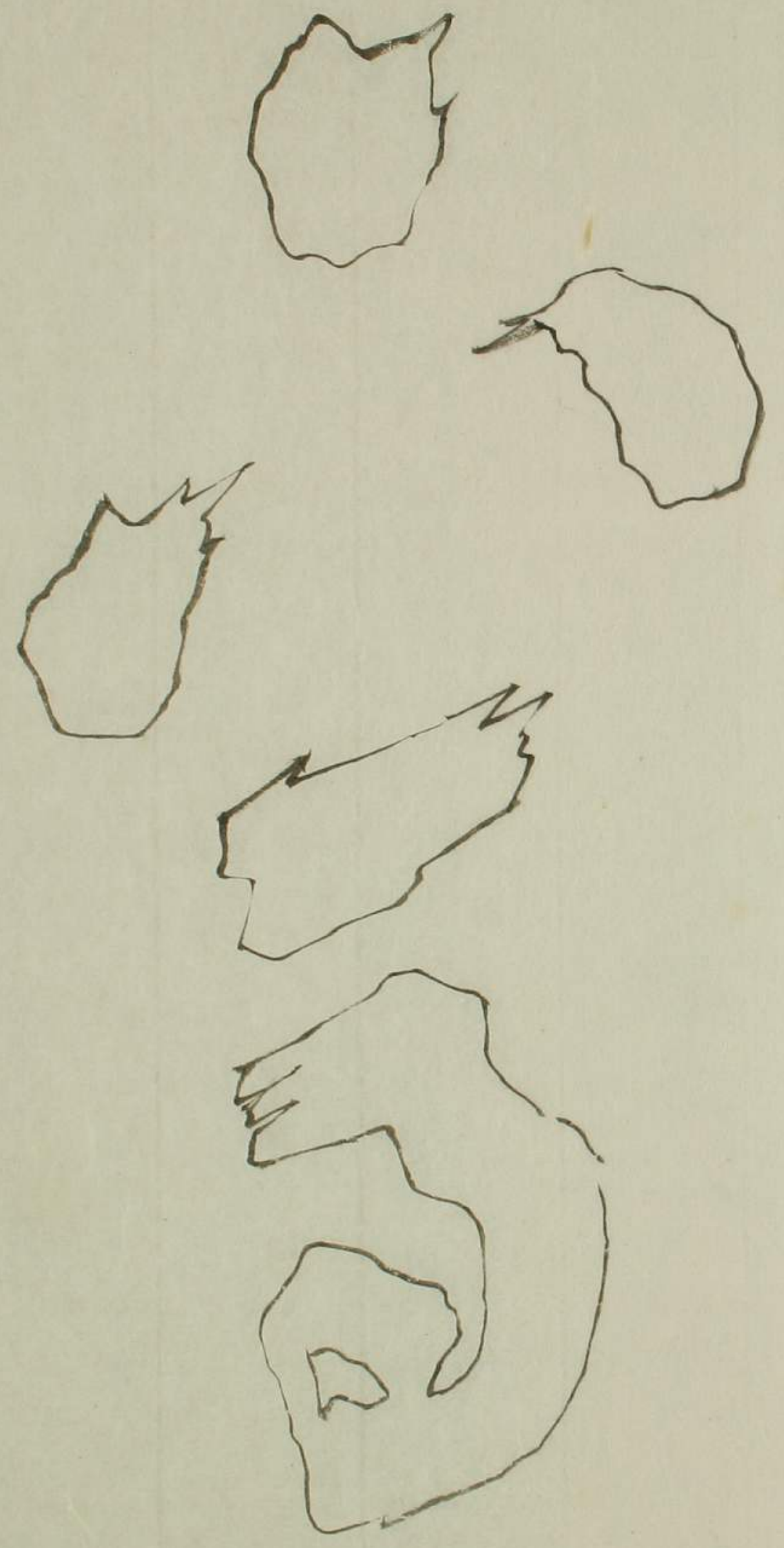
駒形トツサキヨリ二尺一寸
左右両覆キヨリ一尺九寸

板厚サ 七寸七分半ヨリ八分

柱 三寸五分ヨリ四寸

高サ 九尺三寸ヨリ五寸ヨリ

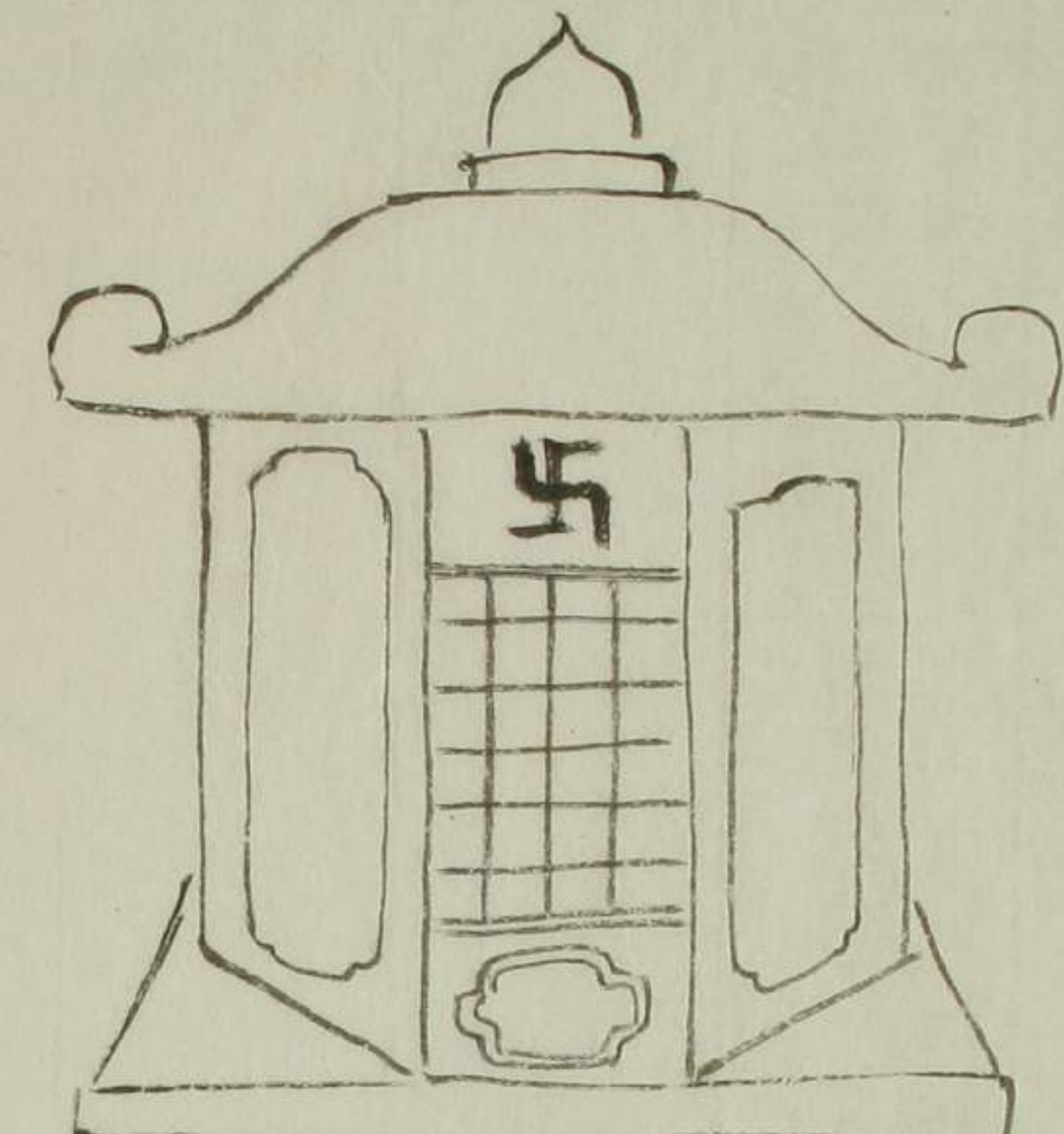
御門御震蕩ニアリハ下ニ臨フ類ホ諸國ノ神社仏閣
ニ敷多アリ、亦弘法大師ノ類字寫ニアリ古代ノ字體
一ナラズ唐土ニモ畧書ト云テ此類作アレバ猶一様ナラズ、
世ニ云所御震蕩ハ豎額ニカヤリ其外ハ横額ノ法ナリト云ヘ
氏神樂園吉田ノ社、日高日宮ノ類ハ佐理卿ノ等ニテ豎ナリ
西國日向大明神ノ類モ小野道風ノ等ニテ豎ナリ



祇園社

此所可書

永代常夜燈



願主

後

名

年号

月日

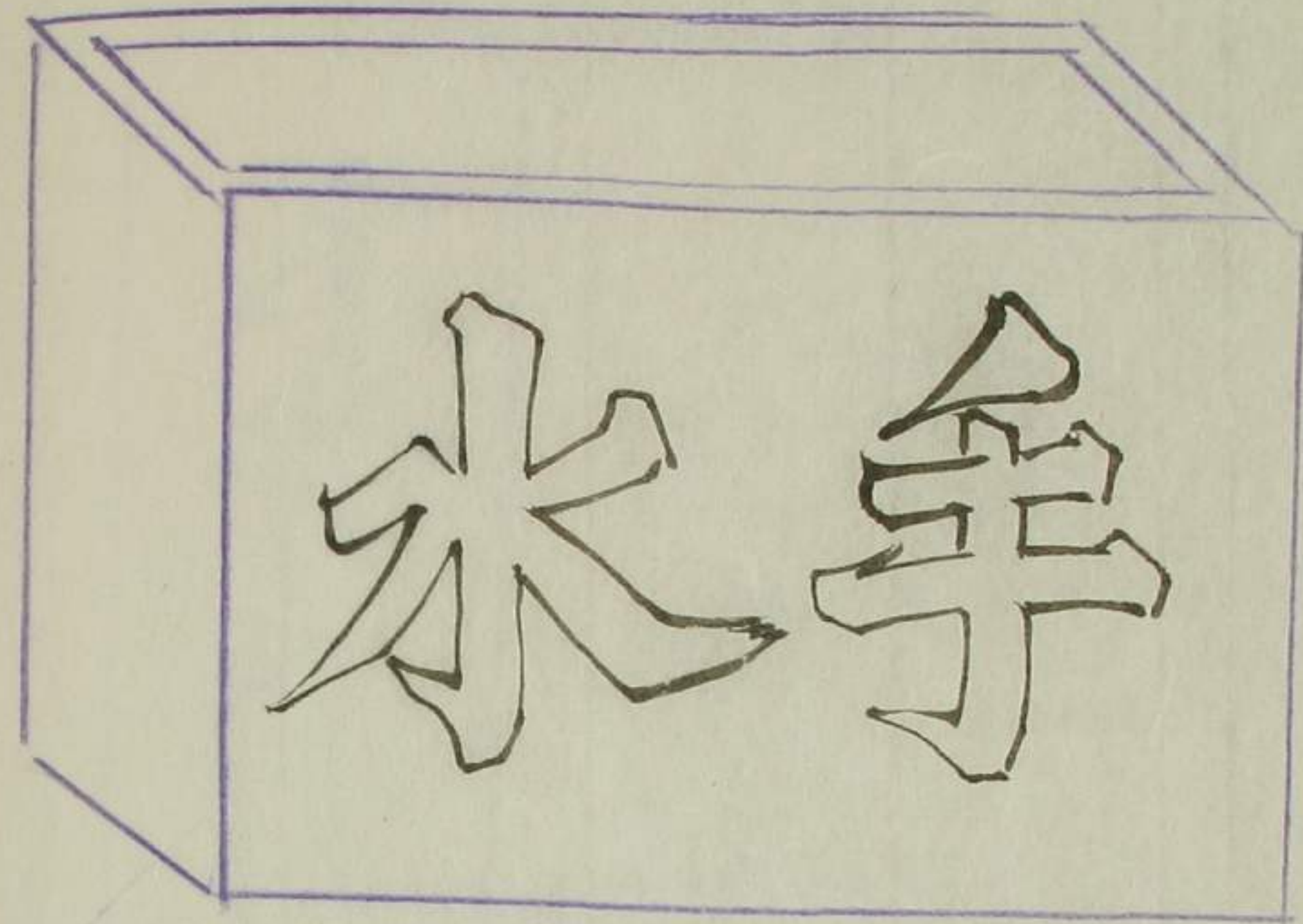
○寸法極リナケレハ凡陰敷ヲ用テ四尺六尺八尺等也横ニ

不許酒肉五辛入門内

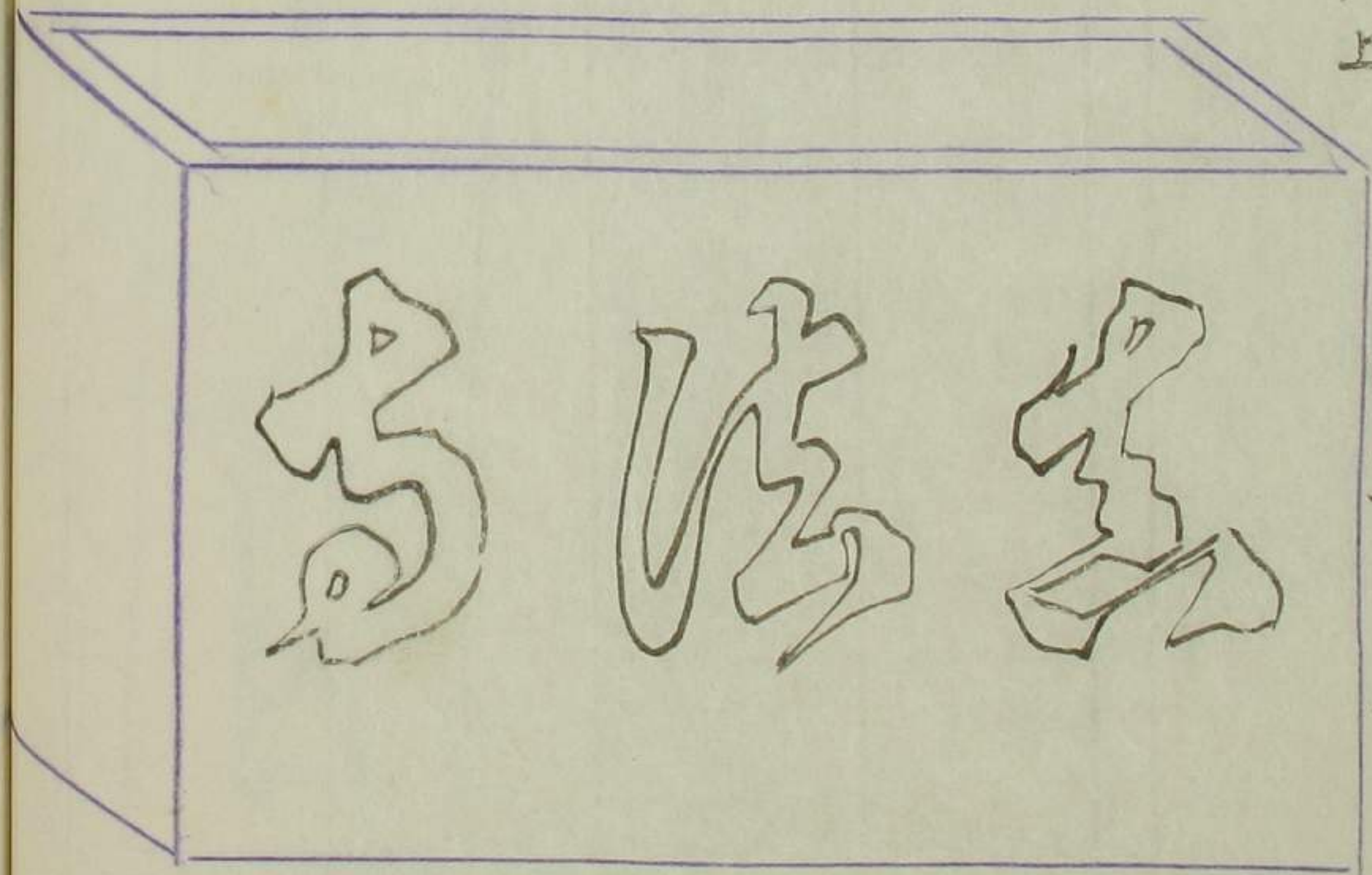
何院境内

○是寺ノ類ニハ石ニカキラズ杭板ナトニモ記セハ其物ニテリ
文字ノ取合其外ハ右ノ意得ヲ以テ可書

八幡宮
 八幡宮
 八幡宮



裏
 寺社
 年月日



口上

此所施主名

繪馬
書方

奉掛御神前

年月日

願主

宿坊

敬白

諸願成就御神前
左ノ如ク書之

諸願成就所

八景詩歌書方

瀟湘夜雨

先自空江易斷魂凍
雲粘雨濕黃昏一孤燈
蓬裏聽蕭瑟
祇向竹枝添淚痕

かちゆく々々暮るる雨也
ふるまよせぬのちのちの
わづらのささるる

洞庭秋月

西風剪出暮天霞萬
頃煙波浴桂華漁笛
不知羈客恨直吹寒
影過葦花

いくちさそ日かり
えかしにほこる浪
にはてなまあま
よめつこ

遠浦 帰帆

遠界まよふ一棹
秋潮平波浪
接し舟楫橋
漸く暮色を去
あまのつゆ
江上
秋

おのゝかきをよ
ふけやあまのこ
かへりよやま
あまれ
ゆり
あ

山市晴嵐

一竿酒旆科陽裏

粧箱人家烟崎中

山崎碎眼歸去晚

大栗日暮不_二春風

三_一竿酒旆

科陽裏

粧箱人家

烟崎中

山崎碎眼

歸去晚

小川初居

古堂首_一笠洗

長檜

家_一の_二初_一居_二

衣_一之_二江_一是_二衣

洗_一衣

御_一湯_二雲_一詔_二向

斜_一陽_二刷_一疎_二常_一

りかよひ_一の_二衣_一を_二洗_一

ま_一り_二の_一衣_一を_二洗_一

か_一の_二衣_一を_二洗_一

こ_一の_二衣_一を_二洗_一

漁村夕照

漁船河汀感乱秋

江浦江村闹急帆

呼号里河大船碎

帆着初风急暮帆

ゆき

かき

かき

りん

かき

うき

うき

うき

うき

江天暮雪

雪浪江天暮

玉簫声暮一

葉穿吟身

前湾吹札

数声梧叶

暮雪江天暮

暮人

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき

ゆき

・献立書方

是ヲ請作ル云或ハ月日刻ヲ書ス

献立

羹
湯汁凡

簞

但精進白ハ膳ト云飯

二

或引テ香物塩梅アリ

羊羹

汁

齋物
和物凡

三

指味

煮物

炙物

初献

肴

献々同

御菓子

御茶

後

。祝言状ノ法

一第^{ウス子表}祝言状ノ法

御^{ウス子表}女^{ウス子表}柳^{ウス子表}山^{ウス子表}傳^{ウス子表}迄^{ウス子表}ノ^{ウス子表}度^{ウス子表}

此^{ウス子表}五^{ウス子表}洞^{ウス子表}子^{ウス子表}林^{ウス子表}乃^{ウス子表}年^{ウス子表}日^{ウス子表}知^{ウス子表}度^{ウス子表}

御^{ウス子表}儀^{ウス子表}此^{ウス子表}度^{ウス子表}与^{ウス子表}存^{ウス子表}在^{ウス子表}諸^{ウス子表}事^{ウス子表}

亦^{ウス子表}様^{ウス子表}初^{ウス子表}ノ^{ウス子表}午^{ウス子表}之^{ウス子表}日^{ウス子表}降^{ウス子表}通^{ウス子表}

御^{ウス子表}儀^{ウス子表}此^{ウス子表}度^{ウス子表}与^{ウス子表}存^{ウス子表}在^{ウス子表}諸^{ウス子表}事^{ウス子表}

祝言状ノ法

一第祝言状ノ法

御女柳山傳迄ノ度

此五洞子林乃年日知度

御儀此度与存在諸事

亦様初ノ午之日降通

御儀此度与存在諸事

亦様初ノ午之日降通

御儀此度与存在諸事

亦様初ノ午之日降通

唐紙よりしは 一ひふりき 干き更くしむは
 破水と破とわがよ
 布とくき 煮たるく 昔水と 湯昔の 煮たるか
 かがよ
 漆をこ 糊をこ 箔をこめ 油をよめ 付 糸綿を
 かが 糊をこめて 拭ふ
 栴檀に じむりの かり 古酒の ときを ぬき けりき 陰
 干し 干きを とり けりき 掲る せき

又唐紙をとりき 陰干し 書くとき じむりに けりき

寔夜 破水凍る 時に 水在く 肉桂と 砂を 納む 色にて
 漬るく 丁子も けりき

六枚折屏風書方 (本邦子府秘法巻五)

沙頭 雨 漆 琴草	やう 唐紙 子紙 破紙 書方 破紙
水面 波 琴草	赤くは けりき 破紙 書方 破紙

守山出月狂花歌

糖而花泉物倍聲

小倉山ふりふり
かのかにゆわ杖乃夕光

不堪紅

葉青若

地又是

淨凡言

雨天

つゆき

かれと

いたくもれや平八

下柴のこころは

そら

山遠

雲

押

汗客

破旅

人夢

まうに乃こ
見とくや
松平凡
がや
あま
あまの山
中

十八二葉霜及露一子年冬あやゆ

秋又くもりし
あはる若杖の娘たつ世廻りん

寒流言月澄

如鏡

むく年代折るも

や鏡

夕吹和栗利

似刀

見よかけさく

杖も

嘉辰念月秋

七換万歳牛

林繁東史

あう代いふ世にやちま

やれそ杖の

あうく若乃

□□

仁

越人の心をなまよに立田山
のうらみの病に於てほくも

義

人徳をせむはらにあらん
はとまよひの心なまよひ

禮

竹乃友も心の心と人として
かゝる心は人なり

智

道に何せよまよひの心
はとまよひの心なり

信

小車に棲むゆゑに信を
これこそまよひの心なり

常

心は常なる物をかりて
心は常なる物のほくも

禮

以制中

樂

以道和

射

以觀德行

御

以正馳驅

書

以見心畫

數

以盡物變

二折

龜

麟

龍

鳳

世
以
之
思

呂

吳
竹
表
母

升

之
以
之
也

表

心之制事之
直盡正之心

義

。衛之書元

裏

心之
古々々
心之
心之
心之
心之
心之
心之
心之

春興

百敷能大官人者何心同安連前
左九行柳美食俾毛久良し都

秋夕

あまはなを御中よりかへんたるをね
むきぬる風葉のしるほ

口口

書法、自來

蔡邕云、書、肇於自然、自然既立、陰陽生焉、陰陽既生、形勢出矣

桐香中村豐著
筆道本源書法問答、抄 (明治卅六年十一月十日博秀堂發行)

○筆ヲ揮フニ、身存威儀傳テモ、テ左ヲ實トシ、右ヲ虚ニシテ、回腕自在ナリ

○書法ノ起源
蔡邕、高山ノ石室、五岳ノ中ニ、養ル、三年、時ニ神(敎光仙人)ニ、運筆ノ法ヲ授ル (天知附記、筆法秘傳抄ニ、邕、筆法ヲ、息女蔡琰ニ傳テ、書法ト云フ者、亦授ル、魏、鍾繇、穎リニ、望メトシ、許、不、繇、歎キテ、胸ヲ打テ、張、曹操、練、草ヲ、与ヘテ、稱生ス、後、誕死ス、繇、其墓ヨリ、筆法ノ書ヲ、掘出ス、瓊男子、テ、衛夫人ニ、傳テ、夫人、之ヲ、手、之ニ、傳テ、弟、之、歎、之ニ、傳テ、此、時、之、其、法、秘、一、子、相、傳、ナリ、此、後、唐、代、ニ、張、旭、懷、素、宋、代、ニ、米、芾、蔡、軾、

元代ニ、鮮、于、樞、子、昂、明、代、ニ、祝、枝、山、文、徵、明、朝、鮮、ニ、梅、菴、梅、陰、等、相、傳、也)

○執筆法
執筆五法、下、而、大、中、小、細、之、各、異、ナリ、且、又、机、上、ト、提、腕、(下ニ、振、(筆ヲ、揮、)シ、)其、法、ヲ、異、シ、古、傳、單、鉤、三、字、口、訣、次、法、五、指、双、鉤、三、字、口、訣、猶、撰、鑑、ト、稱、シ、テ、五、字、又、七、字、八、字、ノ、口、訣、等、ア、懸、腕、ノ、大、字、三、用、(又、上、ノ、字、)等、筆、管、ヲ、腕、ニ、懸、テ、手、ヲ、足、ノ、上、ニ、順、逆、共、之、ヲ、施、ス、而、直、下、ス、ハ、自、然、中、ニ、存、ス、之、ヲ、以、テ、懸、腕、直、筆、ト、簡、約、セ、リ

○撰鑑
撰、手、細、心、ニ、見、テ、大、指、初、指、ノ、主、心、所、鑑、ハ、ア、フ、ミ、見、テ、右、中、二、指、ノ、主、心、所、手、細、ト、鑑、ト、手、足、連、結、ノ、妙、術、ニ、依、リ、執、上、人、ヲ、執、下、馬、ト、テ、所、謂、實、指、虚、指、ナリ

古人曰、双鉤苞管、氣貫筆、手、心、之、毫、毛、異、若、士、之、ト

ス。邪執法 筆を傾くは強くて正直を主とし肘を張出し筆尾風ノ

如ク曲ゲ頭中名小ノ指ニ付テ大指ヲ中指ト相白ハシメ掌中ヲ空虚ニ

スル執リ方ニ付テ 估々中庸個臨筆也 (筆法公冊初巻附屬ノ) 三云

玄妙難操ニ其シク之ヲ辨認セリ、一斯ク如キ邪法ヲ古ノ狼狽者

ノ戯ケルニトモ在テ各第ニ敵シタ方而メ漸ク又今年年ノ痛

一層誤秀ヲ加テ再興セシモヤ想像ニ堪ヘリ、一、空々々々雷名

云モ左社結僂代ニ在リモ用ヒガキ彼ノ虚法ニ魔碎シ居ル由

ナリト云

・使筆名目 上等、下等、中等、遲、重、輕、
單、厚、薄、縮、伸、捻、回、裏、

切、竊、春、淋、切續、迎、折、膠、

片、後、凹、角、退、域、豎、横、左、

右、長、短、面、端、留、細、太、少、

開、端、及、枝、落、弱、振、合、納、

撇、植、糖、曲、卷、逆、出、巢、繼、

疎、心、折、趨、轉、提、削、躍、側、錐、畫、

尾、流、俊、疾、陰、陽、暗、印、派、撫、

浮、沈、

ス。○軟之謝安ニ誇テ曰我草草ハ一畫間起伏干鋒抄ト即チ直

筆ニ非ルノ一点ナリ

又。韓方明目。今人双鉤苞管ヲ貴ブト是也 古傳單鉤ニハ如クト

(苞管ハ名指小指兩カウカ微ニ依ルト註セリ)

又。無味直管。トハ只管ヲ鉛重ニ執リ之ヲ直下セシメテ正管ト

心得スモクモヲ專ラ管ヲ直スルニテハ顯藏ノ二法ニ過セス

一星中ニ濃淡ノ味ヲ生ゼズ加之肝要ノ陰陽ニ從ハサバ三折

ノ生ハ所亡次チ自在ニ管ヲ屈フト然ルニテ却テ直管ニ得

ヨリハトヤ 膝ニ如ク引ル等ハ膝ノ所必直ナリ自ラカエ湯ノニテ短約ニテ

又。本傳ノ直管。直管即チ正管ハ腕ノ陰陽ト口ノ呼吸

ハ密着ノ關係ヲ有ス而シテ三折ナクモ自也其通管中ニ含

蓄ス別チ管直ノ所ナリ 正管ハ藏鋒ノ骨體ナリ又之ヲ

箱畫沙トモ云フ凡テ使管通用ハ管頭法ニ依ルニ世人

云々能シ氣直管ノ如ク管ヲ下シ管中ニ只直ノニ依ル

是レヲ正管ト稱ス

又。本傳ノ直管ハ字ニ依ル 直管ハ義分カ各傳ニ帶サルコトナシト是

氏等ノ用スルハ象書ナリ草書ハ過半ニシテ用ユ一点ノ中ニ區淡後疾

アリ俊リ疾トノ間ニ直下ヲ正管ト知ルニ尤モ此中ニ猶若クナ

リテ世形ノ血法及ヒ此法ノニ法アリ

又。管頭法。心ヲ管ノ本ニ止ドメ眼ヲ水限(管鋒ノ下)ニ附ス

又。正管懸腕中ニ含ム肝要大モノ 懸ト正トノ中ニ含ム肝

要たハカ一 躲欄、印々泥、十藏、五出（十蔵五出ニ法アリ今
 説ク所ハ筆鋒出入）又十通五急左顧右及ハ一字ノ中或ハ一
 行ノ中書ク変化大コトナリ 一行ハ一字ハ見做シ又數行凡モ一
 行中ヲ一字ト見做シ日形日畫同ト云テ遊クニシ
 ス
 十蔵五出一法

各字書ク異ナリ然レ其大者ヲ云ク 横畫ノ長キヲ出ト云短
 ヲ云ト云、字中三折ハ運筆陰陽ノ境界ニリテ長畫長
 短ニ依ルモハ非ス是則正筆ニ運ル所大ナリ折ハ此ハ
 一に故ラニ折（スルニ折ハ折ハ是ラ尤モ茲ニ説ニ開對ニ列
 レハ折ナリ其一自レニ合テ書スルヲ背テテ法書中ハ使筆ノ呼

吸ヲ悟スガメニ故ラニ筆痕ヲ露スコトモ有ニシ

ス
 三折法 三折ハ其急畫後極斜ト又筆尖所ニ依リテ若干後
 急ラ急ス入自ラ疾ニ属ス三折ハ此ニ急ニ急ラ急ラ上ニ止ル開ナ
 レ作又眼心ノ左右ニ轉スルハ如シ

ス
 躲欄 一ハ真行草ノ上ニモナリ草行ハ最モ快ハニ易
 ケレモ有書ノ一ハ文辭ニ了シシ 難所アリ 躲ハ筆ノ鋒
 ナリ筆鋒ヲ欄メハ中ハ心ノ肩アリナリ所ナリ 亦ナリ心ノ筆ニ切
 ケレシ坊合ヲ生ス 又ハ心傷心ノ快ニナリ

ス
 筆ノ肉皮骨 一ハ三毛ノ整々スルニ三毛ハ筆ノ鋒ナリ
 鋒ヲ針面ヲ皮トシ肉ヲ肉ノ中心

る。書ノ皮肉ヲ 書ニハ何レモ細大ニ度己ハ其ノ字ニ依リ

テ癩肥ノ加減ヲ課リニ毛ノ形を以テ之レニ去テテ書テ

純肉、純骨ハ書ノ病トス

ノ筆ヲ執ル下法

楷ハ思類ヲ右ハ行ニ行ハ三寸、又筆ヲ捺ルハ

楷ハ筆鋒ニ至ル一行ハ五合、草ハ七分ナリ

ノ東坡ハ 本傳ノ人ニ非スト是ニ 古法 單鉤 白鉄ヲ和メ

ント冬ニ楷ノ間行々間傳スコトヲ傳テ後生ニ單鉤ヲ得

意トス然レバ肝要ノ口授ナカク為メ書ニ於テ敲ツ所多

レト

ノ入木道初開傳ハ何日ニテ得ルハ 之ニ甲乙ナリ 甲ハ二回ニ時向

テ筆ニ七寸、乙ハ五寸ニテ筆フルコトヲ得

○大篆・小篆ノ字形ナク書法 大篆ハ字体柎葉、小篆ハ玉箸

夏形俾體ハ異ナリ 使筆ハ大篆ニ十法、小篆ニ廿八ノ要法アリ

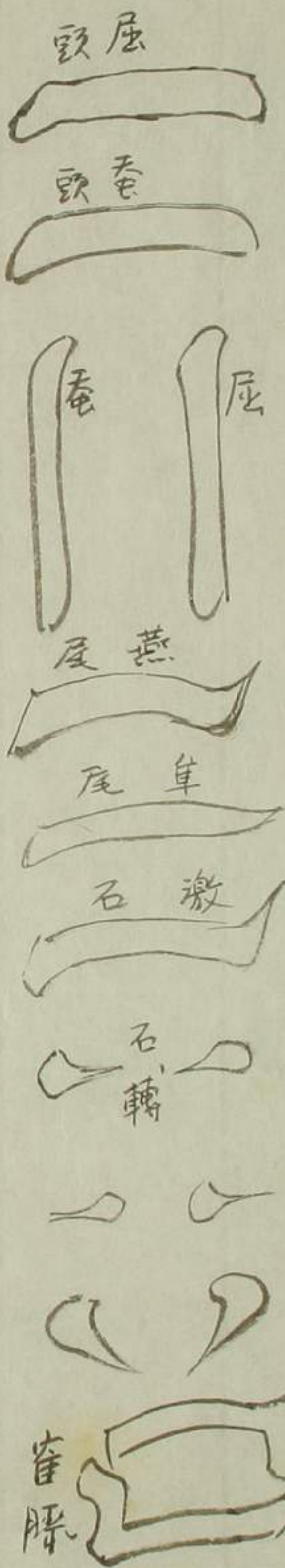
而メ一字中三段ノ造法アリ、其一文、其三字、其三脚ニナリ

使筆ハ大篆ハ遊筆、水中ニ筆ヲカカシ

小篆

大篆 小篆 精 籀

〇 隸書 (秦程頌ノ作、今楷書ノ母体ナリ) 卜 八分 (蔡邕作)
 此ニ位兼用、運筆ハ古儂、十三石、此外略法七念、考アリ



以上七法

程頌、雲陽ノ獄ニ繫セシヨリ、役中ニ發明シ、体ナリ書傳ニ曰、本末ハ今ノ真書、称位ニ上ニセ、世人其履歷ヲ賤ニ如隸書ト云、今ノ真書ハ隸ニ淵源セリト云

〇 散隸 晋ノ衛恒ガ散隸ト名ケテ之ヲ考セリ、隸ニ近シ真ニ近シ、弘法大師ノ真跡ニ是ニ高尚言ク可ラス、其後漸々美ニ度リテ

古隸

悟五瀟秋
 禮書骨髓

近作八分

崩

峇

嶽

意

挺

筆

近俗作

光

肩

火

嚮

速

如

電

散隸

意

在

筆

後

者

敗

獨草作

飛花子集

一等竹作

不

菅原竹伴

三月廿八日 福田中三虫成り 凡ノ為ニ 枝葉ノ息々 甚クハ 状ヲ云

妙之草

連綿竹伴

水之草

章竹伴

花之草

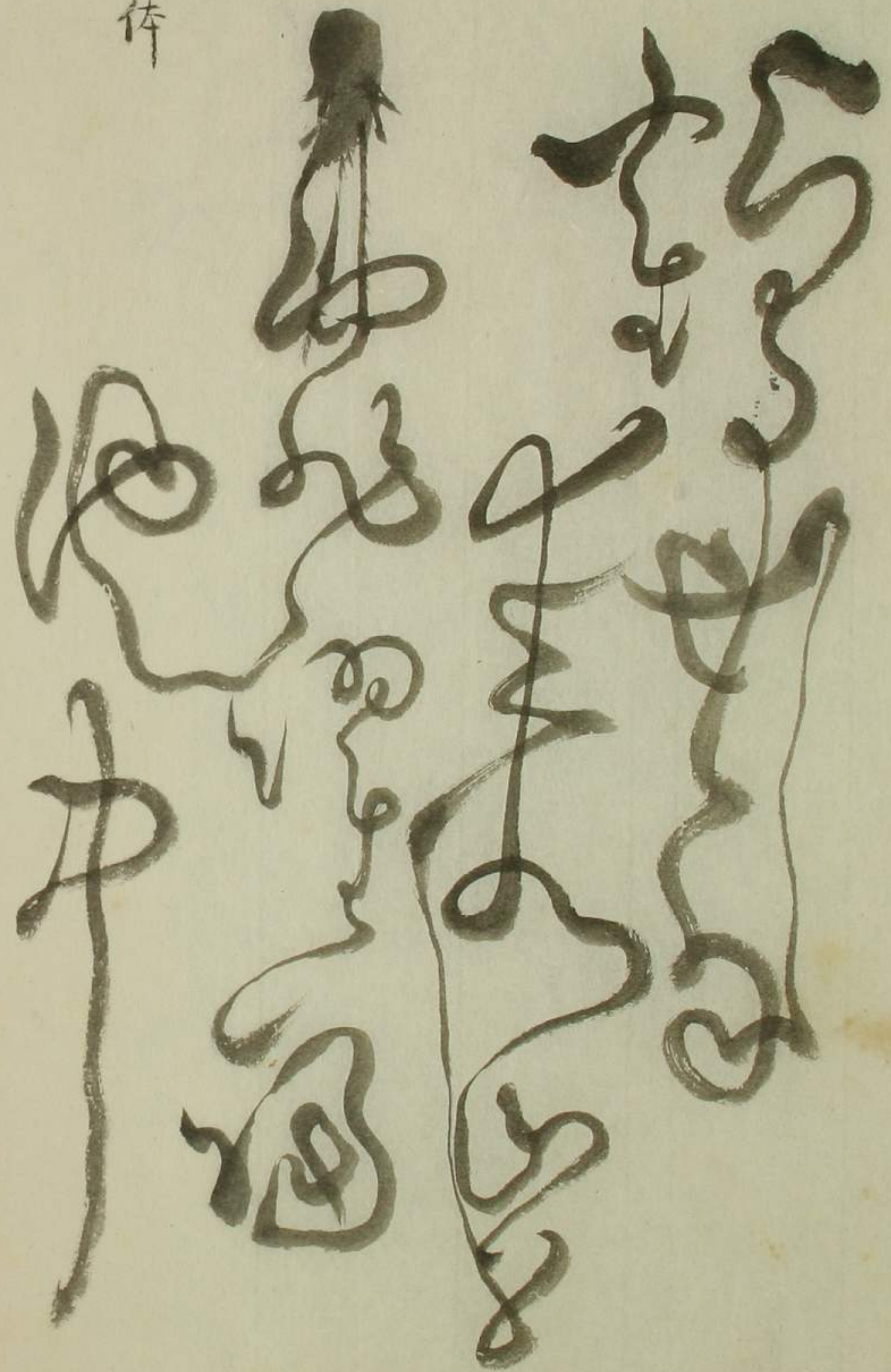
遊絲草伴

新之草

先法既得
如好巧解
如好巧解
如好巧解
如好巧解
如好巧解
如好巧解

屋漏痕
如好巧解
如好巧解
如好巧解
如好巧解
如好巧解
如好巧解
如好巧解

狂竹体



殊に王右軍勅之ノ文字猶美体ヲ工ニテ終ニ今ノ楷ニ至ル

。行書ト草書

行書ハ真ヨリ略セシテ劉德昂作ルト傳

果シテ如何、草ハ小篆ヲ変セシテ今ノ組織法ハ略篆事ト其

意ヲ同フシ字体モ世ニ隨テ変体六種アリ、即チ獨草、一

筆草、葉草、章草、遊絲草等之ナリ（字体ヲ示ス）

。別書體

古字體蝌蚪新編別書體ト（別書體多クハ白

魚ノ骨解解信杖心畫ノ柔弱即今ノ悦ヒ美ス体）山石體ハ唯

婦女子ノ好ムキ美觀ニ流ル一方ニテカサナシ

。屋漏痕

顏志卿ノ悟リ何チ雨ノ板面ニ漏ラセバ方ニ道ヲ

ル形ナリ也此ハ形ノミヲ以テ可ク不自然ニ流走シタル所ニ至ル

神意アリ是ヲ云テ草書ノ号施ヲホス所ナリ

の無法ヲ入テ無法ニ出ツ

悟定後ハ法ニ全ク不用ニ属ス一旦悟

ヲ草書テ法ヲ捨テ、法ニ入り又法ヲ出テ忘ル、ニリリ此花一時ニ忘レ法
キハ久シキ男懐サレテリ弘法大師傳ニ有テ是ニ又テ有テ是ヲ出テ
吾素ニ入テ是ヲ出テ、去テ有テ是素ノ間ニ入ト首ニ於テ
仙人激醒ノ情ヲ詠ハ自他ノ事自他ノ心畫自他ノ言勞
自他ノ三男、工ニヲ能シテ風貌俗鼻ヲ脱ス等ヲ揮テ法
標法ニ合スト云テナリ

の王義之ノ三男

其一筆名、其二虚名、其三氣

男之ナリ 筆名ハ筆痕ニ露シタルモノナリト氣虚ニ名ハ

形ナレバ自知自得見ニシ 傳書ニ曰 筆之絶命セシトス男
執之書ノ骨髄ノ秘訣ヲ問フ 義之ヲ徴ニ只 三男ナリト答テ
強之更ニ問フ、父曰 筆名 虚名 氣名ト 又曰ク 自ナラ筆ニ露
ハレ来ハモノ是レ筆名ト 執 氣名ヲ問フ父曰ク 筆名 中ニ合
有スト 執虚名ヲ問フ父曰 筆名ニ在レハ 氣滿ト答ヘカ子テ
包ケ 眼方如ク遷化セリ云ハ

。行草法

今用ニハ 七急法、其急法、三十六急法、十二直

入木百ハ字形等ナリ

入の支那ニ古傳ノ絶シコトニ付テ

今ヲ去ハ三十年有餘前長崎ニ寓スル 執書ノ清若彼ノ錢ナリ

虎ハ中華ニ古傳ノ絶夫ヲ歎ニテ曰ク日東皇帝ニ巻帙ヲ存
ル者(書持)スルヲ知リ水地ヲ得トセシモ上陸ノ許シヲ得ル能ハリ
ルノ一息ニ関シテ多ク果サレハ恨メリト是則チ氏内人渚狂
華ノ傳説ナリ殊ニ現今東朝ノ情若斯傳ノ絶法ニシテ悲歎
スル者少トモ不刺(余カ)親友前政府引理閣方継儒
及ヒ左文襄公(左宗棠)ト文筆高翰材傳儒章伯和
ノ為ルモ手授古傳ノ絶絶セシヲ嘆信リ(就中伯和氏ト
故リテ名シク我中國ニ後述シ茲年書傳ニ白テ言テ書左
如シ桐香閣於吾國藝菴書法傳源宗時手授之傳既
聞絶果而無紙附紙初在朕統人有之吾

字曰 清前早失傳古碑 至今人未學古人碑 故

研夫得而有特題名 遂悟唐人風

桐香曰 篆法今人依何而學之乎

李曰 篆法別唐人李陽冰一人而已

今法是傳不正 殆然

入の永字八法

所謂側勒努趯策啄磔ハ七ノ字也

因トスニ非ス新ハ八法ノ如キハ俗人ニ示ス者通ノ名稱ナリ故ニ古

ヘヨリ之ヲ公ニセリ然レモ自今ノ口訣ニ至ク公知ト傳ヘ置カレハ今

ニ置カレ者ハ七ノ名稱ナリ各ニ申シテ各包思ヒノ誤解ヲ

誤テ學者ニ示ストノ闕一アリ笑フ(キノ事ナリ)

入木道初門傳表

但口傳列

- 一 身法或傳一附音道戒事
- 一 執字法
- 一 三統法
- 一 田腕法
- 一 陰陽未判口傳
- 一 陰陽三年
- 一 陰陽呼吸傳
- 一 通口信秩
- 一 鯨降氣降三法
- 一 管頸法
- 一 徑極法
- 一 轉骨多連三法
- 一 乾坤法
- 一 附天地人
- 一 餘閃傳
- 一 紙字法
- 一 鉤字法
- 一 永字法
- 一 八字法
- 一 意氣
- 一 字法傳
- 一 八方抱法
- 一 垂珠
- 一 玉盤
- 一 折角
- 一 抄曲
- 一 三鈎法
- 一 三波
- 一 穩重欠
- 一 一字三波
- 一 縱波平波二法
- 一 二水
- 一 附冰偏
- 一 往三復

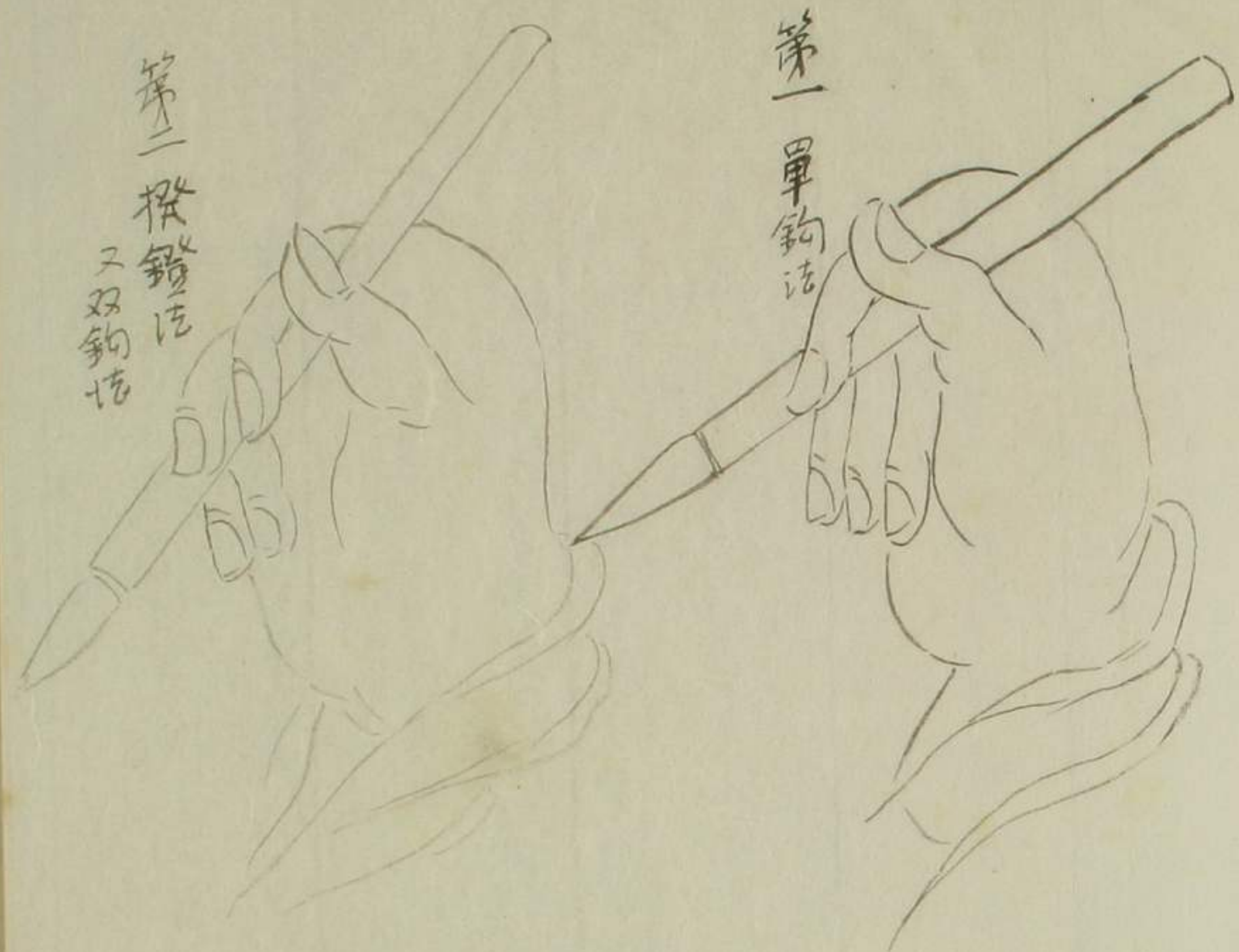
- 一 搭鉤法
- 一 平人中入三法
- 一 無中之中不中之中二心
- 一 三均法
- 一 三折法
- 一 增減忘增減畫
- 一 上寬下寬
- 一 上密下密偏密停密
- 一 三字合伴
- 一 四字合伴
- 一 右左
- 一 垂左短右長
- 一 四脚
- 一 五頭
- 一 程過帶絲
- 一 昇降
- 一 性還
- 一 有象名露
- 一 左張法
- 一 顧右
- 一 屋漏痕
- 一 六停草
- 一 附字有象形口授
- 一 三骨法
- 一 神筆傳
- 一 隸書八分傳
- 一 蝌蚪之傳
- 一 大小二篆
- 一 祖象字位
- 一 生々理
- 一 變化法
- 一 各字万病輕微傳
- 一 印夕泥
- 一 并使筆大事
- 一 錐畫沙
- 一 并使言大事

骨肉均用 一 繞額水傳 一 潤澤傳 一 流澤傳
 一 年露傳 一 孔法傳 一 墨雲傳 一 雲骨傳 一 皮
 肉骨 一 血法太事 一 十道五急 一 十道五也
 二法 一 十起五伏 一 十道五曲 一 畫一傳
 一 太極傳終

奧傳

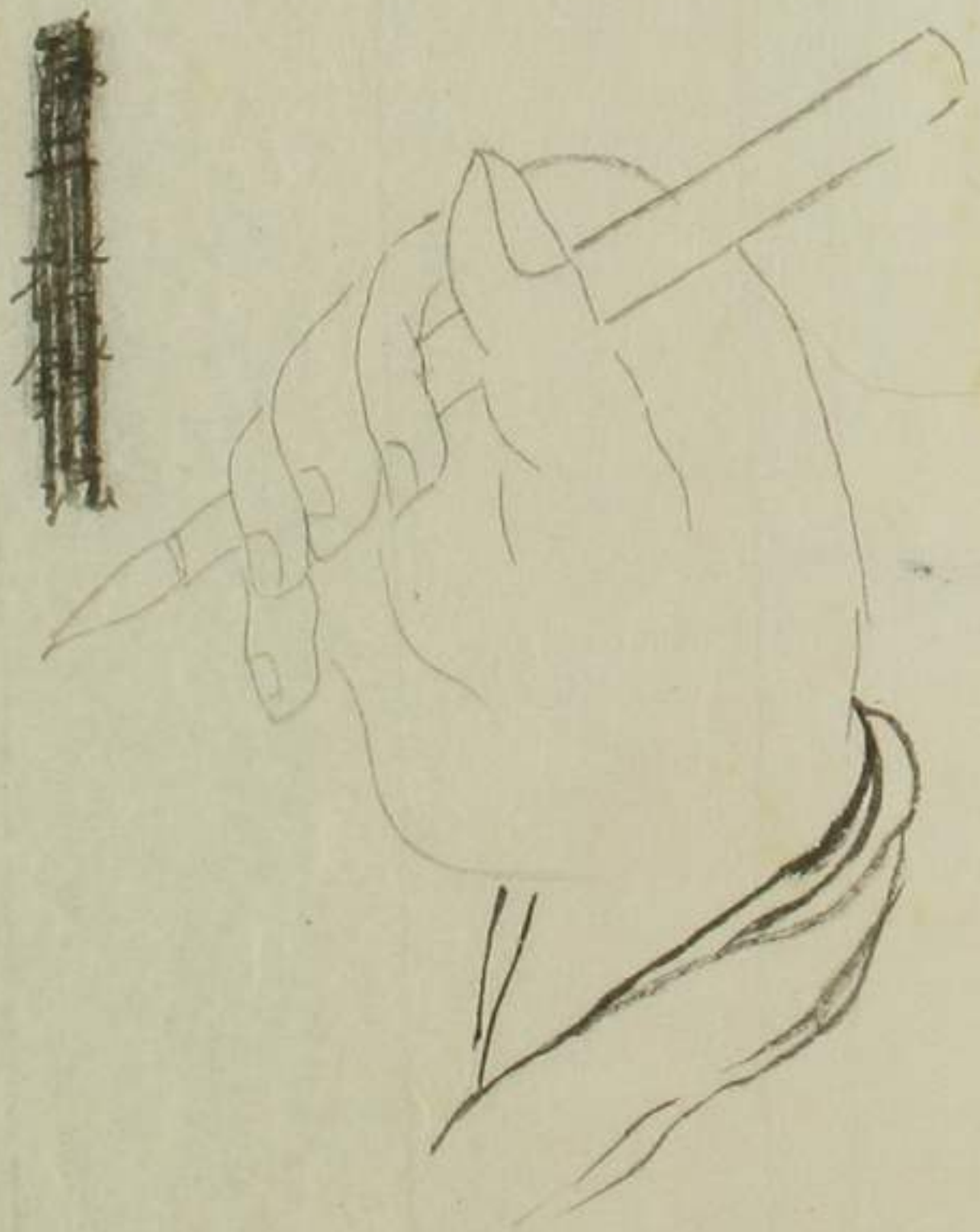
一 高師大師使等秘授 一 伊呂波相傳
 一 大師十二志 一 大師假名傳 一 大師奉行十八形使
 年秘 一 色紙懷妊色葉四考書傳 一 藝道八

分傳 一 三十六秘仙色紙形秘傳 一 藝道五秘傳
 一 永字八法秘傳 一 秦李則小篆傳
 一 神人五傳至三清傳 一 古篆傳十八形秘使等
 一 十二志陰陽之大事 一 切形傳二十上條
 一 秘字傳至飛帛秘名傳等要
 一 神仙三圖係太事書傳一切 一 年道傳表六書傳
 一 下筆札書傳 一 下馬札書傳
 一 大師涉秘等道法第一 一 三天秘會行三十五條
 一 大不道量秘記 一 神仙字傳至神符大秘



第一單鉤法

第二撥鐮法
又雙鉤法



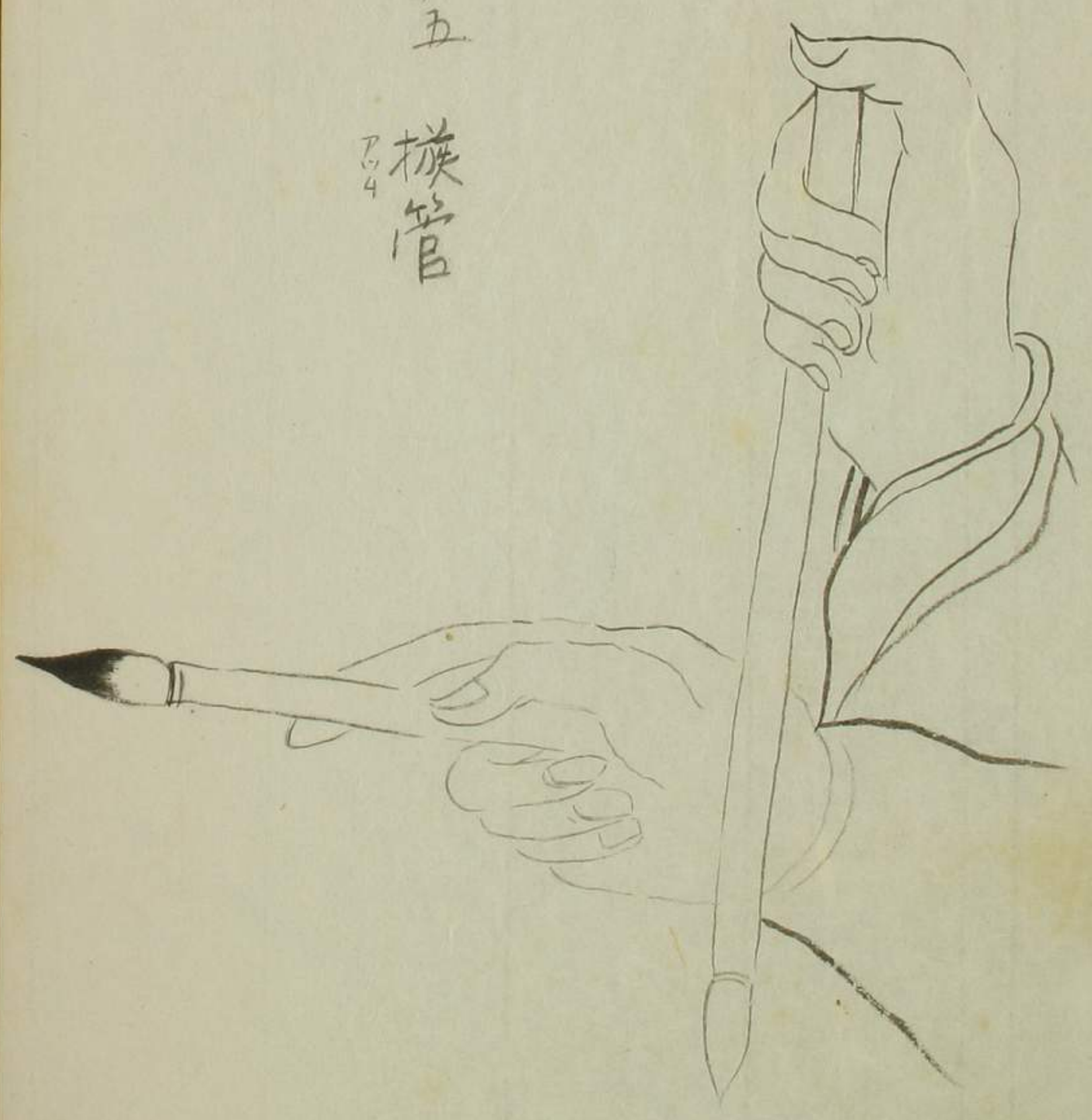
第三捻管

- 五等圖 (菅沼素助著執筆法微考三行)
- 以下限ナキヲ以テ略ス
- 一 五等ノ秘事
 - 一 草書之秘訣
 - 一 大師遺秘七法之秘
 - 一 漢大永記傳
 - 一 書形多々福吉凶大
 - 一 位署性書法傳
 - 一 諸抄書二百二十五條
 - 一 書體十位
 - 一 書傳記ハ十八條
 - 一 繪圖書法十則
 - 一 葉卷傳印墨五
 - 一 私社寺印文及刻法大書

己是也 筆要ニ云フ所トリ

第四 握管

第五 換管



執筆法微考

(江戶自書陽南三自管詔素師述)
二物 川上五郎宗茂書)

一、世史重要曰宋人鍾若水常言古之善書者有得管者上床ノ
 陰希若得之凡九ノ字 撇押鉤格格 自言言出言自三王斯與
 陽冰得三希書一授之管光得其法者為一時之絕
 一、盧愈臨池妙訣曰凡用管以指節外三指令轉動自在
 名指拒中指小指拒大指此細要也
 一、吳興陳繹曾稱其要訣曰 撇 捺 鉤 格 拍 拒 導
 送之指法アリ
 一、筆之三時效曰銀管之法實指虛字以類信魏大
 祖教乎邈乎力滿其外滿畫多々見ル大庭拳法

別字画有力而不放懸拳別字形因活而有

神或又繁造端者不宜把筆苦緊別腕

轉不得活是類多之何至至牢口訣三周之

書地紀平曰漢之書山今史史游作行其

或末曰魏鍾繇工于楷是正行書云謙按史

游說可也

書史會要曰朱襄氏造六書八卦之變也卦以

六位而成書以六文而顯世書亦當依此三五

呼凡各上八筆起一清任上三筆示路之云云

八筆起起之從極斜正曲折等之云云云云

第之游天口還合碧山上洞遠之題柱

有鱗形龍爪字四

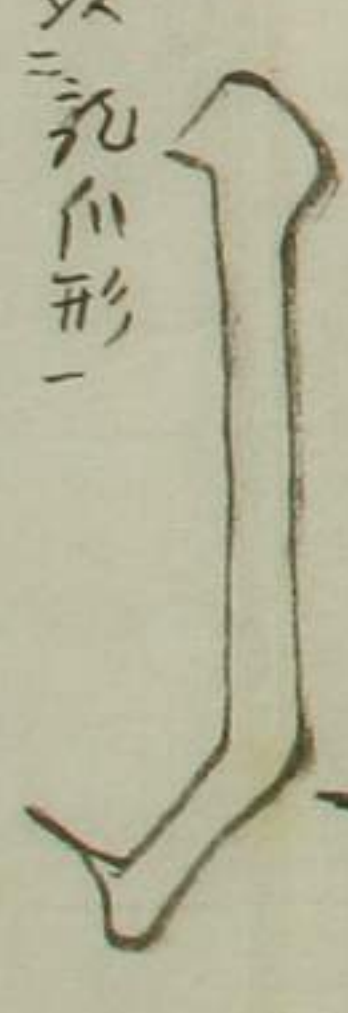
為一飛字一有爪之形一人遂稱龍爪書



龍爪



虎爪



會要曰虎爪書便度擬王羲之龍爪而作以龍爪形一
用墨染一因加絞筆一為虎爪之第一

点々小里也

弟之常曰天台子其謂余曰書之氣必通乎道同之混
元之理トシ

太平廣記卷四十八曰宋末王融古今雜傳ヲ撰ス
六代書リ少年倣效子家藏多紙虫之而メ凡
集古書ハ是レ七國ノ時書也元長皆親筆ト作ル
故ニ始テ後來詰々元湘袁幸沮陽令書仲ヲシテ
九十一行ト定メ為サレハ次ニ功曹御善勳其大法ヲ
坊言百傳ト成カレハ其ヤハ八卦ヲシテ書ノ才ト為ス

歐陽詢書法曰凡寫字如其中画一為主其左
右相顧盼之右廂復宜粗於左左廂顧
宜輕於右言心右方捺左多粗肥之左
右多輕少之書也

唐右字筆法初曰為兵必收貴緊而重
翰林要訣曰一忌微如粟米

口傳書法曰一忌成二字之規一字乃終篇之准

李嗣真右軍書法格端之皆見筆以成字非得意
以獨妍

白雲先生書法曰把筆抵鋒筆中存性

戈

書史全要曰太宗乃以書師世南為嘗惠戈脚

不工偶作戩字遂空其落戈今世南足之示

魏徵徵曰今親聖作惟戩字戈法逼真

太宗歎其高於藻識也自是益加工也

一美之等第協曰研戈之法為筆裁如長松

之倚溪谷

一書苑曰此戈法之要提空中研下勢或仰

趨抱身或收趨歸腹或反趨向左大倚

如鄉又曰身而中又顧盼及趨之勢欲死有

研戈一有第戈一有及戈有死戈

研戈
死
死
死
死

一其取曰(背法) 首檢左上 右上右 尾檢

左上右 右上左

首檢 八 尾檢 八

一禁道章論曰書名教也欲筆先教之懷抱一狂

又

情恣性然後書之若迫於書一若中山免毫

不能待也夫書之勢坐辭思隨意所適言

不出口氣不盈息沈密神采一如對至尊則

無不美矣

一柳公權等諫論筆法之妙不求於筆而求於

心蓋有得於虛精靜思之間

一郭彤曰隨我意一妙遂天成

一書跋曰懷素於書自言得筆法三昧一觀唐人

評言謂不減張旭素一尾馳一騷一繩墨外而固
旋道退莫不中節。旭則每誤教一（筆之格）
入之格之辭。此道不限下般極意上。初學之規度
便尺ヲ捨引松ミナ書ヲ我數代ノ亦書十ト云七秘
傳ノ本明師ノ的授ヲ不得古人格式ニ曾ラ不存

一廣川書跋曰昔蔡邕受法於神人傳于崔瑗
々傳之文姬々傳之鍾繇々傳之衛夫人々々傳
之逸少自此而下各有師授逮于張旭其書

分故蔡有邕法為篆惟初清臣徐季海
守舊法而真行畫合于古之作者至是玩
崔邈一授其法而絕矣云々

一翰林草經九成法七生神凝神靜思不可煩
操八生目寤息齋寤光朗分明九生景
天氣清朗人心舒悅乃可言書云々

一書苑曰流澤累揮徐極之速則失功速
則縱恣

又銀鈎
背拋
躡
棕

皆如
乙 踞位
乙 仰勒
乙 背偃

一此書法之書法曰御億仰勒及耀之耀貴之寬

四或作背偃或作垂兩路平一或作懸鐵平

或作四耀一如背手拋物

一書文類聚曰歐陽詢子通書與於父一考大小歐陽

作通自稱重以程度為等覆以兔毫管皆

屏象非是未嘗書

一世說曰王羲之得甲筆法於白雲先生云道以氣

鬚管又鍾繇張芝亦皆用鬚管筆

一書之款聚書法部穆宗向公楷筆法對曰日用等

在心々正則等正之上改容知其等諫也

一系之題等陣圖後曰夫紙者陣也等者弓

鞘也墨者習甲也水硯者城地也心意者將軍也

一廣川書跋張友正竹字曰張友正所書自云得

漢人心法其用筆過于鋒長而力弱殆

不可持故使筆常動搖勢若宛轉世人故

自不能用

一墨數曰等取宗少絕仞中兔毛八九月收之

等頭長一寸也管長寸鋒齊腰疆者揮襟作

等

之尾由真草皆須畫以一身之力ヲ而送之書

一草証筆經曰製筆之法傑者居前毛者居後

後強者為又勇者為輔以之以懸林末之管

固以添液津以海藻濡墨而試直中繩勾

中鉤方夏中規矩終日握而不敗故曰筆妙

紙

一書經曰硬黃紙唐人用之書法深黃礙不取其碎

又曰蠟筆用之皂角濃煎汁入胡礬少許刷

紙上如要金銀星以煮過雲母一臨副時一搽

之煮雲母一用生薑自煎汁煮激瀝曬乾

蠟板

一工油一升ヲ七合ニ煎シミツガサヲニ多鹿角粉三冬石

菖根二冬檳葉二冬分ノ四味ヲ干油ニ煎シツノ燈心

ヲ九レシヤキトスヲ程トス是ニ唐土ヲ加ヘ白クスヲ多少

收筆法

一筆林履記曰東坡以黃連煎湯調輕粉一蘸

筆頭候乾收山谷以罽椒黃蘗煎湯一磨和

煤漆筆乾之不旺尤佳

一以罽盛熱湯浸之飯一夕輕々擺テ洗七次都

洗筆法

用冷水洗之若有油膩則以皂角湯洗
甚佳

等藥一
心毛卷所高下三分一
府二黃魚直云九用等著墨不過三分不
得深浸毛弱牛無
肉散
尾可碎切等檢埋不可有之

等管寸
墨教曰等頭長一寸管長五寸
虞世南曰

等長不過六寸一投管不過三寸
麒麟抄

曰真四寸五分行等草五寸五分也

員人以琉璃象牙為管麗飾則有之然

等管以輕便等則
踏笑

墨三磨法

陳氏要訣云凡磨墨不可同視池中水一

令墨等
同書曰磨墨之法在案

輕推逐行與
麒麟抄云真厚

行少少
殊清息

可度厚、忘事也。何事、是、摺也。曰、若云、

摺口、倍、若、心、順、理、次、通、迴、以、後、中、中、破、云、々、

星、妙、云、云、是、洗、別、傷、神、彩、既、つ、是、洗、別

滯、難、一、善、地、暴、安、云、磨、墨、之、法、水、可、寬

面、云、云、厚、摺、研、池、水、ト、等、ヲ、以、テ、摺、合、セ、遣、墨、色

右、列、チ、大、底、厚、為、チ、チ、厚、ハ、字、付、ヲ、破、リ、筆

ニ、秋、蛇、病、リ、以、尺、至、テ、為、キ、ハ、心、也、九、成、法、五

生、墨、隨、安、旋、研、多、別、泥、鈍、ス

硯

一、九、成、法、三、生、硯、別、用、研、水、畢、別、乾、之、不、可、

浸、潤

陳、氏、要、訣、云、研、池、寬、面、每、夕、一、洗、

則、水、墨、調、白、血、肉、得、所、端、石、取、細、潤、

停、水、歛、石、取、須、淡、是、者、兼、之、斯、為

實、矣、(端、石、端、後、石、歛、可、名、也)

其、水、若、洗、硯、須、具、滌、之、繼、末、能、亦、須、易、

唯、用、蓮、蓬、一、洗、之、或、有、皂、莢、清、水、洗、一、或

切、平、半、夏、大、去、滯、墨、一、單、麻、子、擦、硯、滋、潤、

以上 貞亨三年十月版

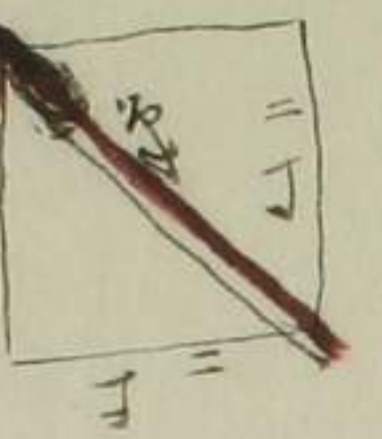
菅沼素即著 執事法微考 三卷抄

の木のをたまたまし抄

(小幡澤村の遺書より川上守村の取られし書に以て五申年二月廿九日也車取下行人青蓮院の山直門は其園を築き守り跡に言ふに下一園如典に以て之の内を以て庭に修りしに以て史記の三成角ナリ其六十三才を以て置されしに何れも同是なり
け若名後一風流後才一床と名を梅澤和富と安政三年辰二月十一日下右二長所の書を力門し工師の言葉なり
記すなり

一 筆道は一人取らざるに在る法なり一に執

筆道を論ず (變克章後書語より)



- 一 次は三六の筆道は五丁ト一を完とす
- 一 筆の傾けは左より右に傾けしは右の角をまき毛をえりしなり
- 一 筆の上角にありて右の下角へ筆をあらざるを筆道なり
- 一 悉く筆の毛を削りて其尖をぬり右の毛は上毛の毛一程は毛を削りてこれを除く

- 一 筆の筆は上大三下小の筆上は右の毛を削りて其尖をぬり右の毛は上毛の毛一程は毛を削りてこれを除く
- 一 筆の筆は上大三下小の筆上は右の毛を削りて其尖をぬり右の毛は上毛の毛一程は毛を削りてこれを除く
- 一 筆の筆は上大三下小の筆上は右の毛を削りて其尖をぬり右の毛は上毛の毛一程は毛を削りてこれを除く
- 一 筆の筆は上大三下小の筆上は右の毛を削りて其尖をぬり右の毛は上毛の毛一程は毛を削りてこれを除く

古紙

あし又全函塗物の上の古時ハ餅米の粉を畫
 して去けは書附する

・ 病の通る古の酒を畫するすうて去れは後をハみ字をえり

(安永の酒を古く申す)

・ 硝子を觀照したる後りて字を摺れハ字消して

硝子の吸てる後りて字消す

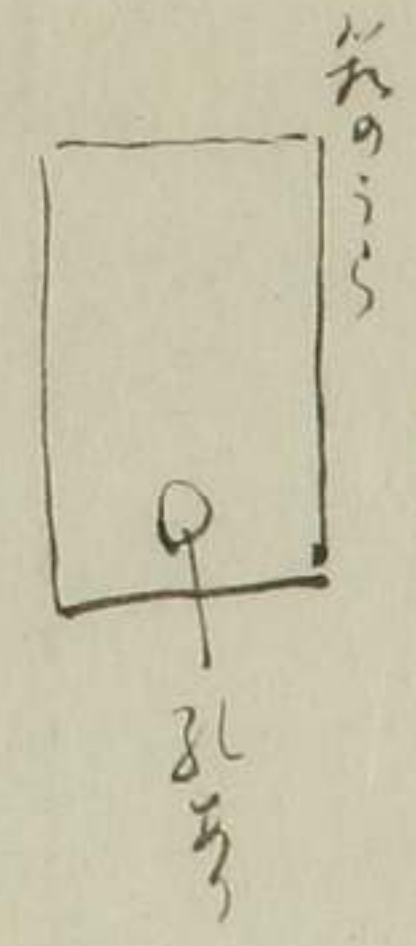
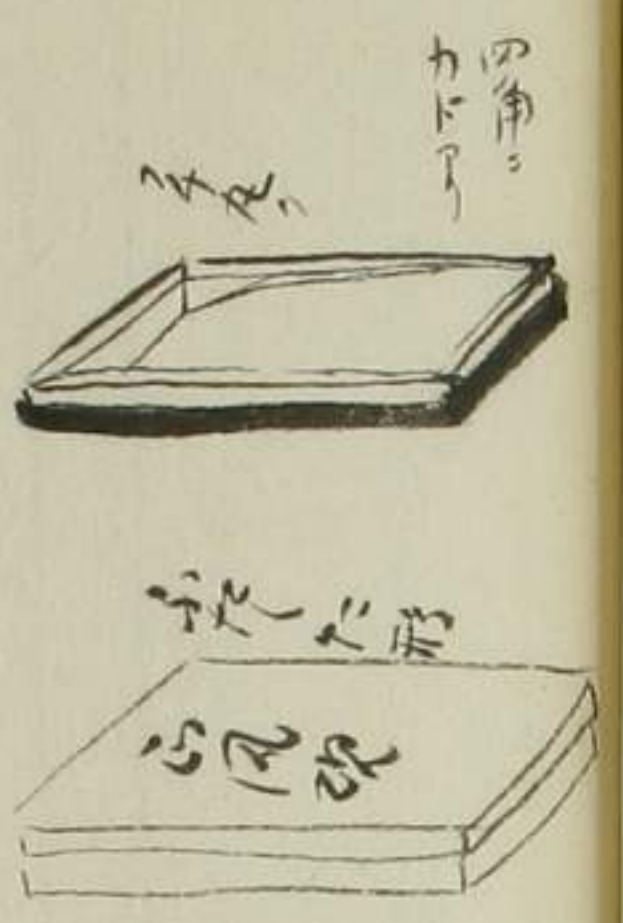
・ 硝地に古物ハ部ハ紙をすうて

硝子の吸てる後りて字消す

・ 山田西市に於て此の硯 (大中小あり) 大に示す

字消す

硯



大たてハ寸巾四寸、中口七寸、寸五分
 小ハ寸五分、寸五分

一石ハ厚サ六ト海保サ三寸五分、固一ハ五分

・ 桐葉入はく是塗る身の方とふたに保す

寸五分

・ 硝は二寸五分、硝を磨丸く削り、硝を二回

硝を消す

字消す

・ 硝消す、硝消すのり紙をハるす、硝消す

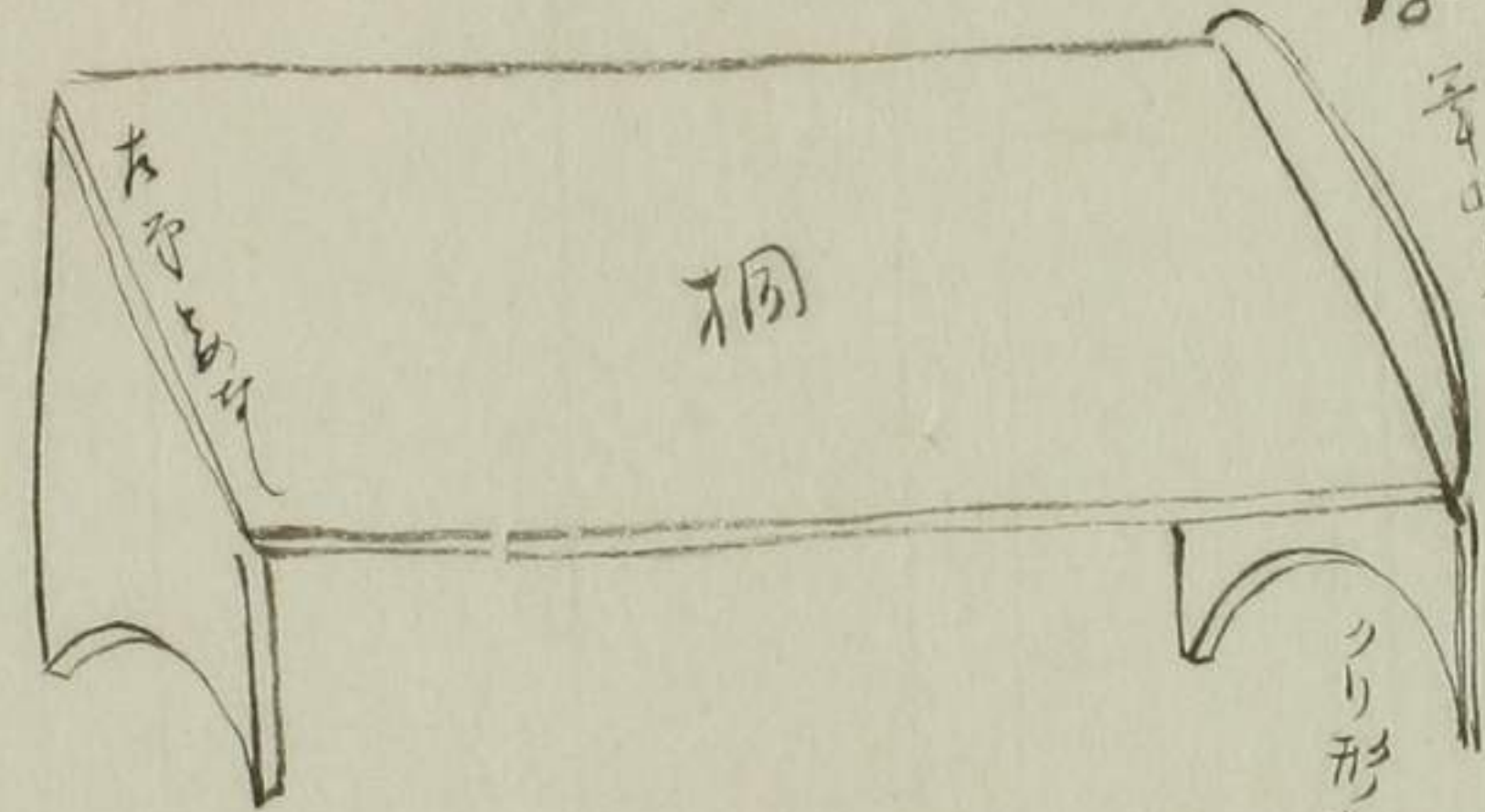
硝消す、硝消すのり紙をハるす、硝消す

硝消す、硝消すのり紙をハるす、硝消す

硝消す、硝消すのり紙をハるす、硝消す

寸可ハハ寸
照立カク寸
巾尺寸

区に天地の
二部を隔す



口陽をまほ

寸ハハハハハ

ツリ形寸寸

子

唐書永隆元年... 毛立... 七十五名... 理由

玉案 刀 人 (今堂)

意汗... 染...

人 (鉄折) 小 (咏替)

又 (寛持) 子 (猿局) 一 為

之 (通局) 一 (陽句) 一 (沼波)

一 一 (玉止) 一 已

一 一 一 一 一

子 (珠句) 一 才 (牛糞) 一 力 (云)

水 一 人 (新換)

一 一 (亭免) 一 石 (系抱)

一 一 (岸浪) 一 母 (全懐)

一 一 (麟角) 一 一 (如忍)

一 一 (莫形)

日本書体

・ 樂 (陽統) 以不次也 毛 (龍尾) し也

・ 山 (珠臺) しふを云 母 (田考) 隼

・ 乙 (龍形) 重なる 一 (龍尾) 二 (龍脚)

・ 玉 (龍) びーロ口を張る樂之大字の竹の元

・ 骨 (柱) 口元も骨を名か骨風竹の元

・ 竹 (竹) 竹の元も竹の元竹の元

・ 竹 (竹) 竹の元も竹の元竹の元

・ 竹 (竹) 竹の元も竹の元竹の元

・ 印 (印) 天の立の雲と竹のぬき五十字

死 竹 竹 竹 竹

死 竹 竹 竹 竹

死 竹 竹 竹 竹

死 竹 竹 竹 竹

死 竹 竹 竹 竹

㇀	㇁	㇂	㇃	㇄
㇅	㇆	㇇	㇈	㇉
㇊	㇋	㇌	㇍	㇎
㇏	㇐	㇑	㇒	㇓

○筆ノ用途

(又木貫道枢要 卷下)

打出紙、蠟紙、什麻毛(たのぬし同)。檀紙、什花毛、杉、平春、
 若子、若毛、板毛、若毛、布、白木、筆、板、文、あり、木、貫、
 檜木ハナノキと名木ナメあり、ちやの木と名物ナモノこゝろ、ひやく、向子、能
 節フシ加カり、さきと折マれ、て、打ウて、用ヨひ、り、り、

大空一坪、こゝろ、若毛ワカモの、位イか、ら、い、甚シ葉ハ年トシ、三ミつ、つ、
 の、入イ木キ道ミチ、若毛ワカモ、貯チ、葉ハ、下シ、

- (一) 筆、春、の、り、
- (二) 筆、春、隆、弱、の、り、
- (三) 筆、春、弱、多、少、用、の、り、
- (四) 紙、能、の、り、
- (五) 紙、能、不、適、弱、の、り、
- (六) 紙、能、上、下、適、候、の、り、
- (七) 若、毛、用、善、能、の、り、
- (八) 若、毛、毛、表、裏、の、り、
- (九) 若、毛、若、毛、か、り、の、り、
- (十) 大、空、調、心、の、り、
- (十一) 大、空、若、毛、格、の、り、
- (十二) 大、空、若、毛、仕、の、り、

○筆法、口伝（口書）

- (一) 表裏長々 (二) 浮沈々々 (三) 名号精壹々々 (四) 北汚号
- 略々々々 (五) 名号傷三信々 (六) 口切あ々々
- (七) 重不字、合字、離字々々 (八) 位備々々
- (九) 陽邪常濁々々 (十) 墨色々々 (十一) 臨陽五字打方々
- (十二) 十二点々々 (十三) 皮肉骨骸々々

○木造口傳事

- (一) 經冊色紙形々 (二) 神尊久字記り墨進切字考事
- (三) 詩歌のちりしをぬ取卷紙形々
- (四) 袂の寸柳（木立、立木） (五) 子名考事 (六) 注事切事
- (七) 能太の寸札板式考事 (八) 和歌信紙考事 （注事考事）
- (九) 連袂儀紙考事 （注事考事） (十) 和歌考事 （注事考事）
- (十一) 淨白何留紙考事 (十二) 古今集考事 （注事考事）
- (十三) 袂仙々々（中書考事） (十四) 乃人一方々々
- (十五) いろ付事 (十六) 三社流天竺の考事
- (十七) 額事（注事考事） (十八) 縁記願事

- (五) 軍用帳指物事 (附具、前記、堂宣帳續寫)
- (六) 袋の上記事
- (七) 糸青の上記事
- (八) 板木記事
- (九) 貝の裏表記事
- (十) 固前の記事
- (十一) 匠師某物記事
- (十二) 白紙上下見記事 (堂の締方、夜宣、紙信、おに用時等)

○ 硯と墨の硬柔の事 (入木源底集二)

小陽殿八曲、曰、硯和、墨堅、手内弱く打て磨。

硯堅、墨和、強く力を入れて搦之云々

○ 墨の用方 (口書)

墨の泡をうけ、髪垢をか入し、色糸を墨白と懸

き、水の大なる古酒を硯水に入れて、宵、搦て、真硯

に可くし、筆をいそぐに墨を硯に懸、枕を水

をいきて、二之管よりひり、清いおもひ、筆をそめて

筆の葉をとり、墨をいそぐ、水張と濁るとを

硯の、入て可く、筆張の濁り上り、筆の垢をい

て可搦

○ 大師の筆言 (口書)

紙仰、虚室と名、筆は寸心と名

○ 習ふまゝか行あるま

いばへりぬわろづ、おのげは

みだびす

弘法大師真書四念之法 (入本初學式)

四念

世尊行中仰以自等之書
寫之永正二年六月廿三日
明院前年後墨春十下

 四念
 卧針
 糸念
 半月





○小野道風十念之法 (口書)

 廻寫
 鷓鴣
 垂露
 遠波
 帰浪

 孰爪
 蟠龍
 席爪
 象鼻
 吐脚

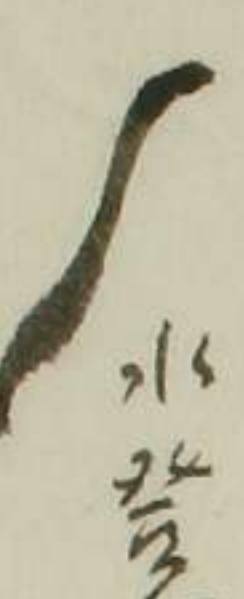



 鷓鴣
 萬歲
 折針
 銀鉤





○參義佐理卿八念之法 (口書)



 大空
 龍
 柳葉
 逆川

 蛇頭
 折枝
 走虎
 飛虹

○大納言行成卿十念之法 (口書)

 水登
 纒繩
 岨木
 千相

 漉水
 駭鶴
 迴燕
 草葉

 落荷
 馬蹄

以上四家三十六念之法行草用之而自在
可走筆也

○ 行草書ノ始 (晉王羲之抄。右條梅翁撰云云)

漢章帝ノ作ニ章草ト云又一説ニ齊ノ杜度作ルト、

行草ノ曰ハシ劉德升真草ト云ト間ヲ汲テ作ル

楷書ノ楷ハ鑄型ト讀ハシ鑄型一ツヲ具形ヲ乱ラズ鑄出ス

如ク真字ノ格ヲ以テ行草ノ字ヲ為ス故ニ真字ヲ楷書

トイフ
八分ハ曰ハシモ次仲ニテ作ル

○ 瘦硬ノ体、遊絲ノ体 (曰書)

肉ヲ付ケズ筋骨斗リニ書ク古人ノ筆此体ニ是、此体出来

ニヨリ後肉ヲ付ルモ弱カズニテ直シ之ヲ瘦硬トモ遊絲

○ 陰陽ノ習ニ事 (曰書)

定畫ノ陰陽ト等法ノ陰陽トアリ

定畫ノ陰陽トハ左ノ如シ

ノ^火上重ク下軽シ右ノ陰アリ左ノ陽方ニ趣クニ陽ノ畫トス

ノ^水上軽ク下重シ左ノ陽方アリ右ノ陰ニ趣クニ陰ノ畫トス

一字内ニ陰陽トハ
陽——陰
陰——陽

等法ノ陰陽トハ
——
——
等意下ヘトメリ入テ

上ノ心ヲシ水習ノ如クハ陰ノ画ナリ

字体ニテハハ 青 夏 去 如此下ヘメリテ重クナリ

輕ケルハ皆陰ノ形トス

又陽ノ号ハ

一 乙 如ば上ノノ符有テ如火如シ

字形ニテハ

東南義 如は形ハ陽ノ上ニテ下極シ

夏形ハ火符ノ如クナリ

陽ヲ貴ニテ陰ヲ卑ス

。字形ノ上齊、中齊、下齊ノ事 (日書)

唯晴 (偏低ク高カキハ) 勸知 (上ノ符ヲ知)

上ノ並ガ上齊ナリ

下齊ナリ

曜 (右旁格解キニ過ガハルハ)

和 (右旁簡ニ過ル中、)

中齊ニスルナリ

又中齊ニス

秋吐江切

左ノ高カキテ右ノモサニ低カキ、又左ノサミ低カキ、右ノサミ高カキ又中齊

。之ハ生北ノ事 (日書)

等カキハ生・生ハ北也、生ハ北ノ脈ヲ示ス

カキハ北ノ脈ヲ示ス、等カキハ北ノ脈ヲ示ス

云云曲の画たりトシ、北ノ脈ヲ示ス

カキハ北ノ脈ヲ示ス、北ノ脈ヲ示ス

北ノ脈ヲ示ス、北ノ脈ヲ示ス

北ノ脈ヲ示ス、北ノ脈ヲ示ス

北ノ脈ヲ示ス、北ノ脈ヲ示ス

フ

西陽無ナレモ

フ

北ノ脈ヲ示ス

フ

以上楊書その記字以テ示す

ちんぱんぢやく

以上草法日能て臨うるを云ふ或
ちて草法を断絶する事

。空形の定法（口か）

・書馬娘廟事

山雨用 以上書 山雨用 以上

有 の字 有 の字

・外廟内湯事

内周國 かこひこ 内周國 かこひこ

從草書よりハ湯を書ふためか出する事

圖 菊 鳳 かき字は内一はハ

從内書者かき字は湯すまう事

目同向面の如く 高為

の如き書少なるものハ上又右左にたよて
くさる

・外畫内懷文字の事

春 暮 關 かき字を關取て抱
はらやうこくを

譽 幕 かき字を關取て抱
か画ニ宛當りて入り抱

・同字重部並同畫習事

一文書中ニ同字十二三あり詩一首に同字

ニツニワあるとき 形を之てす（まかり）何れも同

様をすくこと 子供所作にひとことし書

紀水も其行は字体を多く書つ殊く 具

内に簡を加ふや

又同畫書く又うさす事は 譽幕の如

養

章

めいぎなかり

養養章章

めいぎ

一 綿裏裏鉄事

蘇軾米芾等肥件を用ゆればも筋骨をま
君た肉を掛たるにや柔然たるや元子昂
東坡の事を「弱く見ゆるも綿の内に鉄釘有
うあし」と有り 宋の杜陵蘇軾の筆跡を難
して「肥過ぎて弱し」と云ふ東坡詩を作りて同
杜陵評言貴瘦硬其論未切吾不信長短
肥瘦各有怨玉環妃葱敢不惡

一 粗細偏等の事

偏思

めいぎ粗細が
かたよは非し

○ 等悟：五常あり事（口也）

一 仁情習事 仁情を仁情事

心快気なると言ひあまき事。又情りを言

とす（あまき事）

一

めいぎの作れぬをくよりつわりと悠々たるを
お白路又まことかたよは仁情とをさあけり
これを花々のありとす。あはさるとまもあこび
来て居るに非ん居るまに到りてつわりと死より

一

て居るなり
一 仁情を仁情事
とす（あまき事）

一 仁情を仁情事

・義直の習事

立身剛潔正しく峻ふつとおはけりて
つとまは強くとおふなり

・礼儀の習事

偏と身よの礼冠と皆よの礼二三字
可合の礼のこころ互に神の徳りあやめなり

忠熊 ニハ夜合 森 ニハ夜合 戀 ニハ夜合 哭 ニハ夜合

・智働の習事

骨力をまう方周布白横清皇湯思て号法
習に背らす身理を教明すれ智の成とらう
(立身強健を工夫しことなり)

・信教の習事

まこととする前にまこと信を吟味して心を教
お書を修めまこと心信に教てまことなり

・許状上内

體之巻

三何目

・机掛り之り、着座之り、筆取柄のり

・墨摺紙之り、文のよ一巻之り、筆取之り

・眼付之り、筆取之り

坐 分修

一 机掛りの手 体を直ちにして 大の肘をそとかけ
1 して 腕をゆるりしめ 肘をゆるりしめ 腕をゆるりしめ
ハ 俵のひつとを 東山なり 大腕をゆるりしめ 腕をゆるりしめ
さしと 不可屈也 字をゆるりしめ 腕をゆるりしめ
二 肩肘の手 肘をゆるりしめ 腕をゆるりしめ
三 指の手 指をゆるりしめ 腕をゆるりしめ

一 指の手 指をゆるりしめ 腕をゆるりしめ
二 指の手 指をゆるりしめ 腕をゆるりしめ
三 指の手 指をゆるりしめ 腕をゆるりしめ

一 筆執振の手 木杓の柄に握り
二 面より中指のや節の中程より

一 小指より 大指の力を押して中

一 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ
二 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ

一 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ

一 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ

一 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ

一 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ

一 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ

一 指の手 腕の筋と 腕の筋の外側に握りしめ

此中より書かれたり
ついでに

書。文字は

文字を記し分傳の書初に記し
備し初点より

はく一州一郡と書し
末の

大谷永彦と云
書し

一点の機と
此法

考の

ま

を

(

眼の

知

なり

一、草のたのむ内さしきし、御書と記
 しく肉のさしけし、御書と記
 御書の紙にけし、御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記

御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記

御書と記

右一、草のたのむ内さしきし、御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記

心之巻

一、草のたのむ内さしきし、御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記
 御書の紙のふかの方、あやうき御書と記

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

風系ノ盛衰

平井毛を返す事として毛を引てある
29

文字は川流の傍か水にあり砂を海
の力ある大分は同じ事なり揚るる
為るる心もあらず

融かぬもの故に文字は浮き肉丸と
尺ゆゑ修名を記すは計すは心とを
入る一細くさくらるる事なりと
なり

針金トドヲ入レ加ク
細キカウニ丸ト見ユ

予の行方〜一はま〜の極の事
春はわ味と定中

春は田井上能と地ゆゑ、徳春の
高き事〜〜か行るる事〜〜とあり

けねをゆ〜〜とあり、身を清り極む
をら〜〜とあり、只〜〜とあり、その味

ね〜〜とあり、極〜〜とあり、
俵をゆ〜〜とあり、
此ら心持るる事なり、
心肝(心)討をすし

一七考すくすを考すくす一統ハ
自徳少く度より道初すく
いづも力味なり

書ハ日の画をハ我知ハあつたてつた
もハ正統ハあつたてつた
ハ物ハあつた白れハあつた
了

予考すくすくすハあつたあつた
予ハあつたあつたあつたあつた

美ハあつたあつたあつたあつた
予考すくすくすハあつたあつた
のあつたあつたあつたあつた
すくすくすハあつたあつた

横畫ハあつたあつたあつたあつた
もハあつたあつたあつたあつた
又命もあつたあつたあつたあつた
頭もあつたあつたあつたあつた
了

・卯忌予刻くけく娘候之旨
隨ふ了卯忌奉り付けり候事
よりさるる上刻る所候事
書は上より奉り候事
と申す候事
の事

・池邊寺の事
ふりて候事
ふりて候事
ふりて候事
ふりて候事

・申すの事
申すの事
申すの事
申すの事

・申すの事
申すの事
申すの事
申すの事
申すの事
申すの事
申すの事
申すの事
申すの事
申すの事

く憶てあつこり少

水底をさるる 舟運路急の心

右意半終く 熟得

好意と深一り 其代えを也

房祖文 寅上

金子 啓次

海江 若

井上 房吉 版

。書法 (写本等記看 毎名 墨表紙一冊)
川上 喬 所 託

鳥居

柱ノ太リま (まま柱ノ中墨ま 柱ノ中墨ま云) 三九尺ま一丈ま

尺ま一丈ま五分まカまソま、一丈ま四尺ま五分ま、一丈ま一分ま、但柱太サ

十二割曲尺ま任り一命ま一分まニ定

鳥居ノ頂上ヲ築木ト云 其次ヲ嶋木ト云、モト一本木ヲ削

リ令ケル也 九尺ノ鳥居ニテ 柱ノ太リ一尺八分まナレハ嶋木ト云

木ノ間ニ一尺八分也 故ニ柱一本ノ内ト云ヘリ

四方築木(及 四分及 八分増) 六分嶋木(及 二分及 四分増)

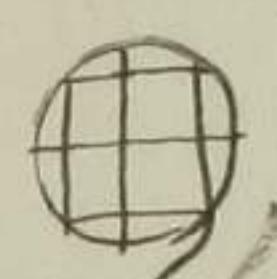
貫 中六分 厚三分(中ノ厚也 六分ハ六寸也 八寸也 厚ハ横 寸ニ命リ 一寸ハ厚ヲ三ツトハ 三寸ニ命リ)

額束 九分 厚二分半 (此木ト君ノ向真中ヨリ九分

ハ左右中也一尺八分ノ九分トハ九寸七分ニ至ル也 厚ニ前後
也二分ハ二寸五分ニ至ル半ハ五分四厘 合テ二寸七分也)

嶋木下 八分 (此木上ハ量不_レ行_レ故下_レ寸也八分ハ
八寸六分四厘也)

芝木下柱程 (芝木モ上ハノキ有_ル故下_レ寸法也柱程
程ハ量天ハ分也)

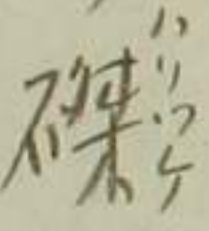
鳥居スホリハツ中ト申也 (左右ノ柱地キハ三ツハ廣ク上_レ
ハスホル也  ハツ中
是程柱ノスホリ也九キハ柱ノ大サ也是ヲ四
角ニメ又量額ニ刺リ夏一ツ合上_レテスホル也此曲尺ハツ中トモ
ハツカネトモ云 大極事也)

鳥居木口 高サ地ヨリ 芝木上端ノ柱十寸重是

高カ也地ヨリ上ノ柱ノ太サ十倍柱一尺八分ナレハ高サ是
丈ハ寸也但鳥居ノ真中ニテ寸法也

此相程一本 費ノ上_レヨリ嶋木ノ下_レヲ量_レ此間ヲ尺八分
芝木ノ端ノキ程ハ費ノ角掛テ柱ノ地キハ到_ル極ニ
ソク曲ナ也

額束 費ノ中量ヨリ此木ノ中量ヨリ是額地板ノ

寸法也是_レ此外也費ヨリ下_レハ  額ノト_レ也 雲是
ハ上_レ三ツハ額ノ寸法左右ハ出_レ下_レ三ツハ是下_レリテ費ヨリ寸
下_レル_レモアレトモ先随_ルハ費ヨリ下_レハ是ノ下_レヲ又ヤフニス_レ

免角地極ハ骨ノ具アリ此木ノ末ニ至ニ極ハ一ニツウハ
額工ノ所作等筆者ハカマハヌ也

額巾 額束 一本半

右九尺ノ鳥居ノ寸法也 但鳥居額寸法外ニ下ノ
志願ナノ寸法不具

鳥居額文字ノ篆隸分楷行字ヨク有ツ一ニ文字
数多クメツメルニハ分字ヨキ也

山門額ハ必末ニ山ノ字アリ山ノ字ノ下ノ横畫



如此下ヲハアト上リニ上ヲハ口クニ書

クニ左ナケレハ右ノ四五畫書カレヌモ也

法堂佛殿諸堂身外大概同シ

佛菩薩号ノ額ハ豎額也此類ハ隨分仙名ノヒラ

マラヌヤフニ口クニ書ヘシ

亭号ノ額書キニシキモ也

教寄屋ノ額ハ白ナトヲシテ文字カワセリト書ヘシ

山門或ハ殿堂末院座敷等ノ或ハ橋ノ或ハ

トキ葺トトノ屋根ヲ結構大所ノモノハ之ノ上モ

厚ク肉アリテ丈夫ニ書ヘシ教寄屋下ノ風流ナ

ル所ニハ丈夫ニ書テハ似合ハヌモ也イカモカワセ

リト輕ク書ク也

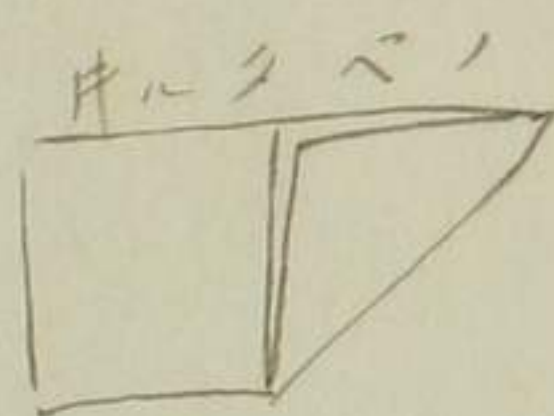
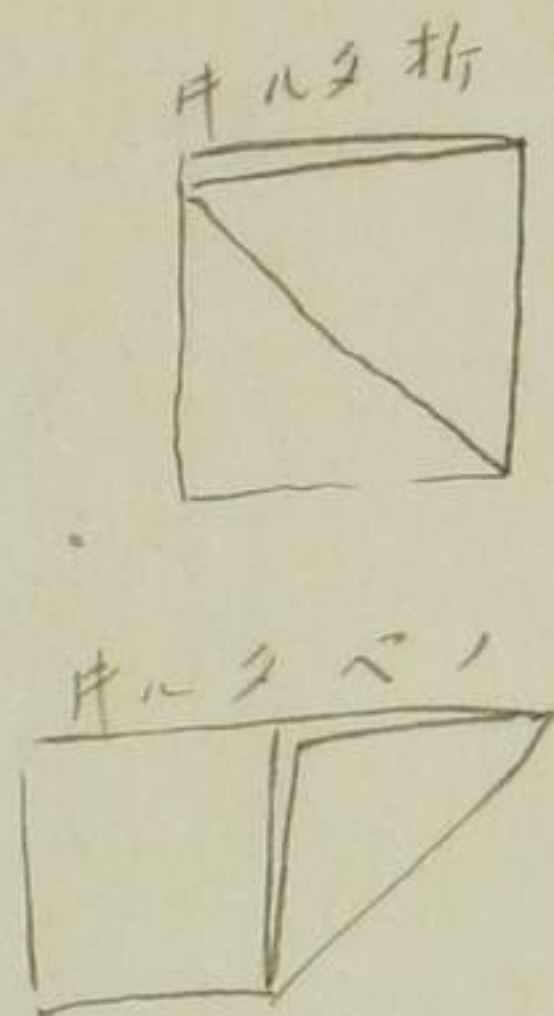
額太

一字額ハ丈夫ニ書シ楮ニ四字ヲ添ルハ猶以一字
ヲ丈夫ニ細字ヲ小ク輕ク書シ左ナケレハ一字ノ方マ
ケテ見ユルモノ也

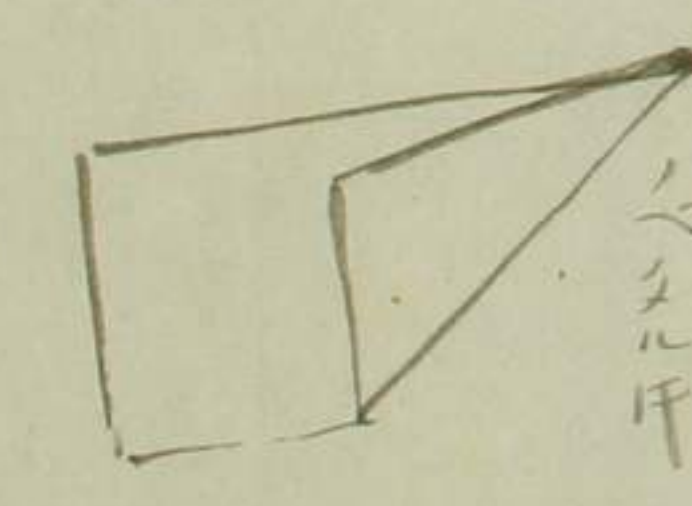
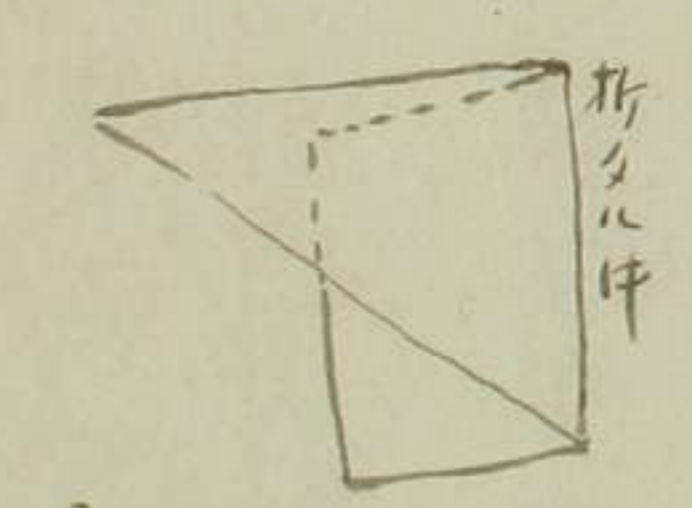
額ノ太サ堂殿栱閣ニテモ壁ニハ十間ノ堂セハ左
三間右三間中四間也中四間ノ柱多ク柱ヲノ間ヲツモ
リ中間四間ナラハ四間ヲ三ツニ割リ凡ハ尺ト成ルハ
尺ヲ又三ツニ割ニ尺六寸五分余ト是額ノ横ノ寸
法ニラシ
七間ノ堂セハ左右二間中間三間也此三
間ヲ三ツニ割リ尺一丈ヲ又三ツニ割テ寸法ニ定ムレ
但四間ハ凡尺四尺也此三ツ割ハ尺也三間ハ

ハ一丈ハ尺ユヘ此三ツ割ハ尺也之ヲ三ツ割レハ二尺
ナリ之レ額ノ横也

三字ノ額セハ紙ノ口立ヲキメテ紙ヲ左ノ如ク折ル也



二字ノ額セハ下ノ如ク折テ
横ヲ少短クスレ



畢竟横ハ口立ノ倍也

○卷物 (日前)

一詩社卷物多クハ郎詠ヲ書ク然レハ郎詠集ノ詩ハ
全篇毎ク大カク二句ヲ也故ニ同クナリハ絶句ニテモ律ニ
テモ全篇ヲ書テ詩一首歌一首ト書ク能キ也

一カナノ卷物ハ必原氏ノ詠ヲ書ク法也又歌卷ノ
内ニテ明石ノ卷ニテ何レノ卷ナリトモ其一帳ノ内
ノ所要ノ所ヲ書テ末ニ歌ニテトスル也

一八景ノ詩社十二月花鳥ノ歌何レモ散シ書
キニスル也

一絵巻物或ハ縁起ニテモ或ハ草子ニテモ詞ヲ

始ニ書キ絵ヲ次ニ書ク也絵ニ書クメニヤフニ絵
マテ三四行ナリモ間ノ尺ヤウニ書ク也是ヲ詞書

トイフ

一縁起天子トハ海名アレバ缺字モナリ末ノケタルニ
リ也此ハ天子ノ海名ニテカニ缺字アリテアラハ缺メ
書ク能キ也一字缺スルヲ除字ト云ハ二字ヲ缺字ト
云天子ノ海名トハ規行ハ上ケテ書ク也

一系圖ハ元祖ノ名ヲ真字ニ書ク也大ニ書クモ
カ一祖ノ名ヲ見易スカラシメシ為カ也免角第一ノ元
祖ハ其ノ字ニ書ク也夏ノ末ハ古久ニテモ書ク也

〇 贊

一 聖像 名書

尊者ノ姓名ヲ書キテ護符、拜書、童子、童盤、添手
甘、盥手護符ト、書ル也

一 仙像 名書 同前也

形像仙像ニモ上ニ尊者ノ名ヲ書キ或ハ印スル
少ニモ揮ルヲナシ、名ハ繪ニ遠山ヲ著クニ近山ヲ下
ニ書ケルテ必高ニ非ス故ニ像ノ上ニ書クトモ必高
キト云ニ非ス、故ニ少モ不憚メ上ニ書クナリ
一 祖師 一 名臣

聖像仙像ハ一ツニ在ル式ハ祖師名臣ノ

像ノ後ヲシテモ多クハ在ルニ護符書クニ必扉末
ニ書ク(カス)

一 面左右 繪像左ニ白鬚又左ノ方ヲ書ク

右ニ向カ右ヲ書ク也此法古今法書範ニ在リ
唐土ニテモ此法也

〇 銘

一 硯 附蓋

硯蓋ノ銘或ハ得テモ款ニテモ其色必左方
ヘヨセテ書クニ在リ中ニ書クトナカレ

一見書

コレモ同シ左ヘヨセテ書(シ)

一玳瑁

バケ面ノ革ニ書ク也弾丸トキ文字ノ

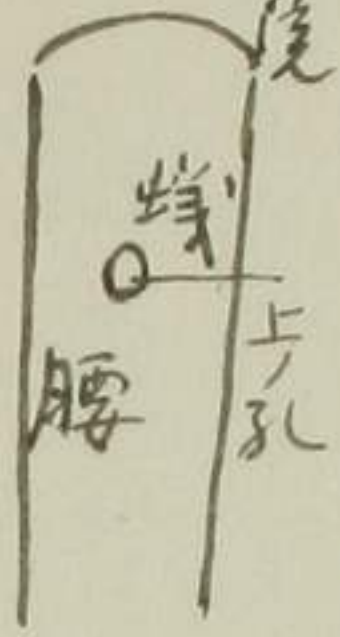
口クニ見ユルヤウニ横ニ書(シ)堅クニ書(カス)

一天八

上ノ孔ノ上下ニ筋違ニ書ク也筋違ニ書

トテモ左右ノ筋ニ非ヌ表ノ方ニ少ヌナカ(テ書(シ)

後陽成後
天八銘



如此表ヲ能ク見ユルヤウニ書ク(シ)少シ筋
カフ故ニ吹クトキニモ手指アタラズ

一印籠

裏方ノ文字少カレタル能シ屋言ハ七言
ノ句七八表ニ五字裏ニ二字計リ書(シ)

○屏風

一大概十二枚是ハ六枚折ノ屏風一雙也中一天七寸

四寸四尺五寸ニ紙ヲ折(シ)

一銀或ハ歳或ハ文章

斯様ノ類ハ行字ニ書テ文字必大小アル能ク也

草字ニモ書(シ)兎角大キナ文字ヲマセテ書(シ)

一七十二詩秋ハ六枚折一雙也一箇ニ六枚ヲ押ス

故カ多ク六々三六枚一雙ニハ七十二枚也押シ

ヤウ

(他ニ記シタル略ス)

掛物

・ 祇仙名託宣ノ款ニハ筆名ノ姓名ヲ書ク法アリ
モ此姓名ヲ書ク中ハ表具ノ裏ニ書ク也鳥居類
ニ同シ

横字

・ 石碑篆額ハ随分字ヲトク肉多ク書キ卦ノ
内一ツハイニ書ク一シガナレハ小サク瘦ラ見ユル也

雑

・ 下馬札

(他高ニ記シルヲユテ略ス)

・ 絵馬

書付テ厚キ紙ニ書キ具所々ニアテ見

テ或ハ絵ニ並ヨセ或ハ遠ノレテ恰好ヲトクト彼ノ
見定メテ具紙ニ書クルヲ一字一ト切捨キテ切捨キ卦
ニノ書ヘシ是ニテハ絵ニツカヘ障ル下ナシ

旌

竿ノチノ付スル方ヲ前ニメ之を左ノ方ヲ前ニ

スルヨリニ書ク一シ

旌モサレ物又肉ガチニ丈夫ニ書ク一シ 指物ハ上ノ文字
ノ末ヲ次ノ文字ノ畫ハカレツ、付テテ切レヌヤウニ書ク
法也 左巴右巴ヲモシレツ、取付テ切レヌヤウニ書
クナラセ故實也

・ 具是櫃

(他高ニ記シテ略ス)

書翰ノ袋 兩方有り合セ真中ニツキメアリ此ツキ
メノ方表ナリ別ツキメノ上ニ朱唐紙ヲ押ス

詩懷紙 約一首也初行ハ字、次九字、三行
ハ字、終行三字ニ書ル 八九ハ三ナリ

懷紙 初一首也此時題ヲハ端信ト云、三行三
字ニ書ク、九十九三ナリ、末ノ三字ハ真名ニ書ク
ナリ、初ノ三行中ニ月花雪或ハ都ト云ハ又
一字ニ書テ、カナニ書クナリ
一首ノ他ハ懷紙ト云フナリ

二首ナリ九首書クトキハ二行七字ニ書クナリ

此時ハ題ニ二首和歌或ハ三首和歌ト云也
端信ト云フナリ

百首歌ノ時ハ二行ニ書ク也

詠草ハ二行七字也

天子ニ限リ之詠草也二行ニ書クナリ
之ヲをスヲ一字ハキヘ寄リセテ書クナリ詠草ノ習ヒ之

題 名乗

自詠ノモノハ題名乗ヲ書上ノ句下ノ句ノ首ヲ云
ヘテ書クナリ

、發句短冊ハ真中ニ書也文字ノ大小ハ細大
、書捨ハ古款ノニト也上ノ句ヨリ一文字下ケテ下ノ句ヲ
書ク

、假名題 詞書ヲカキテ書キ又ハセ文字五文
字ナトノ假名款モアリ

、白短冊ハ和款ノ四天王 (順阿、彌好、
淨弁、廣雲) ノ竹分ヲ
アルナリ 隆杉原十五六ニ裁也ヨ符常ノ短冊ヨ
リ細キモノ也

、紫雲ヲ上ニスルハ追悼ノニニ限テ藤、杜若ナト
ノ款ハ此系ヲ上ニ用ユ花ノ紫ナトテ貴款ノ意也

、揮散短冊ハ色紙ノニ巾ニ卦ヲ引ニツニ刺ル上ノ句
ヲ右ニ書、下ノ句ヲ左也右ノ方ニハ或ハ上ニ左ニ右
ノ下ヲ書、柿本ハ丸ナト、名ヲ書、款モ上ノ句ナセテ
也也左ノ卦内ニハ下ノ句ナシ計リ也、故ニ右
ノ卦内ハ又ハ多ク左ノ方ハサラナシ故ニ上ノ句ナ
ハかなヲ希ニ書キ多クハ文字ニテ書ク(レ下ノ句ハ
ナシナリ)左ニ書ル上ノ句ハセマリ下ノ句ハ延ヒテ
間アキメ見替ヒキモノナリ

、款方ハ短冊ハ寸法ニ分ニ分也巾ヲ六ニ割リテ一

分也云々の旨也 表紙の望ヲ三ツ三折テ其一方
ヲ捲ニ分テ外題ノ望ニ申ル也 是恰好紙キモ也
古今集ニモ源氏ニモ 物言キノ款ノ外題ヨリ
曲尺ニテ裁ヘシ

・附物語外題 コレモ寸法其他同じ。只物語ハ
外題其内ニ押ス也 古今新古今ノ他和方集
ハ外題ヲ表紙ノ左ノ端ニ押也 物語ノ外
題 表紙ノ右ノ中ニ押スヲハ源氏青表紙終
云ハ元来良キ本也 故ニ福抄ニメ今ニ青表

紙、本ハ外題定有ハ事也 故ニ和方集

秘苑ニ表紙ノ端ニ押スル故ニ云々
押スルヲ故有ニ物語ハ外題ヲモウ中ニ押
ス也。之源氏物語ハ本青キ表紙ナリ故ニ集
古今表紙ト云也

・亦寸端書トハ古今新古今ニテモ何路源氏ニ
シテ亦如ク所云也 亦一ノ表紙ノ表ニハ不書ニテ
裏ノ方ヨリ書カス、何ニテモ亦重キノ類ト云
也 此也

の書式

・丹書 朱書同し 石ナトニオテ砥ルニ用ユ 書ニオケル

墨ヲフチラ彫ル故ニ字細ク成テウスキ見ユル丹朱ニ

オケハ丹モリ上ニヘ其外カリヲ彫ル故ニ字フチク成テ

アツク見ユルナリ故ニ古曰得墨則瘦得硃則肥云

・粉書

胡粉ナリ 其濃キハ悪シ、ウスキ然シ、ウス

クテモ乾キタルハ潔白ニ見ユル也 書ク中ハ或ハ文

字フトサ五分ニ書ハ筆ヲ七分ノ字ヲ書クホトニ

シテウスキ胡粉ヲミメクハ管マセテ随分粉ニ書ク

・墨書

草書ニハ墨塗ニシテモ 朱塗ニシテモ 板ニ油ヲ引テ油氣

ノナキホトニ能ク掛ヒツキテ書ケル油ニテ走リテス字ノフ

チニ アヤ出ヌテ然シ、草書ニハ必用ユ(シ、其外ノ

真行ニシテ時ニヨリテ用ヘシ 是先生自ヒノ工夫ニテ

他家ニ知ラヌナリ也 可秘書也

・北結ハ 蠟ノ故水散リテ墨シムヤカニ見ユルモノ也

故ニ人々墨ヲ濃クスル也 然レ長 乾ケル水散リテ

ルモ墨ニ斗リ減ル也 故ニ墨ヲサシウスリシテ書クニレ

墨濃キハ方ニシキモノ也此書キニシキヲニテ印ニ書レハ書
思フ如クナラズ之レ書ノ法ニ背キテ良キ書出ス

・綿子又北綿ニ同シ 一撥糸ハ書ヤクモノ也

・布ハ生布ハシマヌモ也練或ハ曝シタハハシムモノ
也松ニテ綿モ布綿モ同キ也布モ絹モ練リ

タルニハ墨ニ融ヌハフノリヤシ和シテ書レハシマヌ也

・布綿ハモオシ也布ニ同シ

・穠ハ墨ニシム也板ニ酒ヲ引テ乾シ木賊ニテスリ
テ書ケハシマヌ也

・桐ハ木目アル故ニ墨ヲ書ケハ木目ニ墨不ク然レ

ヲ後ニ墨ヲ白シハ塗リメ見ユル也墨ヲ随テ濃クシテ

公等ニ墨ヲカシ合ヒモテ静ニ暹マハ木目ニ墨不ク也

・杉ハ木目方クシテ中平躍リテ木目ノ方中平墨

フトク低キ所ハ細ク大也墨モ墨ヲ筆ニシテ合ヒ

セテ静ニ暹マバシ低ニ共ニ均ニ成ル也

・厚板 附漆也

厚ハ糊墨ヲ漆至ヲ能ク得テ第一ニ糊墨ハ漆
ニテモ紙ニテモ拭ハハ漆色書モ又ハ厚ハケル物ナリ

モシ書換ニテ墨ヲトルトキハ己ノ指ニ唾ヲ付テ梅テ
其指ヲトクト拭ヒ又唾ヲ付テ梅テ然度モ如此ス
レハ為色モ不変ハケモセヌ也

清墨ハ拭テモハケヌ也此凡綿或ハ絹紙ニテ
拭ハハ為也香スル也故ニ右日前ニ心付テ
清墨ハ油ニ故墨ハレリテ散ル物也為板
上ニ紙ヲ一枚ノヘシテ其紙ノ上ニ紙ノ粉或ハ備前
ノ八木山石(世俗ヤケ山ト云)ヲケツリテ粉ニメ置ケハ油
氣少時角ニ紙ニウツリテ取レルモ也

朽木ハ柔ナル所トカクキ所トアル也節ノ所ハ堅
ク節ニ柔キ所ハ柔キ也柔カク所ハ此也堅キ所ハ此
マス故ニ柔カク所ハ柔ニカク付テ墨ヲウスクレシ
軽ク書クヘシ

晒木 日向

書キハ越ハカ柔カクメ能シカク笑マカ使ハト
ニハ堅キ紙多ク為線ハ書ク者乾ケハレハ寫
ル物也墨ヲウスメニシテ軽ク書ヘシ濃ケハレハ
ニ成ルモ也

・大工ハかなり別係ナシ久クヨリ葛ケハシホ有ル故
ツギ環リテ墨ヲ付ニクキぬ也 真ニテエリニテエカたヨ
オウ心持ニテ筆ヲツカフ一ニ真ナトヲシカクトオク
ハ要シキノ内ヲ采カニシテカクノ如クニ筆ヲ運フ
トキハ墨ヲヨク付ク也

・懶政ツ懶キ政也筆ノ毛コハ六角不持ニ
テヒラクトモサス又ニ也 兎毫ナトノ采カハ筆
ニテオクニ指ニテスゴクテオニクキぬ也
雲母 日分

・墨 詩文ト書クニハ唐墨色黒ク艶ニクシ
テ良シカナニハ初墨ノ紅粉ヲ執有テ善シク
墨色能シカナニ初墨ハ色艶ナクコックリ
トシテ不有也

・硯 大字ニハ大硯 幼字ニハ小硯 唐ノカ
法也 小学ニ大硯ヲ用シハ筆ニ墨付スキ
テ悪シ、小学ニハ小硯小墨ヲ用ヘシツレクノ
文字ノ大サニ硯墨共ニ相應タルヲカヘシ

・卦 象卦切按卦十禁中三位記ノ卦ニ用
二何三モル合用ニ位記ノ卦ト云ニ卦ノ字ヲ書

。後書

・年号支干 年号ハ名字少シ大キ書ク朱
文公ノ書ナトニ必多ク天子ノ徳号ナル故也故ニ行
書古ノ物書ララテニ書ク類ニハ大キニ書テヨシ
一 支干ヲ小字ニテ左右ニスナカヘテ書クノ目存
俗也唐ニ毎一也多ク正徳五年ニ末ト一行ニ

ツケテ書ク又正徳五年ニ末ト左右ヘロクニ合ケ
ニ書クノモアルナリ故ニ大抵支干ヲスナカヘテ小字
ニ書クノハスヘカラスルノ也

・姓名字号ハ名字様ノ次也传记碑文
等ニ姓ハ某名ハ某字ハ某号某ト如此次
序スル也印ヲ押ス世々モ可效ラズ号姓号ト書リ
コトモアリ

印

・ 関防ハ経書ノ語ニテモ古詩ノ句ニテモ必古人ノ語

ヲ離ルコト

私ニ作リテ離ヘカク堂ヲ軒ヲ簾ヲトテ離ルモア

レトモ唐ノ古人ノ印ニハ多ク古法ヲ用ユ

佛寺ノ額牌

・ 法堂ノ額ハ護法宮又祈禱ト書、黃蘗山ニハ

法堂ト書ク

・ 仙殿ノ額ハ東嶽山ニ仙洞ノ額筆ニ瑠璃殿

トアノ款也

・ 昭牌四ハ大法事ノ時座牌ノ圓也上ニ昭牌

圓ト横ニ書ク

・ 禁牌ハ不許酒肉五辛ノ門内ト凡ノ門前ノ

書也

・ 大減牌ハ自秋尊入減至正徳五年幾年

ト書テ堂ノ柱ニ掛ル也

・ 祈禱牌ハ位牌ニ作リテ今上皇帝聖躬萬

歳ト書ルハ牌也

雑記

・懐妊重 コレハ神ノ会懐妊ノ重子ヤウ也イワトモ

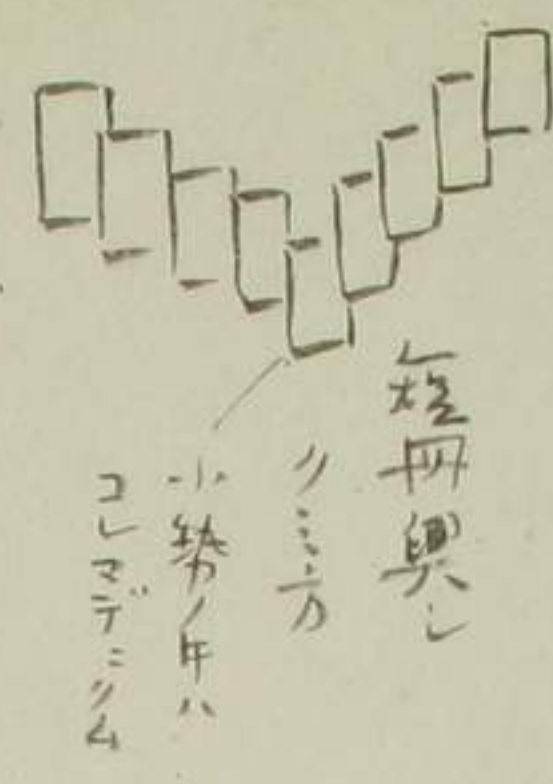
上座ノ懐妊ヲ上ニたヤウニ重ル也

・短冊興シ 短冊ノノミトモ也会ノ短冊三ツ折

ニシテ硯蓋ニクム也

・立タル物ニ書ク事 上ノ方ハ常ノ執筆ニ

良シ下ハソカヘテ書レタ物也故ニ身中筆ヲ取
ナラシ掌ヲ上ニシテ大指カニ指ヲカキニシテ握



管ニ書ク也

・墨乾キ兼ハ物ニ書ク事 一行者ニ少シノ

間待合セテ乾カセテ書ル人前ニモ同シ

額

・額ノ寸法ハ柱ヲ柱ニテノ間ニ間ノ所ニ横三尺

是ニテハ諸堂ニテモ座敷ニテモ恰好相應ニ見

スル也其内間ノ狭キ所ハ大アリニシテ間ノ廣

キ所ホト段々小ブリニスヘシ例ハ間四間ノ所

額六尺ノ長也無シ長六尺ニテハ大キ過テ見ル

況ヤ大堂或方丈ナド縁頼軒ノ長サ十間モ

テハ額一丈五尺ト九、サレハ大キ過テ不相應

也先ツ二間ノ所ハ三尺ト心得、四間ノ所ハ六尺

ノ曲尺ニハ不仕テ相應ニ小サクシ随分廣キ

間ノ所六七尺ノ曲尺ニハ一ノ堂ニテモ書院ニテ

モ一切此心得ヲ積ル

鐘ノ銘ハ何果寺鐘銘ト題ヲ書キ序ヲ

寫ク其キ銘ハ或四言ニテモ或言ニテモ一向ツ書

キリ間ヲ置テ次ノ句ヲ書也

楹額寸法

三字額 二間四方 二尺二寸 角折二

但次間取放或至五尺或至三尺者

二尺六寸

二字額 二間四方 二尺八寸 角折一半

或十六尺或及二十四尺者

三尺八

一字額 二間 一間半 一尺二寸 角折三分

但細字自十字至高字者

一尺五寸

角折一半

角折上額 四寸五分也

トリ角折三寸五分 横長

ハ四五ノ二倍ニ也

二間四方トハハ

三字額

横二尺二寸

四三二寸

角折二

二字額

横一尺八寸

四三二寸

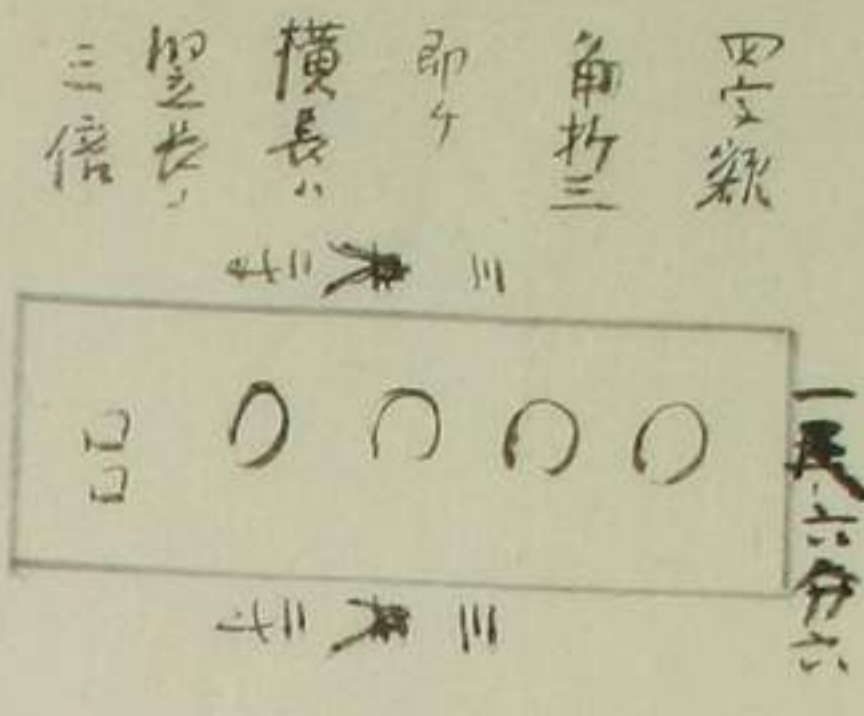
角折一半

一字額

横一尺二寸

四三二寸

角折三分



四字額 三間

自二十寸乃至三十五寸

三尺二寸

角折三

椽側

自八九間上二間者自三尺五寸至三尺八寸 角折二

堂六間梁

三天寺

角折二

山門仙殿

自十間至十五間

角折二

七尺五寸

一間二尺五寸積

自十間至二十五間

一丈一間五寸積

板額寸法四分一五分三分四分五分紙額縁ハ外之

右以間敷定之大概如此依篆隸真行草各
 体可有相稱寸法为存以立者横之半分也然以
 角折可知矣

○右書台内

三字額 二間四方 (此二間四方ハ其間ノ數ハ老也)
 二尺二寸 額ノ横寸法也

右兩件 後皆效之

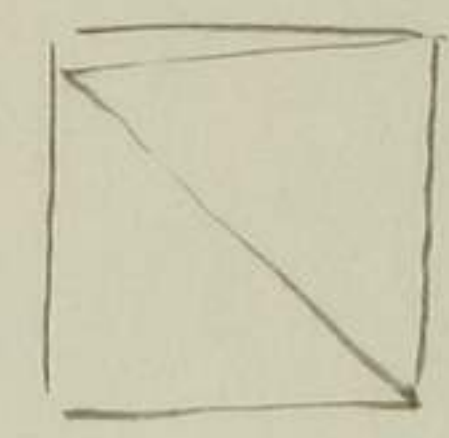
但次間取放 己ハ其間ノ狭ケレバ次ノ間ヲ取放
 障子ナラバテハ額間モ一ツニナリテ度ク見ユル也サレハ

額ノ横寸法ハ心行
 額ニ三尺二寸トスルハ
 尤チオク額ノ長サト
 同クソレトモ寺院
 額ノ市ラニテハ
 額ノ移ル額ノ高リ
 ノコトカ

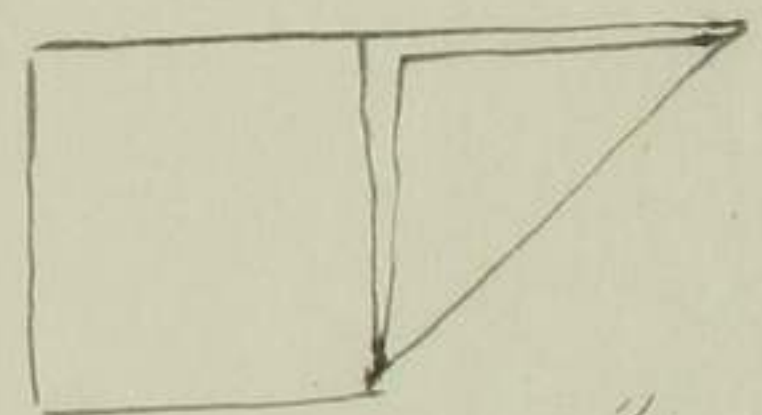
額モ小サク見ユル故不相磨也故ニ義額モ障子ヲ取放シテ廣クナル所ナラハ寸法大キニスル

・角折ニ スミノオリト云

角折ノ額ノ置テ法也

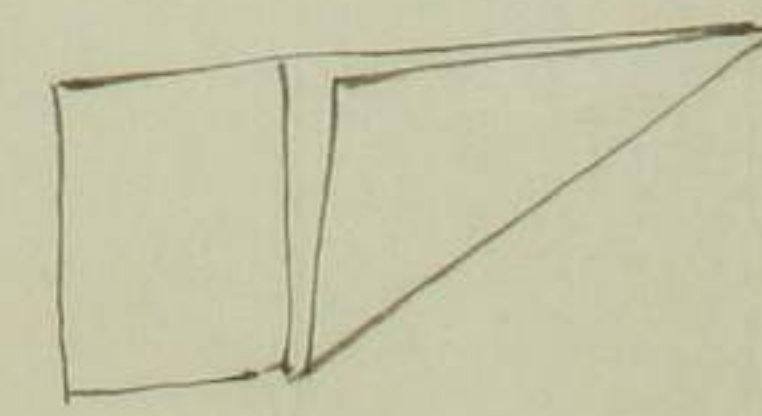
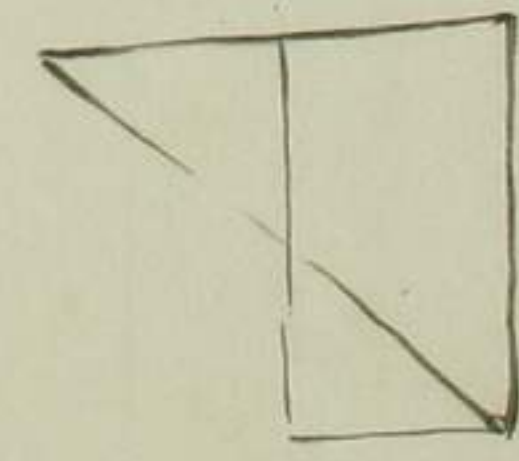


一半右ノ如左様
置テノ一ツ半分



角折ニハ如上

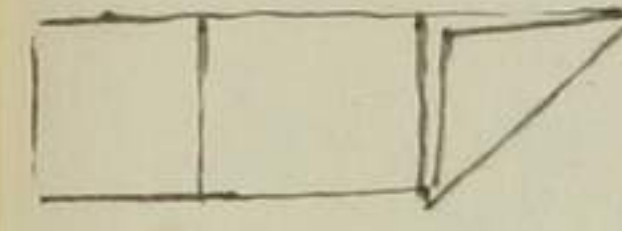
置テ横ノ半分
横ノ置テ一倍



角折幾ト云皆致之

角折三如此

置テ横三分之一



横ノ置テノ三倍

角折ヲ以テ定ル中ハ分寸ノ算教ヲ為ルヲ不待

ニテシカモ正シノ積リノ違ヒナシ故ニ角折ヲ以テ定ルトシ

一字額 二尺ニ一尺半、二尺ニ一尺半ハ六寸五分

ノ尺也内ニテ一字額ハ度キ所ニ之ク也或ハ尺尺

或リ圍ナトノ棟中ノ所ノ額也

細字自十字至十尺字

一字額ニ細字ヲ附也

十字ハ五言ニ向也 十言ハ七言ニ向ノ様也

榻側

エニハニ掛ルミノハ右ノ西ニ向キ北ニニヤ

総向教ヲ為テ定リシ

堂 六間梁

三間梁ニモテ左右ハ一間半

ツノシコ屋ヲ附ハ故ニ六間梁トス三間梁トス
其外ヲ或ハ引コメ或ハ下屋ナトミテ各別ノ屋ニ造
リタル所ハ三ノ梁ノ積リミテ額寸法ヲ定ム
・ 板額寸法ハ外一ヨリ内一ヨリ板ノ額フキト地板ノ
厚ニ由リ一ト云物アリ右ノ寸法ハ外一ヨリ内一ヨリ
テ地板計リ寸法也

